に諸方を廻らせたのに始まるといふ。

彌彦（やひこ）　▼國幣中社彌彦神社　北一粁、天香語山命を祀る。越後第一の名祠で參拜者の多いこと全國第四位である。末社十柱神社々殿は元祿七年（二四〇年前）の建築で國寶になつてゐる。境内に續いた彌彦公園は櫻、つゝじ、紅葉などがよい。彌彦山は神社から山頂まで約四粁、直ちに日本海に臨んで風光がよい。

加茂（かも）　▼青海神社　驛附近。

新津（にひつ）　四一三粁三　羽越線及磐越西線分岐點。上野から約十一時間半、附近に石油を產し、丸新、石崎、吉澤、奥田の各製油所、柄目木、小口、朝日の油田などがあり、年產額二百二十五萬圓、梨の產もあり年產額二萬七千圓に達する。その他生鰛を產する。

旅館　森清、梅屋、美好館。

龜田（かめだ）　梨及綿布の產あり、梨は年產額五十四萬圓、綿布は（通稱龜田縞）年產額百二十二萬五千圓。

新潟（にひがた）　四三〇粁三　上野から急行十一時間、信濃川の河口に位し日本海に臨み、市内には溝渠が縱橫に通じ、水運の便よく且つ水邊の柳は市を柳の都と呼ばせる程に風情を添へてゐる。寛文年間（二六〇年前）河村瑞軒が幕命によつて東北沿岸の航路を開いてからその寄港地として開け、昭和三年の貿易額は輸出千四百萬圓、輸入四千五百萬圓に及び今北越第一の繁華を呈してゐる。こゝでの民謠、おけさ、新潟甚句、越後追分などはよく世上に知られてゐる。

人口十二萬五千（四、一調）漆器、年產額五十六萬三百圓、佛壇年產額十萬三百二十圓、石油類、鐵器、肥料、雨傘、履物、綿織物、味噌、硫酸、疊、梨子などを產する。

新潟市内の見物すべきところとしては白山公園と日和山とで、白山公園は西二粁餘、自動車がある、信濃川畔にあり、園の西隅に白山神社があり、木造聖觀音一軀は國寶になつてゐる。又園内に勤王家武内式部の碑があり、近くに醫科大學、高等學校がある。日和山は西北二粁七、自動車がある、海岸の砂丘にあり眺望がよい。海岸一帶の地は砂防工事が施してある。眞宗門徒の神聖視する鳥屋野の倒竹は信濃川に沿うて西南六粁、俥あり、親鸞上人の遺蹟である。

旅館　篠田、大野屋、同支店、野口、室長、小甚、櫛清、菊地。

名物　梨の實、五穀糖、油香里。

佐渡島巡遊

（イ）三日間巡遊

第一日　午前六時半新潟出帆、同十一時佐渡兩津着、賃一等三圓、二等二圓五十錢、相川線に沿ひ明治記念堂、黒木の御所、實相寺、妙照寺、二宮神社、河原田町、澤根町を經て相川町着、この間約三〇粁。

第二日　佐渡鑛山見物（約三時間）澤根に引返し（二見に行くのはこゝから入る）河原田から赤泊に向ひ眞野宮、眞野御陵、國分寺、阿佛坊を經て新町着この間二五粁。

第三日　一宮の御墓、根本寺を經て夷港に至る。この間約一八粁、夷から正午出帆の船で新潟着が午

後五時である。

（ロ）五日間巡遊

第一日は（イ）と同じ。

第二日　鑛山見物の後小倉大納言の墓に詣で、澤根から二見に行き鴛鴦梅を見、午後五時澤根から小木町へ渡航する。海路三四粁、約二時間を要する、この間陸路をとれば一四粁。

第三日　小木地方見物の上、小木線に沿ひ小比叡山蓮華峯寺に詣で、眞野宮、眞野御陵參拜の上新町着、この間約三〇粁五、小比叡山に寄らねば二七粁。

第四日　國分寺、阿佛坊、檀風城址、三宮の御墓、一宮の御墓、長谷寺、根本寺を經て新穗町着、この間約二五粁。

第五日　新穗から夷に至り、約一一粁、正午夷乘船、午後四時新潟着、佐渡の名勝は主に順德天皇と日蓮上人とに關したものである。島内至るところ道路が修理され、自動車も定期に運轉してゐるから夫を利用すれば時日はいかやうにも短縮することが出來る。

佐渡の首都は相川町で金山のあるところ、鑛山は慶長六年以降（約三三〇年前）幕府の直轄として經營せられたが維新後官業となり、明治二十九年三菱に拂下げられ今日に至つたのである。金銀銅の產額八十萬圓に及んでゐる。

新潟縣廳は新潟市にあつて、越後、佐渡兩國を管轄してゐる。東には越後山脈が長く連つて朝日嶽、飯豐山あり、南には三國山脈聳え、西南には妙高、燒山の火山がある。海岸は砂丘で出入少なく、その間米山、彌彥山が聳えてゐる。

信濃川、阿賀川、荒川は縣下を灌漑し、その沿岸の平野には米を始め大豆、小豆の產多く、柿、梨、葡萄の產もある。平野の間の丘陵地には石油を產し、東山、西山、新津などの油田特に著はれ、長岡はその取引の中心をなし、柏崎には大なる製油工場がある。信濃川下流の小合にはチューリップ、ヒヤシンス、ダリアなどを栽培し之を海外に輸出してゐる。又その上流の小千谷、十日町は越後縮布や明石で著はれ、阿賀川流域の五泉も機業地として知られ、直江津は日本海の要津をなし、その南の高田は積雪地として名高く、スキーの製作が旺んである。佐渡の相川には古來有名な鑛山があり、金、銀、銅を產してゐる。

追分節　（越後）

順風吹けとは親方前よ
　碇卷く間に風かはせ。
蝦夷や松前やらずの雨が
　七日七夜も降れはよい。
今宵一夜は緞子の枕
　明日は出船の涙まくら。
裸で寒むかろ着て行かしやんせ
　わしが着替のこの小袖。

おけさ節　（越後）

來いと云ふたて行かりよか佐渡へ
　佐渡へ〳〵と草木もなびく
佐渡は居よいか住みよいか。
　波の上でも來る氣があれば
舟に纜もある櫂もある。

信越線

島の乙女の黒かみ戀し
　一度行きたや花の佐渡。
沖の漁火(あさりび)すずしく更けて
　夢を見るよな佐渡ヶ島。
おけさ踊らは板の間で踊れ
　板のひゞきで三味や要らぬ。
切りし前髪粟島さまへ
　あげて願ひは主のため。
姑かんなり様、稻妻小姑
　嫁がさつきで雨となる。

新潟名所節

新潟名所はさまざまござる、四方を見渡す日和山、沖の洲崎に出船入船、下町女郎衆に、島女郎衆、二三小意氣で五六全盛、坂内小路(ばんないこうぢ)のにぎやかさ、寺町通れば、コレサ阿兄(あにや)そん寄りなれや。

羽越線

一　羽越本線　秋田(あきた)、新津(にひつ)間　二七一粁七
一　赤谷線　新發田(しばた)、赤谷(あかたに)間　一四粁一

その本線は奥羽本線秋田から南に分れ酒田、鶴岡村上、新發田を經、こゝで赤谷線を岐け新津に至り信越本線及磐越西線に接續してゐる。汽車は殆んど日本海沿岸を走るので、到る處風光美に富み特に日本海に据を曳いて西奥羽に君臨する鳥海山(てうかいさん)の秀容は幾度か車窓の眺に入る。三瀬(さんぜ)から南方鼠ヶ關(ねづがせき)を經て越後に入り村上に至る間は越後山脈の海に迫る間を縫うて走り琴平岩(ことひらいは)、暮坪(くれつぼ)ノ立岩、鼠ヶ關の辨天島、海府浦(かいふうら)、笹川流(さゝかはながれ)など幾多の海岸美に、應接の遑もない程で、遠く彼方には粟島(あはしま)が夢のやうに横はり共に車窓の眼を樂しませる。村上から南は蒲原(かんばら)平野を走り飯豊(いひで)山を左に望みつゝ新津に着く。

列車は青森からこの線及信越、北陸、東海道の三線を通じて裏日本を縦走し大阪に至るもの二回、内一回は急行である。その間急行二十四時間半、普通三十時間、青森新潟間十二時間、秋田新潟間六時間。

秋　田（あきた）　奥羽本線參照。

羽後牛島（うごうしじま）　太平川(たいへいがは)を隔てゝ秋田市の南に接する米の集散地、又藁工品を産する。

下　濱（しもはま）　直ちに海に臨み海水浴によい。旅館　工藤、下濱舘。

道　川（みちかは）　直ちに海に面して海水浴に適する。
旅館　道川館、潮館。

羽後龜田（うごかめだ）　龜田町はもと岩城(いはき)氏二

萬石の城下、驛から北約三粁にその城址がある。

羽後岩谷（うごいはや）　▼赤田の大佛　驛の南約二粁、正法山長谷寺（曹洞宗）にある。

羽後本莊（うごほんじやう）　横莊鐵道（羽後本莊、前郷間一一粁七）接續點。

本莊は子吉川の左岸にあり、その日本海に注ぐところを古雪港とす、もと六郷氏三萬石の城下、城址は今公園となつてゐる。　旅館　小園、小松。　名物　桑酒。

羽後平澤（うごひらさは）　驛附近を琴ケ浦海水浴場といふ。　旅館　山錄。

金浦（このうら）　西一粁に沖の島海水浴場がある。　旅館　若松屋。

象潟（きさがた）　驛附近は海水浴に適する。　旅館　秋田屋、岡本屋。

▼**象潟の跡**　驛の東及北に連る水田一帯はもと淺い灣で象潟といひ、その風景美は古から著名なところで芭蕉もこゝに遊んで「江の縱横一里ばかり俤松島に似かよひて又異なり松島は笑ふが如く象潟は怨むが如し」といつてゐるが、文化元年（約一三〇年前）の地變のため灣底隆起して水涸れ島殘りかく田圃と變じた。

▼**蚶滿寺**（干滿珠寺）（曹洞宗）　驛の北二粁、芭蕉の文に「この寺の方丈に坐して簾を捲けば風景一眼の中に盡く南に鳥海天をさゝへその影うつりて江上にあり」といふ寺で境内に芭蕉の「象潟や雨に西施が合歡の花」の句碑や能因の腰掛石、西行櫻などがある。　金浦から象潟に向ふ汽車はこの寺の近くを過ぎ車窓から島々を見越して鳥海の秀峰を仰ぐ。

吹浦（ふくら）　北半粁に國幣中社大物忌神社

吹浦口ノ宮がある。　旅館　吹浦ホテル、鳥海ホテル。　▼湯の田鑛泉　西北一粁半、炭酸泉で胃腸病、婦人病、リウマチス、痔疾などによい。日本海に臨み附近に釜磯、西濱兩海水浴場がある。　旅館　能登屋、酒田屋。

鳥海山　鳥海山は山容秀麗、出羽富士と呼ばれ海拔二、二三〇米、山上中央火口丘に國幣中社大物忌神社がある。祭神は大物忌神、毎年五月十二日の山開から九月二十日の山閉まで、白衣の行者絡繹として參詣する靈山で、登山口は四ある。

（一）　吹浦口（二〇粁）口ノ宮を經て大平坂、傳石坂を通つて川原宿で小瀧口登山道に合し鳥ノ海御濱神社を經て頂上に至る。

（二）　蕨岡口（三七粁）登山者の多數が選ぶ登路である、遊佐驛から蕨岡まで東南五粁、夏期のみ自動車がある。　こゝに蕨岡口ノ宮あり九百餘階の磴道によつて達する。　清水坊、玉泉坊などの僧坊は登山者を宿泊させる、半途槇堂までは駄馬の便があり、薊坂八丁坂などの嶮はあるけれども途中一般に變化多く河原宿には高山植物園があり、笹小屋も四ケ所あり、飲料水も豐富である。

（三）　小瀧口（三七粁）秋田方面からの登路で途中に奈曾瀧がある、四登山口の中最捷徑路で笹小屋は一つもないが急坂もなく飲料水豐富である。　河原宿で吹浦口と合ふ。

象潟驛から小瀧まで約五粁。

（四）　矢島口（二三粁）羽後本莊から分岐する横莊鐵道の前郷驛から矢島町までは南一四粁、自動車がある。　矢島町は子吉川の上流にあり、もと生駒氏一萬五千石の城下、こゝから山路五粁餘祓川までは駄

馬の便がありこゝには小屋場があつて七八月は宿泊が出來る。頂上へは四粁半。

以上何れの登路を選んでも早曉出立して七高山、新山に登り兩山の谷間にある大物忌神社に詣でゝ宿所に入り、翌朝七高山或は新山で朝日を拜して歸途につくのが例である。

新山の邊は風光雄大、新山を見ねば登山價値を半減するといふ位で御來光の壯觀亦人の嘆賞するところである。

冬は雄大な裾野一帶はスキーに好適で小瀧附近は秋田方面の人で賑ふ。四月下旬まで約一〇粁の長大な滑降が出來る、頂上附近は常に氷結してゐる。

遊佐（ゆざ）　大物忌神社蕨岡口ノ宮は東南五粁。▼戴邦碑　西北二粁、玉龍寺境内にあり天保年間庄内藩酒井氏長岡へ移封の命を受くるや、領民大擧して出府强訴してその命を取消さしめた時の上下倚信の情を語るものである。

酒田（さかた）　一〇四粁八　最上川の河口北岸にある港町。人口二萬八千古くから著はれた商業地で米の集散盛んに行はれ國立米穀倉庫がある。驛の西南一粁半の山居にある酒田米穀取引所に附屬する山居倉庫は一に米券倉庫とも稱してその米券法は全國の模範となつてゐる。

港口は最上川の土砂堆積して水淺く大船の碇泊に適しない憾みがあるが、築港事業漸く進捗して鐵路の便と共に水陸相俟つて今後一段の隆昌を見る將來を有してゐる。

▼日和山公園　驛西二粁、砂丘上に位し松樹多く、西は日本海、南は最上川を望み展望が佳い。▼縣社日枝神社　西約一粁半。▼鄉社光丘神社　西一粁半

本間四郎三郎光丘を祀る。光丘は酒田港改修工事、農政改善、防砂殖林事業などの大きい功績を遺してゐる。

旅館　酒田ホテル、中川屋、村上屋、三浦屋。

名物　栃餅、核無柿。

▼飛島　西北三八粁の海上、飛島本島、烏帽子群島及御積島などから成る。御積島はうみねこの棲息地になつてゐる。全島漁獵を業とし酒田、加茂、吹浦象潟などと交易して生計を立てゝゐる。

▽おばこ節　（羽後）

おばこくるかやと　田圃のはんづれまで
出て見たば　コバエテコバエテ
おばこきもせで　用もない烟草賣など
ふれて來る　コバエテコバエテ。
酒田山王山で海老コと鮴コと角力
とつたれば　コバエテコバエテ
海老コなしてまた腰やまがつた鮴コと角力とつて
投げられてそれで腰まがつた
コバエテコバエテ。

余目（あまるめ）　一一七粁　陸羽西線分岐點

鶴岡（つるをか）　一三二粁三　庄内電鐵（鶴岡、仮湯野濱溫泉間一二粁一）接續點。もと酒井氏十二萬石の城下で庄内平野の中心にある。羽二重を產し織物工場が多い、人口三萬七千。

▼鶴岡公園　西南二粁、市の中央にあり、酒井氏の舊城址で、その本丸址に藩祖忠次、家次及忠勝を祀つた縣社莊内神社がある。蓮及櫻の名所である。▼本住寺（日蓮宗）　南二粁、市内七日町にあり、加藤忠廣及從臣の墓がある。

旅館　伊勢屋、鶴岡ホテル。

名物　栃餅、平核無柿、民田茄子、竹筌(筌器)、味淋漬。

▼梵字川(ぼんじ)の渓谷　南約二〇粁、途中一六粁落合まで自動車五十錢、上名川から大網橋まで四粁の間、絶壁、奇巖などで具に渓谷の美を現はしてゐる。楢、椚、楓などの巨木が繁り大網橋附近殊に紅葉がよい　旅館　加茂屋、佐藤屋。

▼新山(にひやま)温泉　西南六粁自動車の便がある。リウマチス、皮膚病、痔疾などによい。旅館　石川屋、主として自炊制である。

▼湯田川(ゆだがは)温泉　西南八粁半自動車の便がある、山中の落着いた温泉場で神經諸病、眼病、婦人病などによい。

旅館　靈泉閣、神泉閣、外十數軒。

▼國幣小社出羽(いでは)神社　東一六粁、自動車がある、出羽三山の一嶺羽黒山にある。祭神伊氐波神、昔は熊野(くまの)、金峯(きんぷ)、白山(はくさん)など〻相對して東北無比の神社であつた。(出羽三山陸羽西線狩川驛參照)

▼筍(たけのこざは)澤温泉　東一四粁、途中手向(たうげ)まで自動車、それからは駄馬の便がある。創傷、胃腸病、リウマチスによい。旅館　滋生屋、自炊制が主である。

いざや卷　(羽前鶴岡)

いざや絲竹、調べの遂ふて、波の鼓も拍子をそろへ、豐(ゆたか)なる世のたのしさよ。

頃は三月、白帆が見える、先は大黒、中惠比須丸、後はよろづの寶船。

羽前大山　(うぜんおほやま)　大山町は庄内平野の西南部にあり、醸造業が盛んでいはゆる大山酒の産地。

▼縣社相尾(すがを)神社　北二粁半、宮山といふ丘の上にあり自動車がある。鎌倉時代から領主の崇敬があつた。▼龍澤山善寶(ぜんぱう)寺　北三粁半自動車がある。約一千年前妙達上人の開基と傳へ、高館山(たかだてやま)の麓から中腹にかけて多くの堂塔伽藍參差としてゐる。寺に祭祀する龍王龍女の靈驗あらたかなりとして大漁や航海安全を祈るために、遠近から集る詣者毎年十萬を越えるといふ。

▼湯野濱(ゆのはま)温泉　西北七粁、自動車及庄内電鐵の便がある。日本海に面し、浴泉と海水浴とを兼ねた海岸温泉で昔から奥羽三樂郷として上ノ山(かみやま)、東山(ひがしやま)の兩温泉と共に謳はれた地である。

旅館　龜屋、ゑびす屋、湯濱ホテル、岩本屋。

三瀬　(さんぜ)　▼由良(ゆら)海水浴場　東北三粁半自動車二十錢。

旅館　麻生館。

温海　(あつみ)　驛の附近に不動島海水浴場、驛の南半粁に平島海水浴場があり、温海川を挟んで相對してゐる。

旅館　三國屋、柏屋。

▼暮坪(くれつぼ)の立岩　北三粁自動車あり、車窓から眼近に見られ直立一五〇米玄武岩の柱狀節理が露はれてゐる。

▼温海(あつみ)温泉　東南二粁半、自動車二十錢、温海嶽の麓、温海川畔にある温泉で、腺病皮膚病婦人病リウマチス胃腸病などによい、大清水(おほしみづ)、湯見(ゆみ)ケ龍、紅葉(もみぢ)ケ岡(をか)、長德寺(ちやうとく)、熊野(ゆや)神社などの好散策地がある。

旅館　橘屋、温海ホテル、鶴屋、壽屋、柏屋。

名物　漆器、栃餅、粟蒔き、元祿餅。

鼠ケ關　(ねづがせき)　北陸道から羽州に入る首驛として古くから知られ、もと念珠關(ねんじゆせき)といつた處、

關川の邊に念珠關址といふがある。町は辨天島を前に控へた風光明媚の鼠ヶ關港に面してゐる。附近は戊辰戰役の戰場である。

▼辨天島　西北二粁、滿潮時は波に泛ぶ眺望のよいところ。

旅館　村上屋。

勝木（がつき）　勝木川口にあり橋南谿にまつて名高い葡萄峠越の國道は川口に沿うて東南に向ひ川口の寢屋濱には鋒立といふ柱狀の奇岩が聳立してゐる。

桑川（くわがは）　勝木、桑川間には笹川流れ遊覽客のために遊覽船が通つてゐる。

旅館　笹川ホテル、龜屋。

▼笹川流れ　勝木川口以南三面川以北の海崖を海府浦といひ、その間山嶺は全く噴出花崗岩より成つて奇景をなし、その中心部を笹川流れと呼ぶ。桑川驛の南一粁半の鳥越山から北方越後寒川驛の西南半粁餘にある狐崎までの延長九粁餘の海上がそれでこの間遊覽船で三時間位かゝる。指定の名勝である。

村上（むらかみ）　もと內藤氏五萬石の城下、町は門前川の左岸臥牛山の麓にある。臥牛山上の城址は東二粁。山邊黑織、鮭、漆器の產があり、漆器は堆朱堆黑で各方面に珍重せられ米國方面へも輸出する。

旅館　赤子、渡邊。

▼瀨波溫泉　西南二粁自動車の便がある。明治三十六年石油井鑿掘の目的で掘つたものから熱湯が噴騰して爾來今日まで繼續噴出してゐる。リウマチス、皮膚病、胃腸病などによい。旅館　萩野屋、三島屋、吉田屋、養眞亭。

泉溫波瀨

加治川の櫻

▼粟生島遊覽　粟生島は瀬波港から海上二八粁半、周圍一六粁、島中二村百餘戸、四面絶壁に圍まれ暗礁が並んで風光がよい。

坂町（さかまち）　▼乙寶寺（眞言宗）　西五粁　大日如來坐像、阿彌陀如來坐像、藥師如來坐像及三重塔は國寶に指定されてゐる。▼湯澤温泉　東南一三粁自動車の便がある。皮膚病、痔疾、リウマチスなどによい。旅館　高橋館、桂屋、山城屋。▼高瀬温泉　東南一四粁、自動車の便がある。神經諸病胃腸病、婦人病などによい。旅館　竹屋、米澤屋、大黒屋。▼鷹ノ巢温泉　東南一六粁自動車の便がある。神經諸病、婦人病、リウマチス、胃腸病などによい。旅館　鷹巢館。

加治（かぢ）　▼菅谷不動（眞言宗）　東八粁半　新發田驛から東北九粁、明王護國寺と稱し或は菅谷寺ともいふ、新潟縣下著名の靈場で參籠者が多く殊に眼病者が絶えない。

新發田（しばた）　二四五粁七　赤谷線分岐點。もと溝口氏十萬石の城下、木崎梨といふ梨を產し大粒なので知られてゐる。旅館　材甚、長谷川。▼加治川堤の櫻　西北七粁、花時には自動車がある。加治川の堤防延長一七粁の間兩岸に櫻樹が連り北越第一の花の名所、觀櫻の中心は眞野原の水閘附近である。

赤谷線

五十公野（いじみの）　▼二王子岳　東直線距離一三粁、海拔一、四二一米、登山口は西麓の田貝で驛の東七粁半、山腹に二王子神社、更に登る

につれて一王子神社、三王子神社（頂上）がある。信仰による登山者が多く尚山頂の展望がよい。

赤谷（あかたに）　▼赤谷鑛山　東南九粁、雲母鐵鑛を産する。

天王新田（てんのうしんでん）　▼月岡温泉　東四粁半自動車あり、皮膚病、リウマチス、胃腸病によい。旅館　月岡館。

水原（すゐばら）　附近は越後米及大豆の主産地。▼出湯温泉　東九粁自動車あり、今板、村杉と共に一温泉郷をなし皮膚病胃腸病によい。▼村杉温泉　東一一粁自動車あり、リウマチス、婦人病、胃腸病などによい。旅館　荒木、長生館、角七。▼今板温泉　東九粁、出湯と村杉との中間にあり自動車がある。リウマチス、婦人病、胃腸病などによい。旅館　湯本館、長谷川館。

新津（にひつ）　二七一粁七　信越本線磐越西線接續點。（信越本線參照）

白挽頭　（越後）

加治川と姫田川さへ落合ひますが
わしと殿さは、いつ逢うたけや忘れはてたや。
旦那様にお願がござる、若い稻こき置いて下されば、
早稻田のすがれた稻をしめてかります四十五十と。

奥羽線

一	奥羽本線	福島、青森間	四八七粁四
一	米坂線	米澤、今泉間	二三粁〇
一	長井線	赤湯、荒砥間	三〇粁六
一	左澤線	山形、左澤間	二六粁二
一	生保内線	大曲、生保内間	三五粁五
一	船川線	追分、船川間	二六粁六
一	能代線	機織、岩館間	二九粁一
一	五所川原線	川部、陸奥赤石間	四九粁八
一	黒石線	川部、黒石間	六粁六

その本線は東北本線福島驛から分岐し、板谷峠を横斷して米澤を指す。その間は本線工事中最も困難であつた處で、十餘の隧道を穿ち、山愈深き處、赤岩、板谷、峠、大澤の四驛を置いてある。古來峻嶮無比旅客の最も難所とした米澤入りの道も、今は車窓溪谷を臨み、岩石の奇、山路の曲、變轉果しない自然の大畫幅を繙きつゝ、容易にその嶮路を越え得ることゝなつたのである。

米澤からは鐵路國道に沿うて山形、新庄を經て秋田に行く、その間出羽の三山及鳥海山を望む。鳥海山はいはゆる出羽の富士で、その山容の雄偉壯麗なる、津輕の岩木山と共に西奥羽を旅行した人のながく、忘れ得ないものゝ一つである。

秋田から汽車は八郎潟に沿うて走り、風光の美、相次いで車窓に入る。機織から線路は右に折れて、米代川に沿うて展ける平野の間を走る。二ツ井驛のあたり、對岸七座の奇峯聳え、河流屈曲して山光と相

映じ、風色頗る佳である。

大館を後にすれば、汽車はやがて矢立の山中に入る、こゝは羽後、陸奥の境で、下内川は之から南し平川は之から北に流れ、大鰐に至るまで渡ること前後六回、溪山の勝また捨てがたいものがある。

弘前に至れば岩木山の秀容、巍然として雲表を摩してゐる。それから汽車は津輕平野を走り、大釋迦から津輕坂の險を過ぎて青森に至つて止まる。列車の運行は本線を通じて上野青森間相互直通列車三回内一回は急行約二十時間、普通約二十三時間半を要し、福島、青森間急行約十五時間を要する。

奥羽本線

福島（ふくしま）　東北本線參照。

庭坂（にはさか）　驛附近は梨の產地で年產二十五萬圓に達し、東京、名古屋、大阪、北海道方面へ送出され、水氣が多いのと甘味に富むのとで好評を博してゐる。

吾妻登山とその山麓の溫泉廻り　吾妻山は福島、山形の二縣に跨り、東吾妻山（一、九七五米）、吾妻富士（一、七〇五米）、一切經山（一、九四九米）の三山が鼎立狀をなした火山群の總稱で、明治二十六年爆發後數回の活動あり、今尙一切經山の東南面から白煙を噴いてゐる。登山は庭坂よりし、驛から西八粁の信夫高湯溫泉に行く、姥堂を經て溫泉へ二粁半、手前の砥石山まで自動車が行く。旅館　安達屋、

吾妻屋。一泊の上吾妻登山をなし、高湯から約四粁の微溫湯溫泉に浴する、旅館　微溫湯旅館。ここから吾妻小富士、一切經山は四粁餘である。

翌日は微溫湯から約四粁の土湯溫泉に拔け、更に土湯から約一〇粁め嶽溫泉に浴する、この間は山路で徒歩を要し、參謀本部の地圖が必要である。嶽から東北本線の二本松驛までは約八粁、自動車がある。

以上の行程は四日又は五日で足りる。土湯から約八粁、西して野地溫泉に出れば、耶麻地方の溫泉を巡つて磐越西線の川桁驛に出られる。

板谷（いたや）　▼五色溫泉　西南約三粁、駕籠（上り一圓七十錢、下り一圓六十錢）がある。荷物運搬人もゐる。（一八瓩八まで四十錢。三七瓩まで五十錢）吾妻山の北側中腹、海拔九〇〇米の地點にあり、婦人病に效き子供の出來る湯として名高い。溫泉附近にスキー練習場がある。十二月下旬から三月下旬まで二米內外の積雪があり、溫泉を中心とする吾妻山一帶は有數のスキー地として賑ふ。山小屋、六華倶樂部の倶樂部ハウスなどもあり、秩父宮殿下を初め各宮殿下が度々御練習になられた。

旅館　宗川。

▼新五色溫泉　西南約三粁半、駕籠賃など五色と同じ、五色への途中から分れて行く。婦人病によい。

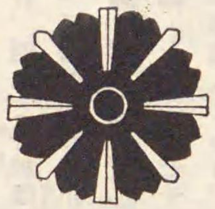
旅館　佐藤館、子金館。

峠（たうげ）　名に負ふ通り峠の頂上で海拔約六六〇米。初夏新綠の大觀がある。▼滑川溫泉　西南四粁、坂路で徒歩を要する。胃腸病、脚氣、リウマチスなどに效く。紅葉が美しい。旅館　福島屋。

▼姥湯溫泉　西南八粁、效能滑川に同じ、自炊制を主とする。旅館　桝形屋。滑川溫泉からここまで四

粁、道は松川に沿ひ優れた紅葉美がある。

米澤（よねざは）　四三粁　米坂線分岐點。米澤市はもと上杉氏十五萬石の城下で人口四萬七千（三、一二調）を有し、米澤織及人造絹絲の産地として知られてゐる。産物にはその他櫻桃、酒、米、生牛などがある。



市内の見物は二、三時間もあればよい。

▼松岬公園　西約二粁餘　米澤城址で入口に上杉鷹山を祀つた縣社松岬神社があり、中央に別格官幣社上杉神社がある。明治四年の創建で、藩祖上杉謙信を祀り、古文書、武器、佛畫、經卷など國寶が多い。

▼市役所、物産陳列館　公園の東約五五〇米。▼林泉寺　西南約二粁半、市中第一の巨刹で怪傑直江兼續の墓がある。この近くに高等工業學校がある。

▼佐氏泉公園　西北三三〇米、佐藤清水ともいひ、園内に泉水が湧出し、傳說によれば佐藤莊司正信の別莊とした處で、その子繼信、忠信の產湯の泉であるといふ。

旅館　音羽屋、東洋屋、茜屋、武藏屋。

小野川溫泉　西約九粁、自動車六十錢。積雪中は箱橇を用ゐる。胃腸病、婦人病、皮膚病などによく、小野小町發見といふ傳說がある。旅館　小野川ホテル、扇屋、登府屋。

▼白布高湯溫泉　小野川から尙一〇粁進んだ處、俥の便がある。自動車は貸切のみ行く。婦人病、胃腸病などによい。

旅館　東屋、中屋、西屋。

名物　（米澤）牛肉、常盤漬、時雨の松（菓子）、鯉。

米坂線

將來今泉から小國を經て新潟縣に出で羽越本線の坂町に達する豫定である。

西米澤（にしよねざは）　▼成島公園　西北二粁、八幡神社背後の丘上にあり、舊藩時代には上杉家の遊覽所であつた。

羽前小松（うぜんこまつ）　驛の所在地小松町は地方養蠶業の中心地並物資の集散地である。

糠ノ目（ぬかのめ）　高畠鐵道接續點。

高畠鐵道　糠ノ目、二井宿間　一〇粁六。

高畠（たかはたけ）　▼龜岡文殊堂　約三粁　日本三文殊の一で本堂、仁王門、鐘樓がある。別當は大聖寺で眞言宗別格大本山、四月二十五日と九月二十五日とが緣日である。

赤湯（あかゆ）　長井線分岐點。▼赤湯溫泉　東約二粁、自動車十錢、積雪の際は箱橇を用ゐる。胃腸病、婦人病、痔疾などによい。後山烏帽子山は偕樂園と呼び八幡神社があり、櫻の名所である。近くに白龍湖があり、蕗菜を產する。溫泉の北約一粁に取上坂スキー場がある。季節は一月から三月まで。

旅館　御殿守、丹波館、丹泉ホテル、大文字屋、櫻湯。

名物　蕗菜、石燒唐辛、葡萄。

長井線

宮內町（みやうちまち）　驛附近には製絲工場が多い。▼雙松公園　東北一粁半、米澤盆地を見渡して眺めがよい、又園内に櫻が多い。

長井（ながゐ）　長井紬俗に米琉の主產地。

▼久保櫻（くぼざくら）　東南四粁、一に阿玉櫻（おたまざくら）ともいふ、彼岸櫻で根元の周圍八米、高さ一二米、指定の天然記念物であるある。

荒砥（あらと）　蠶業の盛なところ、尙こゝでも長井紬を產する。

中川（なかがは）　▼中山の葡萄園　四粁、歐洲種の適地で栽培反別三、〇〇〇アール（三十町歩）。

上ノ山（かみのやま）　▼上ノ山溫泉　西半粁乃至二粁、古くは鶴脛（つるはぎ）ノ湯（ゆ）と稱し、胃腸病、貧血症などによい。奥羽三樂鄕の一といはれ、もと松平氏三萬石の城下で町の西丘月岡（つきをか）城址は眺望がよい。溫泉場の附近に澤庵（たくあん）禪師の春雨庵（はるさめあんし）址がある。寛永六年（約三〇〇年前）禪師は幕府の忌諱に觸れこの地に謫せられ謫居四年で宥されて歸つた。

旅館　米屋、村尾、月岡ホテル、瀧澤屋、湯元屋、中村屋、寒河（さがえ）江屋、龜屋。

名物　紅柿、干柿、まんぢう、麻布紙。

金井（かなゐ）　▼最上高湯（もがみたかゆ）溫泉　東南一〇粁夏季山形から自動車の便がある。龍山（りゆう）と藏王（ざわう）山との中間に位する山腹にあつて避暑の好適地。腦病、消化器病、呼吸器病などによい。硫黃氣が盛んで東北の草津ともいはれる。

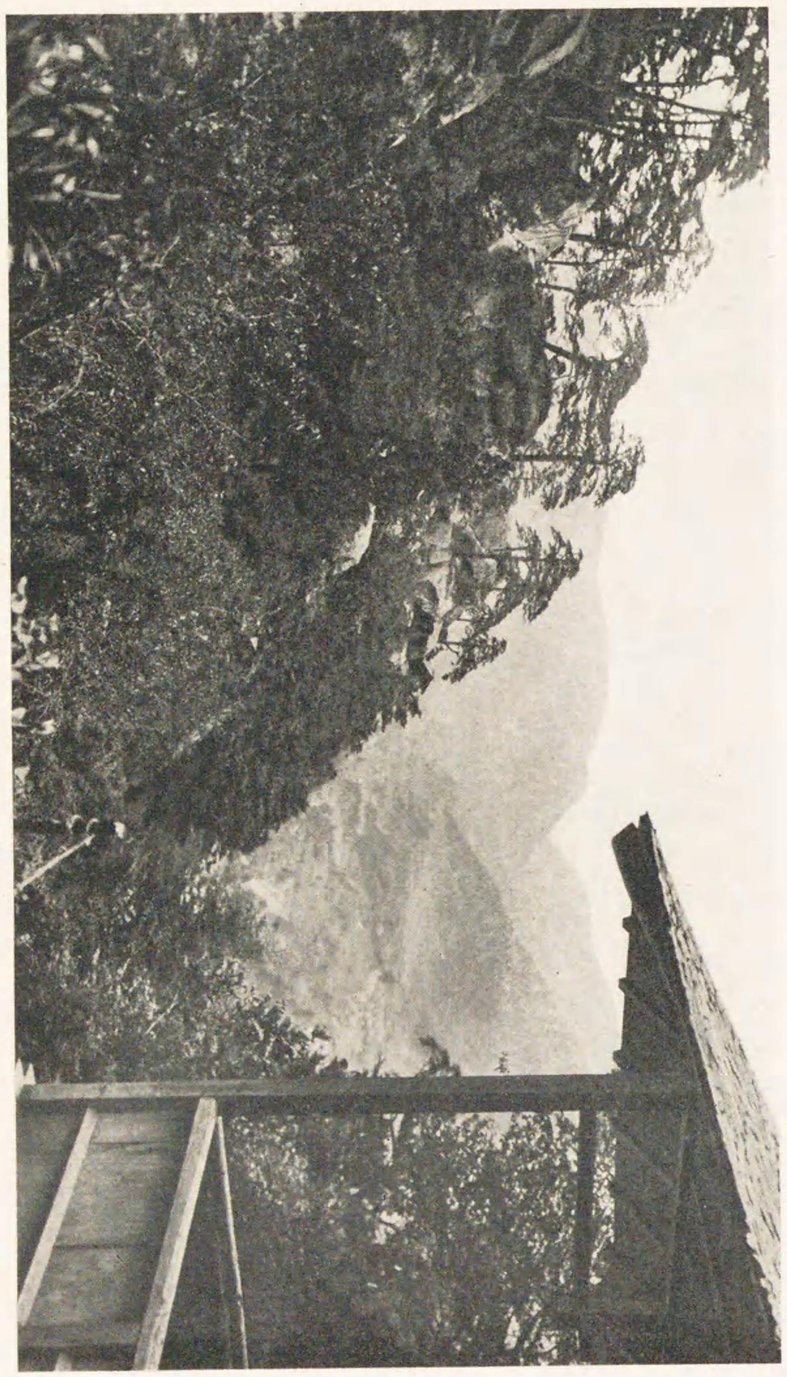
藏王（ざわうざん）山へは九粁でその最高峯熊野岳に登れる。冬はスキー登山が盛んで山形高等學校の合宿小屋などがある。山を越えて東麓の青根（あをね）、遠刈田（とほかつた）方面の諸溫泉を巡ることもできる。

旅館　山形館、柏屋、海老屋。

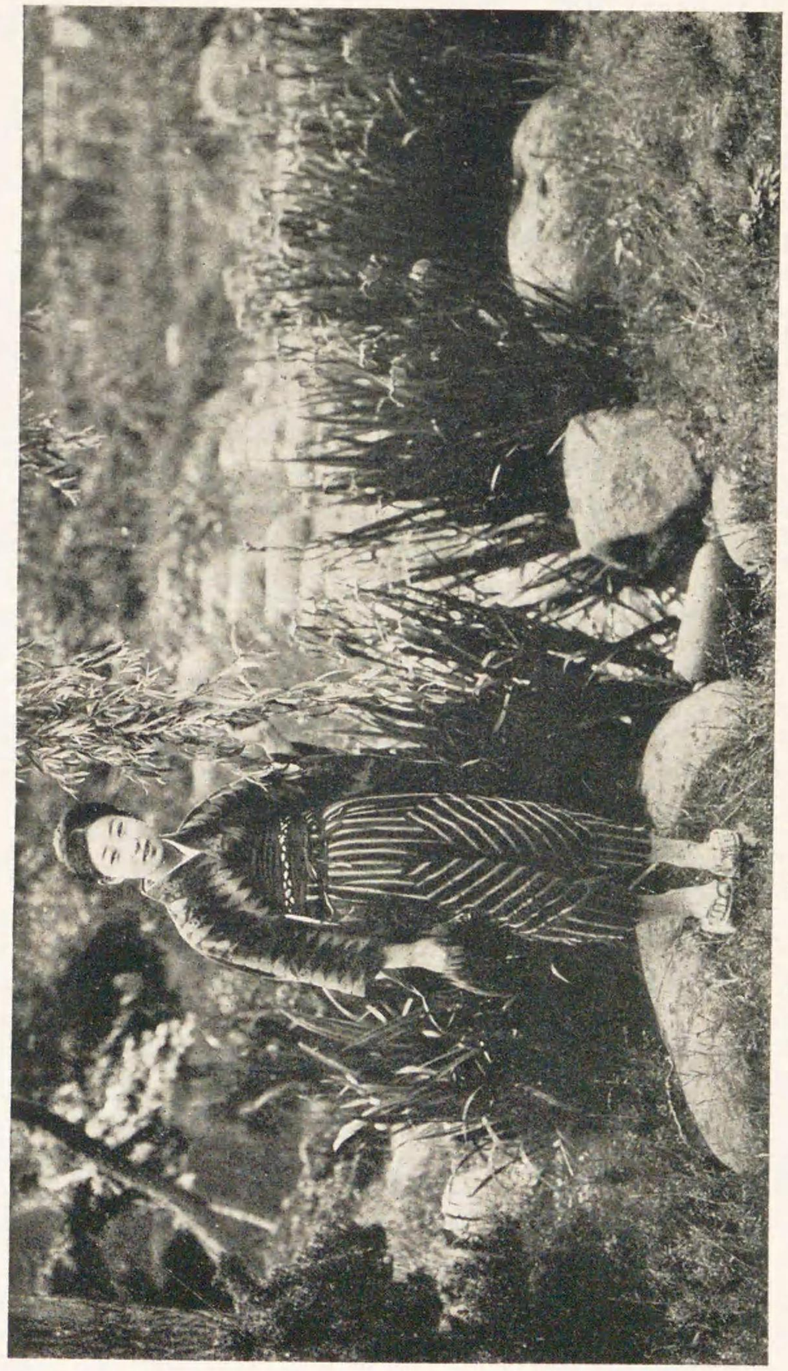
名物　湯ノ花、木細工。

山形（やまがた）　九〇粁　左澤（あてらざは）線分岐點。

福島から三時間、山形市はもと最上（もがみ）といひ、もと



寺　三



山形地方婦人のモンペイ姿　東根温泉

水野氏五萬石の城下で高等學校があり、人口六萬一千（三、一二調）。朧月餅、千歳燒、櫻桃、桐紙、銅鐵器、熨斗梅、甘露梅、やたら漬、黑柿細工、薄荷、生鯉、皐月などを產する。▼六椹八幡神社　東南二粁、境內に地上約一五米の椹の大木がある。▼千歳公園　東北三粁、公園の中央に國分寺藥師堂、北部に招魂社、競馬場などがある。▼萬松寺（天台宗）東北約五粁、千歳山の北麓にある。慈覺大師の開基と傳へ、細井廣澤の扁額や阿古耶姫の碑がある。▼山形城址　北八〇〇米、霞ケ城とも稱し、外濠、土壘などが殘つてゐる。▼最上義光墓　東南一粁半曹洞宗光禪寺の境內にある。▼山寺立石寺（天台宗）東北一五粁、自動車五十錢、貞觀二年（一、〇七〇年前）慈覺大師の開基と傳へ、東北に於ける名刹である。寺は山の中腹にあり、全山奇岩怪石累々として重疊し、紅葉の頃は風景が殊に美しい。

根本中堂、如法經所碑、藤原道長が大和の金峯山に納めた金銅製の經筒などは、皆國寶に指定されてゐる。

旅館（山寺）山寺ホテル、高砂屋。

旅館（山形）後藤屋、柴田屋、杉山館。

山形縣廳は山形市にあつて、羽前國及羽後國の一部を管轄してゐる。奧羽山脈東境に連り、西部亦山脈連亙して鳥海山、月山などあり、兩山脈の間には米澤盆地あり、最上川貫流して北し、日本海に入る。川の下流の庄內平野には米

の産多く、酒田がその集散地となつてゐる。山形附近からは櫻桃、葡萄、薄荷を出し、米澤は養蠶機業の業盛んに、米澤織の名、夙に世に聞えてゐる。

左澤線

羽前高松（うぜんたかまつ）　三山電氣鐵道接續點。羽前高松、間澤間一一粁四。▼幸生鑛山　北一八粁、古河鑛業會社經營の鑛山。▼永松鑛山　北二六粁、古河鑛業會社經營の鑛山。

三山電氣鐵道　**新田**（しんでん）　▼慈恩寺（天台眞言兩宗）六六〇米、地方有數の古刹で、天平年間の創建と傳へ、本堂は最上義俊の再建にかゝり國寶である。その東側の阿彌陀堂には木造阿彌陀如來坐像（國寶）があり、藤原時代の特徴を具へてゐる。**白岩**（しらいは）　▼白岩町地方物資の集散地。**羽前宮内**（うぜんみやうち）　▼縣營鮭人工孵化場　驛附近。**石田**（いしだ）　▼長登觀世音　驛附近、最上三十三觀音第十七番靈場。**海味**（かいしゆう）　地方物資集散地近くに西澤、海味、陸合の諸鑛山がある。**間澤**（まざは）附近は多量の木炭木材を產する。▼長沼遊園地　南一粁餘。

出羽三山詣　山形方面から三山へ登山するには高松からするがよい。この道はいはゆる本道寺口で間澤まで三山電氣鐵道による。間澤から本道寺を經て月山澤まで一四粁、自動車一圓五十錢。月山澤から徒歩により、志津を經て玄海まで八粁。こゝから湯殿山まで八粁、約三時間を要する。途中御月光八丁は難所で鐵の鎖や鐵の梯子で登る。湯殿山から月山まで八粁。約三時間、頂上近くに大雪原があり、大雪城と呼ぶ、このあたり高山植物が多い。

月山から羽黒山へ二四粁。徒歩五時間、下りは手向を經て狩川驛に出られる。（陸羽線狩川驛參照）

左澤（あてらざは）　▼大沼の浮島　西南一五粁、途中大谷まで自動車の便がある。沼は南北二五〇米、東西約一五〇米、湖底の沈澱物は植物の分解した腐泥で、五十餘の浮島がある。島は時々水面を游行し梅雨期に最も浮動するといふ。湖畔に近く浮島稻荷神社があり、その宿坊へ一泊すればよく見ることができる。

天童（てんどう）　もと織田氏二萬石の城下、驛東の舞鶴山は城址で山上に、織田信長を祀つた縣社建勳神社がある。

▼天童溫泉　東約一粁、自動車がある。胃腸病、神經痛によい。　旅館　二見館、新庄館、天童ホテル。

▼若松觀音堂　東四粁、最上三十三所觀音第一番の

札所で、二月の縁日は賑ふ。境内から鳥海山、月山へかけての眺望がよい。

▼山寺立石寺　東南約九粁、自動車四十錢、天童溫泉に浴してこゝから行くもよい。（山形驛參照）

旅館（天童町）都館。

名物　將棋駒。

神町（じんまち）　谷地軌道（神町、谷地間五粁八）接續點。

東根（ひがしね）　▼東根溫泉　東南一粁半、自動車二十五錢。胃腸病、リウマチスなどによい。溫泉附近に東山のスキー練習場があり、一月から三月頃まで練習に適する。旅館　本郷館、龜屋。

大石田（おほいしだ）　尾花澤鐵道（大石田、尾花澤間二粁六）接續點。尾花澤は兩羽街道の宿驛で越後の高田、飛驒の高山と共に積雪の多いので知られてゐる。最上川は大石田から下流は水量多く昔はこゝから酒田まで旅客貨物の運送が盛んに行はれてゐた、流程八八粁、兩岸の風光がよい。

▼銀山鑛泉　東北約一五粁、尾花澤までは汽車、そこから自動車の便がある。胃腸病、皮膚病などによい。旅館（能登屋、永澤屋、藤屋。

新庄（しんじやう）　一五一粁五　陸羽線分岐點。もと戸澤氏六萬八千石の城下で、もと沼田と稱し、最上氏の一族が居た處といふ。人口約一萬四千。

▼沼田城址　西約一粁半、戊辰の役にこの城に於て奥羽會盟の諸藩に抗し衆寡敵せず城市悉く兵火に罹つたのである。内に縣社戸澤神社、同天滿神社がある。▼瑞雲院　東北二粁餘。

旅館　新庄ホテル、庄内館。

▼肘折溫泉　西南二八粁、自動車二圓二十錢。リウマチス、神經諸病、胃腸病などによい。旅館　村井、松井。

羽前豐里（うぜんとよさと）　▼羽根澤溫泉　西南九粁、駄馬の便がある。神經諸病、皮膚病などによい。旅館　出羽屋、加登屋、自炊制を主とする。

院内（ゐんない）　▼院内鑛山　西三粁、古來屈指の銀山であつたが、現在は產出大に減少した。

▼湯ノ澤溫泉　南約三粁、自動車の便がある。リウマチス、脚氣、皮膚病などによい。旅館　日勝館。

横堀（よこぼり）　▼湯ノ岱溫泉　東南六粁、自動車一圓五十錢。胃腸病、婦人病、リウマチスなどによい。旅館　新五郎湯、自炊制を主とする。

▼鷹ノ湯　東南一七粁、自動車の便がある。胃腸病、リウマチス、婦人病などによい。旅館　八明館、自炊制を主とする。▼湯ノ又溫泉　東南二二粁、途中湯ノ岱まで自動車の便がある。胃腸病、リウマチス、脚氣などによい。自炊制を主とする。▼稻住溫泉　驛から一七粁、自動車がある。神經諸病、脚氣、リウマチスなどによい。旅館　旭昇館。

湯澤（ゆざは）　雄勝鐵道（湯澤、西馬音内間八粁八）接續點。湯澤町は雄物川平野にあり養蠶の中心をなし、商工業も榮え生絲、絹織物、清酒、曲木細工などを產する。▼湯ノ原鑛泉　東七七〇米。胃腸病、皮膚病などによい。旅館　飯塚。

横手（よこて）　二三一粁二　横黑線分岐點。（東北本線黑澤尻驛參照）横莊鐵道東線接續點。

横手、二井山間二六粁一。横手町は商工業が盛んで人口約一萬七千、もと小野寺氏の城下で城址は東約一粁半、今公園となつてゐる。旅館　平源、平利。

横荘鐵道東線　本鐵道は奥羽本線の横手と羽越本線の羽後本荘を連絡せんとするもので兩端から工事を始めてゐる。

途中淺舞驛のある淺舞町は農蠶の中心地、公園に多數の櫻があり、花の名所として花期には遊覽者が多い。

後三年（ごさんねん）　▼金澤の柵址　東四粁、後三年の役に清原武衡、家衡が據つた處で、鄉社八幡神社のあるあたりを二ノ丸址と稱し、館址がある。

大曲（おほまがり）　生保内線分岐點。　旅館　仙北ホテル、佐々木、枕流館、西村。

生保内線

今、大曲、生保内間開通し、將來は橋場線に接續する線である。

角館（かくのだて）　秋田藩の支藩を置いた處で、城址は北一粁半、今は農業蠶業の中心地となり樺細工、春慶塗、木通蔓細工などを產する。

旅館　石川、小林。

神代（じんだい）　▼抱返りの勝　東約二粁餘。玉川の上流一二粁餘に亙る山峽をいふ。奇岩怪石多く、佳趣に富める幾條の飛瀑あり、春は櫻、初夏は躑躅、秋は紅葉の勝がある。角館驛から東を新抱返り、神代、刺巻間の山峽を裏抱返りともいふ。

▼**夏瀬溫泉**　東八粁、抱返りを經て行けば一〇粁河岸の自然石の間に設けられた原始的な溫泉である。皮膚病、胃腸病、婦人病、眼病などによい。

旅館　北田屋、自炊制を主とする。

生保内（おぼない）

田澤湖　湖畔白濱まで北四粁餘、途中姫塚に中山菁我の宅址がある。自動車八十錢。湖上を一周してその日に歸れる。湖面は海拔二五〇米。東西六粁、南北五粁八、周回二〇粁、殆んど圓形をなし四周に低い山を繞してゐる。最深點は四二五米に達し全國湖沼中第一位を占めてゐる。

湖畔には漢槎宮、槎木明神、御座石神社、田子ノ森、大澤などがある。

遊覽季節は夏から秋へかけてゞ、冬は積雪が深くて行かれぬ。湖上遊覽の舟が備へてある。湖からは鱒、口黒鱒、背黒鯉がとれる。

旅館（生保内）　兒玉。（湖畔）白濱館、湖心亭。

駒ケ嶽　頂上まで一四粁、海拔一、六三七米。岩手縣の境上にある休火山である。高山植物に富み特に駒草が多い。山頂附近は熔岩礫帶で、東に岩手山を望み、南は鳥海山、西は直ちに田澤湖を俯瞰して眺望雄大である。冬は積雪多くスキーに適し、山麓の國見溫泉などを根據地とする。山麓には鶴ノ湯、蟹ノ湯、黒湯、孫六湯などがあり、旅館は何れも自炊を主とする。

以上抱返りの探勝、田澤湖の舟遊、駒ケ岳登山竝溫泉巡りは生保内線四日間の旅行として好適である。

▼田澤湖溫泉　北五粁餘、前に駒ケ岳や荷葉嶽が連亙し脚下には田澤湖の紺碧が展開してゐる。附近は蕨狩、觀楓、スキーなど四季夫々の樂しみがある。　旅館　龍仙閣。

秋田（あきた）　三〇一粁六　羽越線分岐點。福島から八時間半、もと佐竹氏二十萬石の城下で、

人口五萬二千（四、一調）物産には畝織、八丈織、金銀細工、羽二重、秋田蕗、諸越、蕗砂糖漬などがある。

秋田市の大體を見るには西北二二〇米の千秋公園に行くがよい。

▼千秋公園　もと久保田氏の城址で東北第一の公園といはれ、園内に櫻が多く花時（四月二十五、六日から五月上旬まで）は殊に華かである。園内に舊藩祖を祀る縣社秋田神社、佐竹義堯の銅像がある。園上から秋田全市が一目に見渡される。▼平田篤胤の墓　東北二粁、篤胤は江戸時代に於ける國學者で且つ神道家、明治十六年正四位を贈られた。▼縣社日吉八幡神社　西約三粁、自動がある。境内廣く八橋公園といつてゐる。▼秋田城址　西北四粁半、土崎驛の東南三粁、自動車がある。天平年間（一、二〇〇年前）の遺跡で、北方の小區は高清水公園となつてゐる。▼國幣小社古四王神社　秋田城址の南端附近にある。祭神は武甕槌命及大彦命で、四天王寺の遺影を傳へるものといはれる。

旅館　石橋、小林、木村、關根屋、敦賀屋。

秋田縣廳は秋田市にあつて、羽後國の大部及陸中國の一部を管轄してゐる。東境には奥羽山脈連亙し、中央には森吉火山あり、日本海岸には男鹿半島突出して八郎潟を抱いてゐる。縣は最も鑛山に富み、銀山として名高い八盛鑛山あり、金銀銅を出す、荒川銅山あり、能代川流域には有名なる小坂を始め尾去澤、不老倉、阿仁の銅山あり、土瀝青亦この縣の特有物産である

踊こばお

コバエテ、コバエテ。
そま落ちる
ころ〳〵轉んで
すこしきほるでき

コバエテ、コバエテ。
溜り水
池の端の蓮の葉の
おほこ心持

コバエテ、コバエテ。
觸れてくる
用のない煙草賣なら
おほこ來もせず

コバエテ、コバエテ。
出て見たば
田圃のはんづれまで
おほこ來るかやき

秋田音頭

秋田名物八森ハタハタ
男鹿では男鹿ブリコ
檜山納豆、能代春慶
大館曲ワッパ。

秋田名物コの字つくしを
摘んでいふならば
子供コに香物コ
笠椀コに小皿コ
酸コに醤油コだ。

尾去澤地方は又山林多く、河口の能代には大きな製材所がある。縣の中部以南は雄物川の流域で、秋田市その下流にあり、附近石油を産し、黒川油田最も世に聞え土崎に製油所がある。

秋田音頭　（羽後）

秋田名物コの字づくし摘んでいふならば
子供コに香物コ、笠椀コに小皿コ
酢コに醤油コだ。
いづれこれより御免な蒙り音頭のむだを言ふ
お氣に觸りもあらうけれどもサツサと
だしかける。
秋田銘産米と木材金銀石油だ
金の釜コで銀の米粒油で飯をたく
秋田のくにでは雨は降つてもからかさ
などいらぬ

手頃のふきの葉そろりとさしかけ
サツサと出てえくわえ。

土崎（つちざき）▼國幣小社古四王神社西南約二粁餘自動車二十五錢、武甕槌命、大彦命を祀る。秋田驛からは西北五粁。▼日本石油秋田製油所　西約一粁半。▼黒川石油礦場　北一四粁。

追分（おひわけ）　船川線分岐點。

船川線

船越（ふなこし）▼八郎潟　八郎湖ともいひ、東西一二粁半、南北二四粁、周囘八一粁。橢圓形をなし、我國第二の大湖である。深度は四米半。一月下旬には湖面結氷して湖上人馬が通行する。湖水からは、わかさぎ、ごり、ぼら、ふな、えびなどが獲れる。湖畔の八郎神社は湖の主八郎

太郎を祀ると傳へてゐる。

脇本（わきもと）　▼寒風山（さむかぜ）　西北約三粁、海抜三五五米、登山は脇本から往復三時間を要する。山頂圓形をなし、長く緩かな裾野を曳き、頂上に二箇の火口址がある。

船川（ふなかは）　男鹿（をが）半島東海岸にある良港である。

男鹿半島巡り　男鹿半島は日本海の怒濤激浪を受ける斷崖で、巖石奇怪を極め豪快な風景を作つてゐる。先づ船川から舟行加茂に到り日歸りするのが普通で、門前から加茂まで六粁四の島廻りの途中に阿字（あじ）ヶ島、蒿雀窟（かうじやくくつ）、大棧橋などの奇勝がある。遊覽には梅雨期節の靜穩な日を選ぶがよい。船川から加茂まで和船及モーターボートの便がある。

なほ暇のある時は加茂から一二粁九の戸賀（とが）に至ればこの間の風景も探勝に價し、戸賀から四粁の湯本溫泉に一泊し、翌日湯本から四粁の北浦（きたうら）町に出で、更に馬車で約一二粁半の船川線羽立（はだち）驛に出るも面白い。北浦から羽立に行く途中から寒風山（さむかぜ）に登ると、八郎潟が眼下に展望されて壯快な景色に接せられる。この廻遊をなすには豫め舟を申込んで置くがよい。

旅館（船川）　諸井、泉。

大久保（おほくぼ）　▼八郎潟　西約一粁、當驛から一日市（ひといち）を經て鹿渡（かど）に至るの間、八郎潟の風光は旅客の眼を樂ましめる。▼豐川油田　東約一粁半、日本石油會社の經營。

一日市（ひといち）　五城目（ごじやうのめ）軌道（一日市、五城目間三粁九）接續點。

▼三倉鼻（みくらがはな）　北四粁、八郎潟の全景を見るによい。

機織（はたおり）　三五八粁三　能代線分岐點。福島から約十二時間。

能代線

今機織（いまはたおり）、岩館（いはだて）間開通し、將來は海岸に沿うて北行し五所川原線と合する豫定である。

能代（のしろ）　能代港町は米代川（よねしろ）河口の南岸にあり、人口約二萬三千、木材、春慶塗の產地として知られ、驛の北五五〇米に秋田木材會社があり、町の內外挽物工場が多い。

▼能代（のしろ）公園　西二粁、明治二十二年皇太子殿下御慶事記念として設けられたもの。▼八幡神社　北六六〇米、古社として名高く境內古松老幹が多い。

旅館　大原、竹內。名物　春慶塗。

椿（つばき）　▼八盛（はつせい）鑛業所　東南五五〇米、銀鑛。▼雄島　西二二〇米、海岸の孤島で夏季遊覽に適する。旅館　八盛ホテル、納谷。

岩舘（いはだて）　海岸一帶幾多の奇巖あり一日の行樂として探勝するものが多い。▼物見多門穴　西一粁。▼蔦ノ澤笛吹瀧　北四粁。

旅館　菊地、須藤。

二ツ井（ふたつゐ）　▼七座山（ななくらやま）神社　東南四粁、自動車がある。七座山上にあり古木に蔽はれてゐる。▼俟后坂（きみまち）　東北約二粁餘、嘗つて明治天皇が米代川（よねしろ）の風光を賞覽あらせられた處で紅葉の名所である。▼阿仁（あに）鑛山　東四〇粁、古河鑛業會社經營の銅山、鑛產年額約三十四萬圓。

大館（おほだて）　小坂鐵道及秋田鐵道接續點。福島から約十三時間、大館町は地方交通の要點

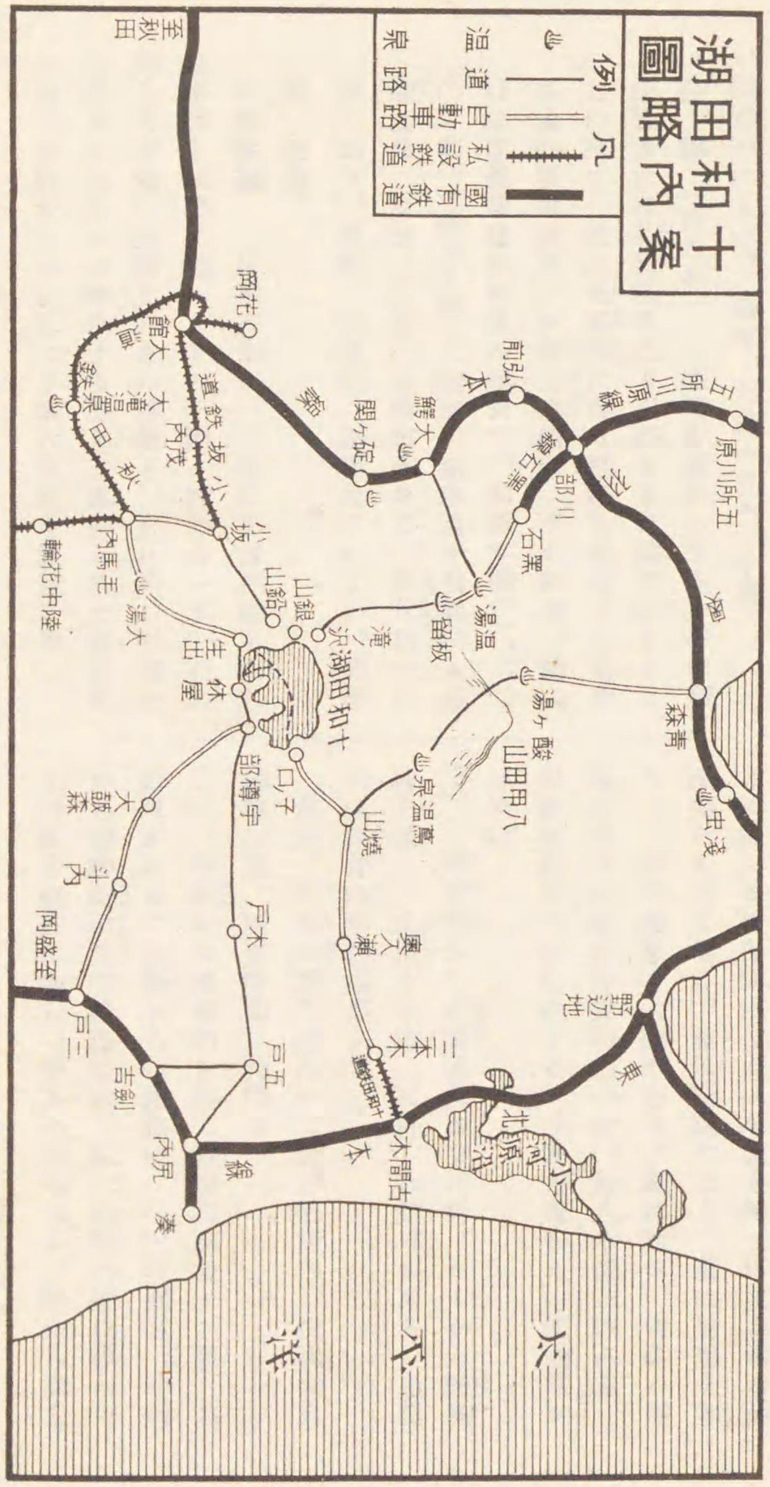
に當り、人口約一萬五千製材業が盛んである。古來闘犬が流行つてゐる。十和田遊覽者下車驛で、東北本線古間木から入る表口に對して裏口といひ小坂、秋田兩鐵道の內何れかによる。旅館　花岡、齋藤。

小坂鐵道　驛から右に向ふ本線(大館、小坂間二二粁七)と、左、花岡に向ふ支線(大館、花岡間四粁八)とがある。本線は茂內から二ツ屋に支線を分つ。**茂內**（もない）▼長木澤國有林　二ツ屋まで貨物支線が行く、日本三大美林の一、高さ六〇米以上に達する老杉があり、現在その面積三〇萬アール（三千町歩）の杉の純林と一五萬アール(五百町歩)の杉雜木林とがある。十年前までは九〇萬アール（九千町歩）もあつたが、小坂鑛山の煙害のために斯く減少した。**小坂**（こさか）十和田湖遊覽者下車驛、小坂町は人口一萬三千、藤田鑛業會社の鑛山がある。鑛產は年總價額約七百九十萬圓に上る。

花岡（はなをか）▼花岡には花岡鑛山があり藤田鑛業會社經營で鑛石のまゝ小坂鑛山に送鑛する。

秋田鐵道　大館驛から南東に向ひ陸中花輪に至る（三七粁二）鐵道である。**扇田**（あふぎだ）南八粁乃至二〇粁の間、大卷、大葛、扇田の諸鑛山がある。**大瀧溫泉**（おほたきをんせん）▼大瀧溫泉　東北三三〇米、胃腸病、呼吸器病、リウマチスなどによい。旅館　前田、藤島。

毛馬內（けまない）　こゝは大館から二九粁三十和田湖遊覽者の下車驛で、驛前に謠曲錦木に名高い錦木塚がある。▼大湯溫泉　東北八粁、十和田湖遊覽の道筋にある。胃腸病、婦人病、神經諸



病などによい。旅館　大湯ホテル、千葉。

花輪（はなわ）　盛岡方面からする十和田湖遊覽者には花輪線及之と連絡する自動車によりここに來て、更に毛馬内に出る徑路もある。（東北本線好摩驛參照）▼尾去澤鑛山　西三粁半、鑛山は三菱鑛業會社經營の銅山で、和銅年間（一、二二〇年前）の發見と稱し、鑛產年額約百十萬圓。▲湯瀨溫泉　東南一〇粁、自動車がある。米代川の上流にあり、眼病、皮膚病、創傷などによい。旅館關、阿部。

十和田湖　日本八景の一、湖は千古斧鉞を知らぬ峯巒を周圍に控へ、その一灣一岬から一木一石に至るまで他の追隨を許さぬ雅趣と、それ等の形態や色彩をそのまゝに倒映する漫々と湛へられた濃藍色を呈する清澄な水とにより雄大壯麗な風致を成し、之に加ふるに古間木方面（東北本線）に奥入瀨の溪流美をもつてゐる。春は新綠によく、夏は暑熱を知らず、秋は紅葉の大觀がある。湖は秋田、青森の兩縣に跨り水面は海拔四〇一米、最大水深三四八米、周回延長四六粁に達する。今各方面からの交通路を示せば

（一）　毛馬内から大湯溫泉まで八粁。こゝから發荷峠を越えて生出まで約一五粁、自動車がある。生出には和井内孵化場がある。

大館、毛馬内間汽車八十二錢。毛馬内、生出間自動車二圓。所要時間二時間半。

（二）　小坂から毛馬内を經て大湯に至る一二粁、自動車がある。大湯からの徑路は（一）に同じ。小坂から湖畔鉛山まで鉛山峠越、約二四粁の路は學生などの徒歩旅行に適し、乘馬の便がある。峠から湖を

見下ろす眺めは最もよいとされてゐる。

(三) 東北本線の古間木から三本木を經て奥入瀬の溪流を溯り、湖畔子ノ口に達するのを表口といつてゐる。

古間木から三本木まで十和田鐵道の便もあるが自動車も通ふ。三本木から燒山まで二四粁。

こゝから道を右に五粁行けば蔦溫泉がある、近年大町桂月の名によつて知られ訪ふ人が多い、閑寂な山の湯である。附近には翠巒にかこまれた幽邃な湖沼が散在する。

蔦溫泉から燒山に引返し湖畔子ノ口まで一四粁。奥入瀬の溪流美はこの間に現出する。特に勝れたものに三乱ノ流、白銀ノ流、馬門岩などがあり、その外溪流の兩壁にかゝる數々の飛瀑、流れに逆つて立つ奇岩など應接に遑ないまでに變化の美に富み、自動車の便がある。

溫川から瀧ノ澤峠まで六粁。峠から湖畔瀧ノ澤まで下り四粁、この路は學生の探勝に最も適當である。

黒石、板留間自動車六十錢。黒石、溫川間同(貸切に限る)一臺十四圓。所要時間九時間。

(五) 青森から酸ケ湯溫泉を經て行くもの、青森、酸ケ湯間二二粁、途中横内村まで自動車がある。横内から馬背によることもできる。酸ケ湯から谷地溫泉猿倉溫泉を經て蔦溫泉まで約一六粁、蔦溫泉から燒山を經て子ノ口に出る。この路は健脚者に勸める。

青森、酸ケ湯間自動車三圓。所要時間八時間。

湖上遊覽船子ノ口—休屋一圓五十錢、二時間。休屋—生出、五十錢、二十分。生出—瀧ノ澤一圓四十錢、三十分。

旅館(蔦溫泉) 蔦溫泉旅館。(子ノ口)世界公園館支店。(休屋)世界公園館、安野旅館支店。(生出)和井内ホテル。

名物 姫鱒、鱒燻製、蕗砂糖漬、桂月葡萄、十和田燒。

陣場 (ぢんば) ▼矢立、目景、下内澤溫泉

北二粁半乃至三粁、矢立(馬車三十錢)、胃腸病、リウマチス、婦人病などによい。旅館 安宍。日景

(馬車三十錢) リウマチス、婦人病、皮膚病などによい。旅館 日景。下内澤 眼病、創傷、リウマチスなどによい。旅館 日景の別館。

碇ケ關 (いかりがせき) ▼碇ケ關溫泉 南一粁餘、自動車又は馬車十五錢、平賀川に臨み閑寂な溫泉場、呼吸器病、胃腸病などによい。旅館 葛原、柴田。

▼湯ノ澤、新湯ノ澤溫泉 南約六粁。前者は皮膚病リウマチス、脚氣などによい。旅館 秋元。後者は皮膚病、リウマチス、婦人病などによい。旅館 成田。

大鰐 (おほわに) ▼大鰐溫泉 東南五五〇米、脂肪過多症、婦人病などによい。旅館 加賀助、大鰐ホテル。 ▼藏館溫泉 東南八八〇米、效能は大鰐と同じ、大鰐と平賀川の淸流を隔て、山水の風趣

が優れてゐる。旅館　仙遊館、後藤旅館、一二三館。

▼阿闍羅山（あざらざん）　約二粁餘、山麓狐森は冬期スキー地として知られて來た。阿闍羅山を中心として附近一帶は特にスキー競技場に適し、年々全國大會は高田、大鰐、札幌の三箇所を選定して開く、近來スキー地としての大鰐は、温泉としてより以上に有名である。

名物　林檎。

弘前（ひろさき）　四五〇粁　福島から約十二時間、弘前市はもと津輕氏十萬石の城下で人口四萬

一千（三、一二調）林檎、米などの農産物を集散し、商業が盛んである。名産津輕塗の外、清酒、木通（あけび）蔓（つる）細工、藁工品、織物、林檎酒、種油などを産する。津輕塗は一名「バカ塗」とも稱し下塗から仕上げまで三十八回乃至四十回の塗りを重ねるので色彩の優雅なのと堅牢なのとで珍重される。

弘前及こゝに近い浪岡（なみおか）、川部（かはべ）、石川（いしかは）、大鰐（おほわに）、碇（いかり）ケ關（せき）、黒石（くろいし）、藤崎（ふぢさき）、板柳（いたやなぎ）、陸奥鶴田（むつつるた）各驛附近はこの地方の林檎の主産地で年産額一千二百萬圓に達し主に東京、大阪、名古屋方面竝浦鹽斯徳、上海方面へ送出してゐる。尚この邊りには車窓から見渡す限り林檎畠がつゞく。高等學校は市外清水村にある。

▼弘前城址　西約二粁、慶長年間（約三〇〇年前）津輕信牧（のぶひら）の築くところで津輕氏累代の居城であつた。本丸址には追手門、東門、北門を殘し、舊藩祖爲信の銅像がある。本丸、二ノ丸、三ノ丸の一部は鷹揚（おうやう）園と名づけられ公園となつてゐる。岩木山の秀容、岩木川の銀帶皆眺望のうちに入り、櫻樹多く花時は遊覽者が夥しく集る。

最上川

鷹揚園の櫻

▼第八師團司令部　西南二粁。▼物産陳列館　西約一粁半。▼景勝院五重塔婆　西一粁半。寛文八年（二六〇年前）藩主津輕信政の建立、國寶である。▼岩木山　頂上まで西二〇粁、百澤村まで約一二粁半、自動車一圓。海拔一、六二五米。山容秀麗、津輕富士と呼ばれ、山頂は巖木山、鳥海山、岩木山の三つに分れ全山熔岩からなる塊狀火山である。頂上から青森灣、十三潟、八甲田山などの眺望がよい。▼國幣小社岩木山神社　西約一二粁半、自動車一圓。岩木山の南麓岩木村百澤にあり、宇都志國玉命外二神を祀る。社殿莊巖華麗にして、奥の日光といはれ、樓門、拜殿は國寶となつてゐる。▼嶽溫泉　西二〇粁、岩木山神社からは四粁、馬車二圓。脂肪過多症、呼吸器系統病、皮膚病などによい。旅館　西澤、中畑、秋田。

奥羽線

旅館（弘前）　齋吉、石場、竹内、大室。名物　漆器、林檎、林檎羊羹、林檎砂糖漬。

川部（かはべ）　黒石線、五所川原線分岐點。

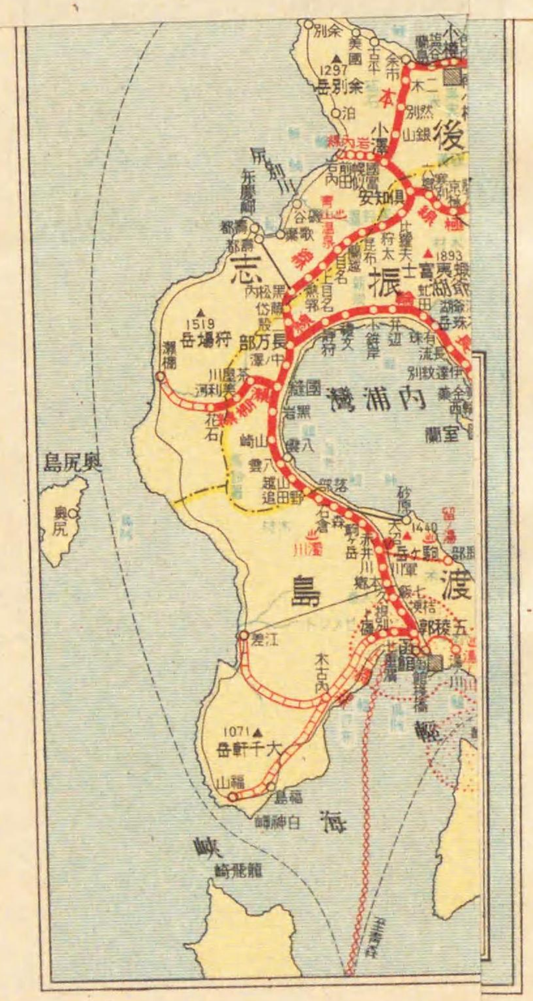
黒石線

黒石（くろいし）　黒石はもと津輕氏一萬石の支封地で、こゝから東八粁の溫湯（自動車五十錢）、板留（自動車七十錢）の溫泉を經て十和田湖畔瀧ノ澤へ行かれる。板留の近くには紅葉の勝地中野山公園がある。旅館（黒石）　岡崎。

五所川原線

今陸奥赤石まで開通して居り、將來能代線と接續する豫定である。

五所川原（ごしよがはら）　津輕平野の中央に



位し、岩木川の右岸にあり、津輕米の大集散地である。▼小泊（こどまり）　西北三五粁自動車がある。途中十三潟（さんがた）の波光を俯瞰して行く。（別途木造（きづくり）驛から十三潟へ約三三粁自動車がある）

小泊は漁港で柔魚（するめいか）、鮑の産が多い。その西に斗出する權現（ごんげん）岬は北海の翠黛に對し、煙波浩蕩男性的の景觀である。小泊から津輕の尖端龍飛（たつぴ）岬までは途なき岸崖を傳ふ難路、案内者無くては行かれぬ。小泊（こどまり）から小舟又は汽船によるべきである。龍飛（たつぴ）は津輕海峽と日本海との中間に突出する陸地の突端で、絶えず兩海の荒波に洗はれて岸壁峭立し、雄大豪宕の景致をなし、近く北海の白神岬（しらかみざき）と相呼應してゐる。

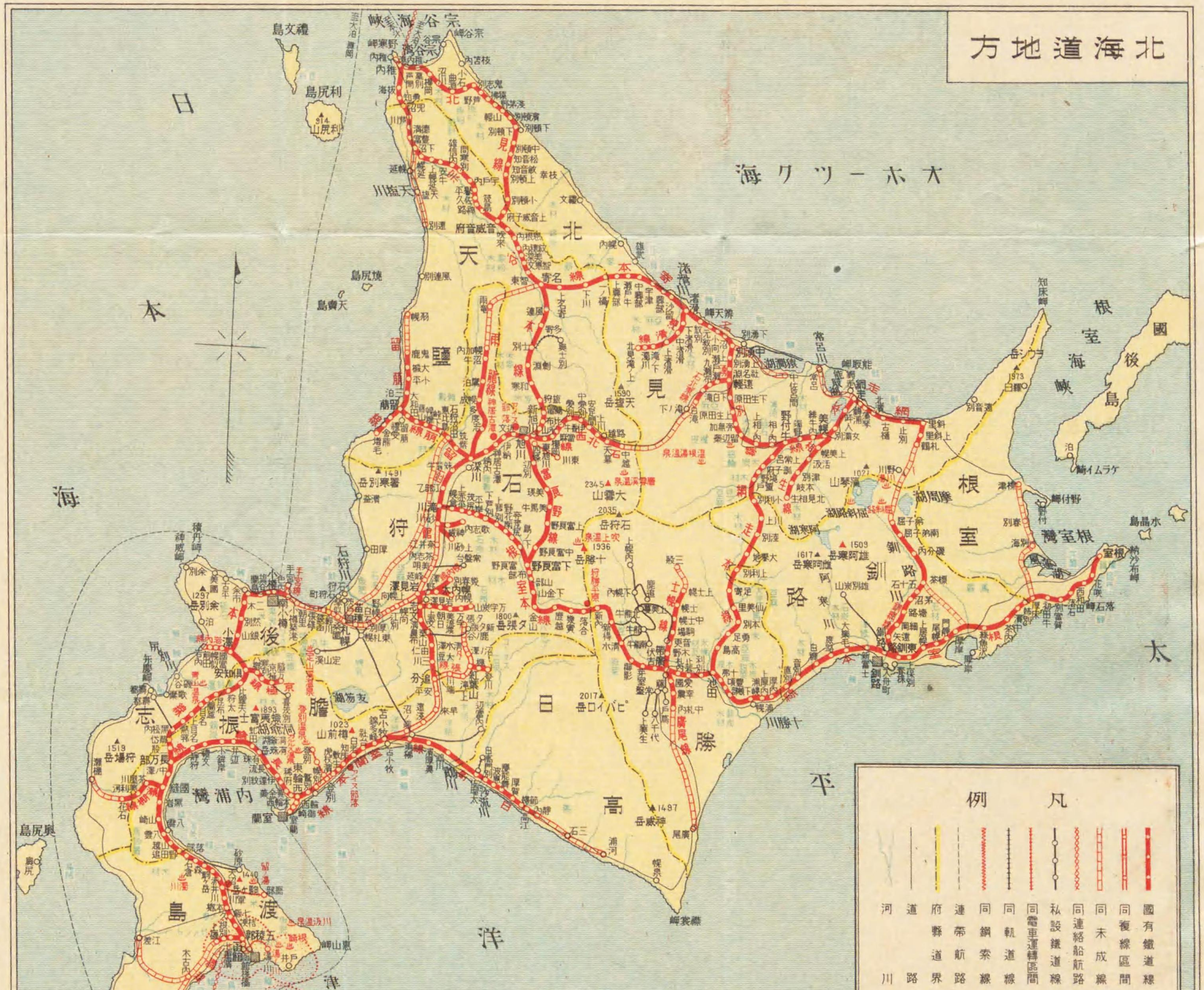
鰺ケ澤（あぢがさは）　町はもと津輕米の積出港として榮えたところで水產業が盛んである。人口五千。驛の近くに海水浴場がある。

陸奥赤石（むつあかいし）　▼大戸瀬（おほどせ）　西南一二粁、自動車六十錢。奇岩怪石犬牙の如く峙ち、中に凝灰岩の海蝕を受けて平坦になつた岩盤があり、いはゆる千疊敷の奇勝をなしてゐる。續いて小戸瀬（こどせ）の奇勝があり、こゝから深浦までの海岸は景勝地が連續する。

旅館　新岡、竹谷。

青森（あをもり）　四八七粁四　福島から約千五時間。（東北本線參照）

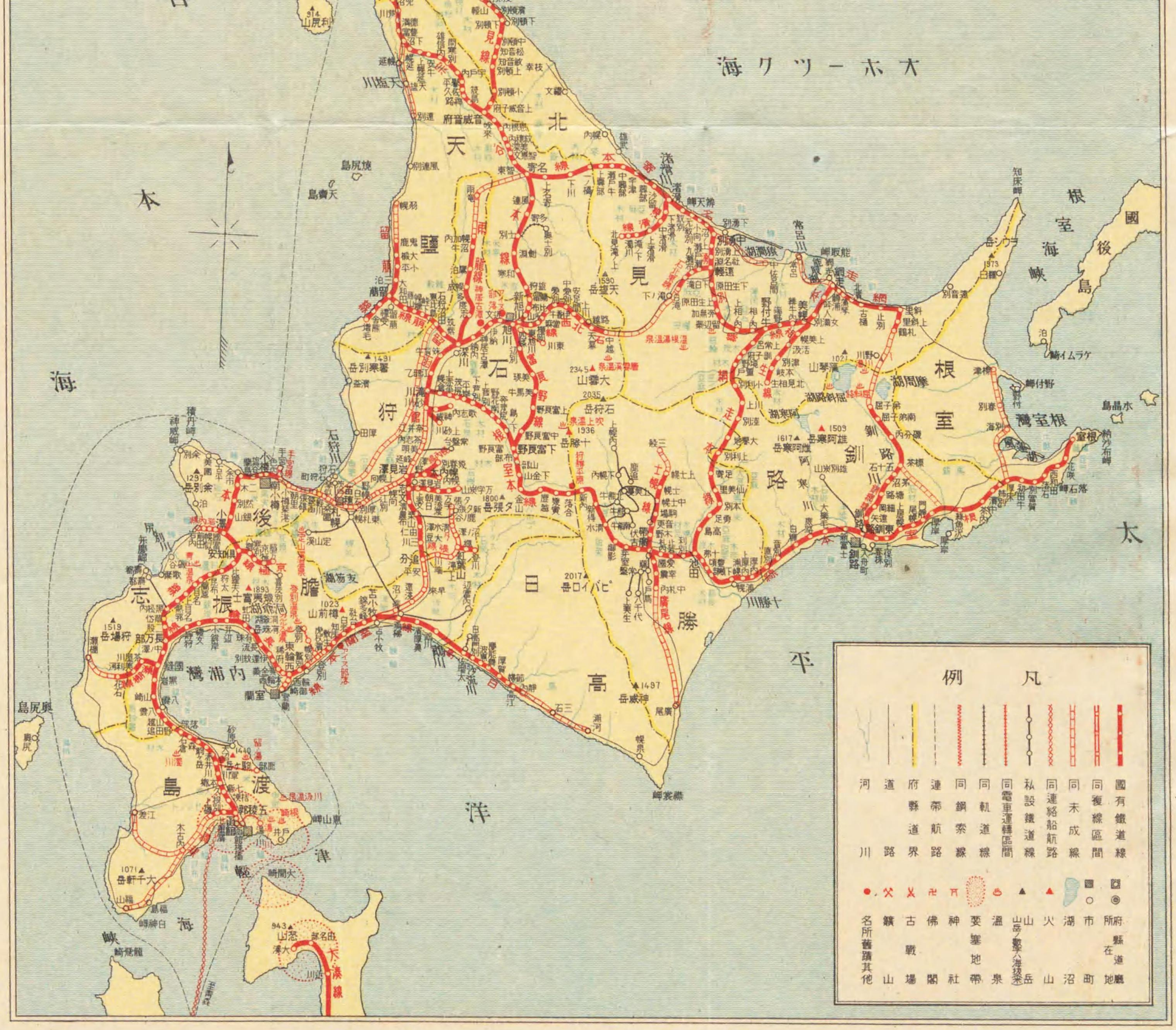
北海道地方



例凡

- 國有鐵道線
- 同複線區間
- 同未成線
- 私設鐵道線
- 同連絡船航路
- 同電車運轉區間
- 同軌道線
- 同鋼索線
- 連帶航路
- 府縣界
- 道路
- 河川

港として榮えたところで水産業が盛んである。人



港として榮えたところで水産業が盛んである。人

函館線

一 函館本線	函館、旭川間	四二五粁一
	砂川、上砂川間	八粁一
一 上磯線	五稜郭、上磯間	八粁八
一 瀬棚線	國縫、花石間	一六粁六
一 長輪線	長萬部、東輪西間	七七粁二
一 京極線	倶知安、脇方間	二〇粁九
一 岩内線	小澤、岩内間	一四粁九
一 手宮線	南小樽、手宮間	二粁八
一 幌内線	岩見澤、幌内間	一三粁六
	幌内太、幾春別間	七粁二
一 歌志内線	砂川、歌志内間	一四粁五
一 留萠線	深川、増毛間	六六粁八
	留萠、鬼鹿間	二八粁五
一 雨龍線	深川、幌加内間	四三粁七

その本線は我國有鐵道幹線の一部をなし、函館棧橋を起點として小樽、札幌、岩見澤を經て旭川に至り、旭川から樺太への渡港稚内港に至る宗谷本線と相俟つて北海道に於ける鐵道幹線をなし、函館から稚内港へ長輪線廻りの直通急行列車あり、約二十三時間で達する。稚内港からはその直通列車と相連絡する汽船の運航あり、東京から樺太の大泊まで僅に五十六時間で到達する。

根室本線は函館本線瀧川から分岐して根室に至るもので、この線と相俟つて我鐵道幹線の一部をなし、函館から釧路への直通列車あり、約二十四時間で達する。

沿線の風光としては大沼公園あり、駒ケ嶽、後方

羊蹄（蝦夷富士）の展望あり、噴火灣（膽振灣）、小樽灣の眺望あり、特に植物の景觀本州と異り、本州到る處に見る松杉も本道に入つてはその姿を見ることを得ないが、その代り白樺の白い幹など目新しい感じを起させるものがある。名所舊蹟の探るべきものは尠いが、山海の風光は自ら大陸的の面影があり、然も雄渾の氣天地に充ちて、到る處進んで止まない新創の都市あり、旅客は想像以上の進展に驚くことが多いであらう。

樺太、北海道の人種

樺太及北海道は位置が大陸の東北隅に偏よつた離れ島であつた關係上、中央の大舞臺に於ける古來幾多の治亂興亡を餘所に、淀みに浮ぶ水屑の樣に、數多の小種族が永年の間にこゝに落合つて溜つてゐた。隨つて自然にアジア古民族の標本を揃へた生きた陳列館の觀を呈して現代を迎へた。總數一萬五千を算するアイヌは其内の尤なるもので、樺太に居住するオロツコ、ギリヤーク、サンタ、キーレンなど又主なるものである。

函館本線

函館（はこだて）　函館市は北海道出入の門戸で人口十七萬六千（三、一〇調）本州青森との間に鐵道省直營の連絡船があり、毎日三回運航し、約四時間半を要する。

地は函館灣に臨み、港口は西南に開き、龜田の西南端、拳の如く斗出する函館山の山嘴から一條の市街をなして、砂濱に連續し、水深く山高く海灣は巴形をしてゐる。開港場の一で昭和三年度貿易額輸入二千百五十七萬七千圓、輸出一千六百五十萬圓である。產物には水產物、製氷などがある。

▼函館公園　南二粁半、電車の便がある。櫻樹多く花期は五月上旬である。

▼國幣中社函館八幡宮　公園から約半粁、應神天皇を祀る。

旅館　勝田支店、荻原、宗澤、富士屋。

名物　昆布製品、烏賊、鹽辛、赤蕪千枚漬。

五稜郭から湯ノ川、根崎溫泉へ　五稜郭は驛の東北四粁、電車の便があり、湯ノ川溫泉への途中にある。幕末の頃洋式最新の設計により築城したもので維新の際榎本武揚、大鳥圭介等が據つて最後の決戰をしたところ、今公園となり、記念館がある。再び戻つて電車によれば湯ノ川溫泉は四粁ばかりである。函館驛からは東約七粁、電車十一錢自動車二十錢。津輕海峽に臨んで風光佳く函館人士の遊樂地となつてゐる。

湯は湧出量豐富、胃腸病、皮膚病、リウマチスなどによい。約半粁を隔てた根崎溫泉と共に大溫泉鄕をなしてゐる。

旅館　福井館、兼樂園、芳明館、福住、小林亭、若松。

根崎溫泉は湯の川溫泉と松倉川を隔てゝ相對し、宇賀ノ浦に臨んでゐる。效能湯ノ川と同じ。

旅館　大正館、大瀧、ニコニコ、常磐木。

▼トラピステヌ修道院女子部　溫泉場から約三粁餘。婦人の修道所で牛酪を製造する。

五稜郭（ごりようくわく）　上磯線（五稜郭、上磯間八粁八）分岐點。▼五稜郭　東南約二粁。（函館驛參照）▼トラピスト修道院男子部　上磯から西一六粁、自動車八十錢。

本鄕（ほんがう）　熊ノ湯鑛泉　約五粁半、リウマチス、濕疹などによい。旅館　熊ノ湯。

江差追分

忍路、高島及びもないが、
せめて歌棄、磯谷まで、ソーイ

あぶらこ、鰊、眞鰊、一朱に三枚はつたはた。
帶も十勝でそのまゝ、根室
落ちるなみだの幌泉、ソーイ
厚岸濱中ぷウらぶら、あとから掛取ほふほい。

大島小島のあひ行く船は
江差がよひか懐しや。

軍川（いくさがは）

▼吉野山スキー場　東約一粁、函館方面のスキー家で賑ふ。

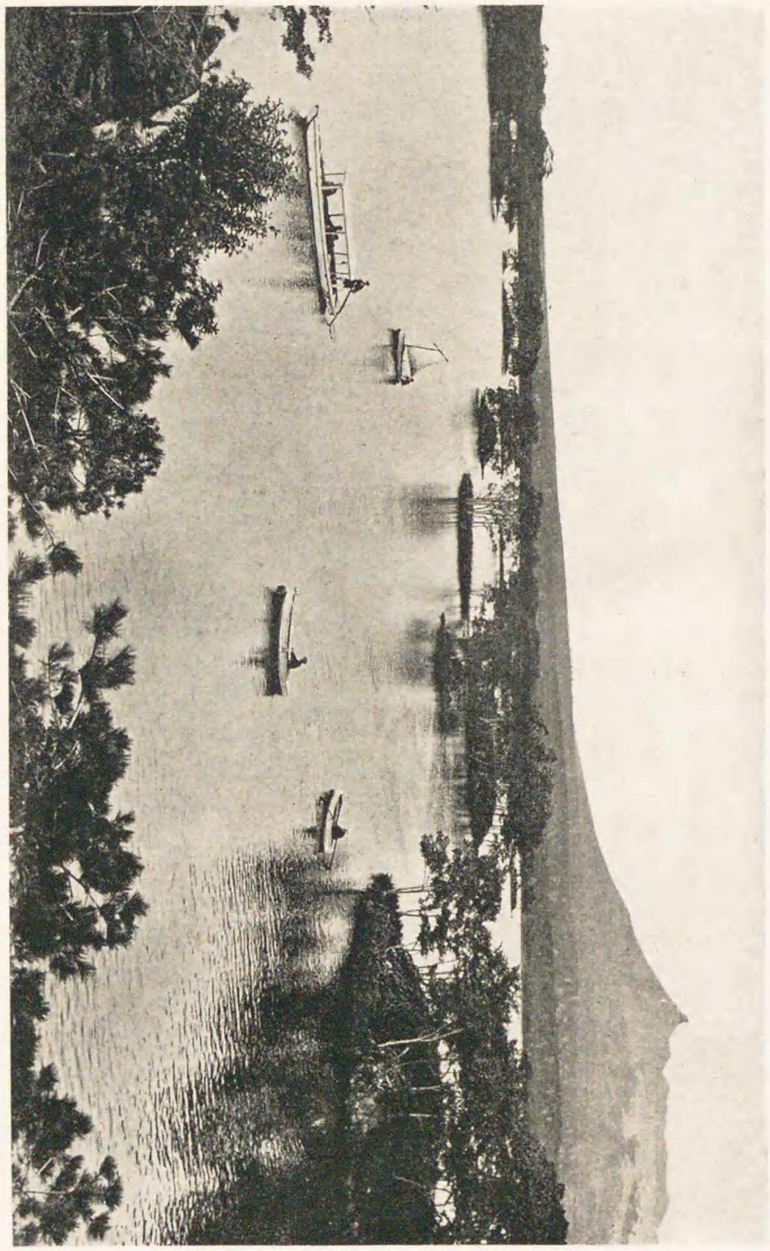
大沼（おほぬま）

大沼　驛は直ちに大沼に臨んでゐる。大沼は大小二箇に分れ、周囘三二粁、前に雄大な駒ケ嶽の山容を仰ぐ。湖中には景致面白い大小百二十八の島があつて夏季舟遊に適する、又駒ケ嶽の裾野のあたりは特に紅葉によい。兩沼相連つて瓢形をなし、その最も狹い處を「セバツト」と稱し、こゝに鐵橋を架して汽車を通じてゐる。湖上舟遊和船貸切四圓から八圓まで。ボート一時間四十錢、島巡り一人二十五錢。

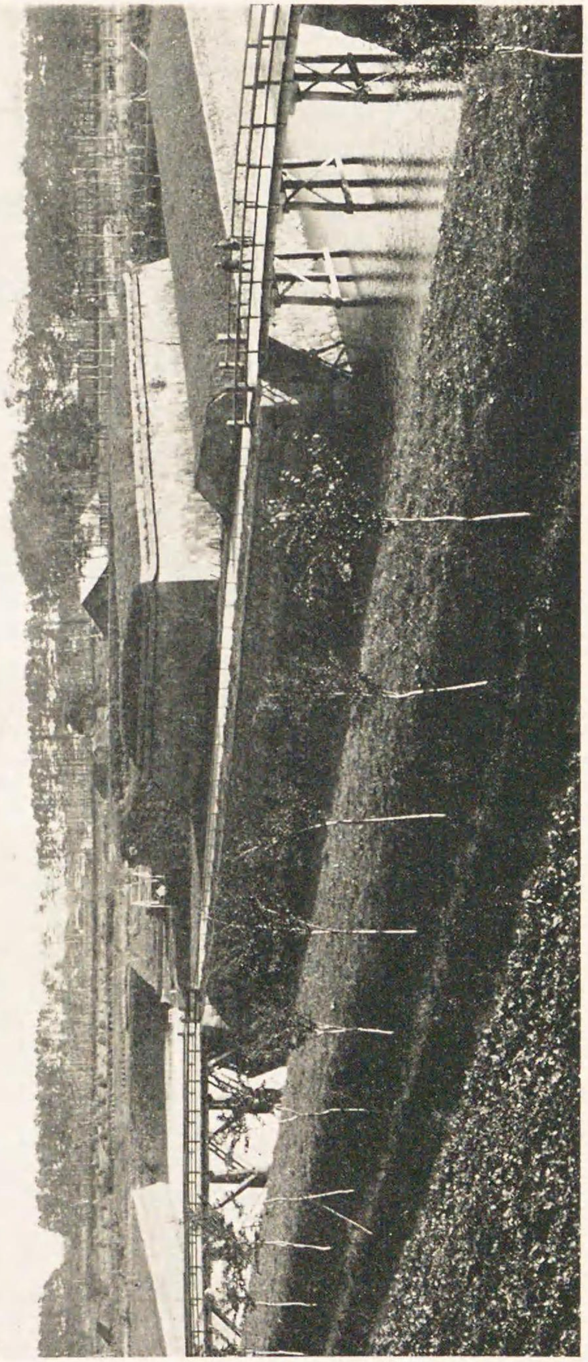
旅館　第一紅葉館、第二紅葉館、大沼館、見晴館。

名物　鮒のすゞめ燒。

駒ケ嶽　海拔一、一四〇米、噴火灣の南岸に位し、大沼の北岸に聳立する活火山である。大沼方面から見ると左方に鋭い圓錐狀の突起があつて、高く天空を指し、北海道旅行者に忘れられぬ印象を與ふ。大沼の遊覽船で湖上約三粁餘の地獄灣の登山口に至れば、そこから四粁半にして馬ノ背に達する。又駒ケ岳驛からは裾野まで三粁半、それから登山路四粁で



大沼公園



馬ノ背に至る。

▼鹿部溫泉　大沼から一七粁二、電車約五十分。内浦灣口を隔てゝ室蘭と相對し風光のよいところ、間歇溫泉もあり、昭和四年六月駒ヶ嶽大噴火の影響を受け附近一帶約二米の降灰に埋れてゐる。胃腸病、皮膚病、神經病などによい。旅館　鶴の湯、鹿の湯。

駒ケ嶽（こまがたけ）　▼駒ノ湯溫泉　七七〇米　旅館　光明館。

森（もり）　渡島海岸軌道線（森、砂原間九粁三）接續點。附近漁業が盛んである。旅館　阿部、黒田、昭和館。

石倉（いしくら）　▼濁川溫泉　東南八粁、馬車の便がある。皮膚病、リウマチスによい。旅館　神泉館。

長萬部（をしやまんべ）　長輪線分岐點。

函館線

長輪線

靜狩（しづかり）　靜狩、禮文（次驛）間は本道第一の禮文華隧道（約二、七二六米）外七箇の隧道を有し、その切れ間からの眺望頗るよく、禮文、小鉾岸間亦海岸の巖礁奇にして旅趣を添ふ。本線は内浦灣に沿ひ對岸渡島半島の山々を望み眺望がよい。

虻田（あぶた）　洞爺湖電氣鐵道接續點。

洞爺湖　北約一二粁、洞爺湖電氣鐵道の便がある。湖は周回三九粁、深さ一八〇米、殆んど正圓形で中央に中島、觀音島、饅頭島の三大島があり、北に蝦夷富士の雄姿を眺め、南に有珠岳が聳えてゐる。湖畔には溫泉、野球場、テニスコート、ゴルフリンクなどがある。

旅館　洞爺湖ホテル、一號館、元湯。

有珠（うす）　▼善光寺（淨土宗）　一粁三、德川氏蝦夷を治めて公領とし、大に開拓に努め、日高國様似の等持院、釧路厚岸の國泰寺（臨濟宗）を營むと共に善光寺を改修して三大寺とした。北海江ノ島の稱ある有珠灣に臨み、灣から境内に沿うて約三千本の櫻樹があり、樹は二十數年を經たる吉野櫻及山櫻の老木があり、花時は觀客で賑ふ。▼有珠岳　洞爺湖の南にある複式活火山で海拔六一一米、常に噴煙を續けてゐる。山巓は東西に分れ西にあるを小有珠岳、東を大有珠岳といふ。巓に河礫層のあることは火山成生の際、河床を押上げた珍現象である。▼南部陣屋跡　黄金藥と本輪西とにある、安政二年南部藩が陣屋を置いた處で鬱蒼とした松杉や、濠などが殘つてゐる。

黒松内（くろまつない）　壽都鐵道（黒松内、壽都間一六粁一）接續點。辨慶岬は壽都港の西端にあり、義經が滿洲に渡つた處と傳へる。旅館　小間。

昆布（こんぶ）　▼昆布溫泉　約五粁、馬車、自動車（六十五錢）の便がある。附近に青山、紅葉谷、宮川、成田、黒澤、湯本の諸溫泉がある。共に神經系統病、脚氣、胃腸病、呼吸器病などによい。附近のニセコアンヌプリ、チセヌプリなどスキー場として聞えてゐる。

旅館　（青山）不老閣、（宮川）紅葉館、（紅葉谷）向瀧。

狩太（かりぶと）　大豆（年產額十六萬二千圓）馬鈴薯（年產額七十二萬五千圓）の特產地。

俱知安（くつちやん）　京極線分岐點。尻別川の畔にあり、附近地味肥沃なる農耕地一〇〇萬アール餘を有する所で、人口一萬三千餘。

後方羊蹄山　山頂まで約一七粁半、山麓まで約七粁、夏季登山期六月中旬から九月中旬頃まで、山麓まで自動車がある。山麓半月湖畔の登山會本部には强力が居り、それから約五時間で頂上に達する。山は海拔一、八九三米、標式的圓錐形をなしてゐるので蝦夷富士の名がある。孤立した高山であるから絶頂に立つて眼を放てば四隣の群峰を脚下に壓し、洞爺湖の絶景も指呼の間に、又太平洋、日本海までも見渡される。

山頂には舊火口があり、附近一帶は駒草その他の高山植物が多く、一四粁乃至一八粁の間にあるニセコアン、チセヌプリ、ワイルスホンは山續きでスキーの理想鄉である。

旅館　南柯、大野屋、加賀屋。

函館線

京極線

京極（きやうごく）　膽振鐵道（京極、膽振間一〇粁八）接續點。京極は京極農場所在地で豆類、馬鈴薯その他雜穀を產する。

旅館　松東館、越中屋。

脇方（わきかた）　▼脇方鐵山　約一粁半、年產額六三、〇〇〇瓲。

小澤（こざは）　岩内線分岐點。

驛名の起原（その一）

長萬部（おしやまんべ）

アイヌ語「オシヤマンペ」から出てゐる。「比目魚の居る處」を意味し、比目魚又は鰈の漁獵豊富だつたためこの名があるといふ。又一說には春陽漸く訪れ長萬部山の殘雪が、比目魚の形に殘るのを見て土人は漁獵曆としたからであるともいふ。

上目名（かみめな）

アイヌ語「メナ」は「支流」又は「細流」を意味する。この驛は目名川の上流に在るからである。

蘭越（らんこし）　アイヌ語の「ラン、クシユ」で（下へ流れるの義）。昔土人が河水の流れる狀況を見て斯く稱したるに起因するものであらう。

倶知安（くっちゃん）　アイヌ語「クチアン、ナイ」（獵舍のある河の義）の上部を採つたもの。

錢函（ぜにばこ）　當地は昔から鰊漁場として知られ東北地方の漁民の來往繁く豊漁のため何れも生活豊かにして、各戸に錢函を備付けた事實に因んだといふ。

札幌（さつぽろ）　アイヌ語「サツ、ポロ」（乾いた廣い場所の意）から出たもの。昔時豊平川が氾濫した跡が乾いて廣大な原となつてゐたのに因る。

旭川（あさひがは）　アイヌ語でこの地方一帶を「チユプ、ペツ」と稱し、日出づる川を意味するより名づけたもの。蓋しこの地を流るゝ忠別川はその源を太陽の出る方即ち東方に發するに因る。

國富（くにとみ）　▼國富鑛山　約二粁、石膏硫銅鑛などを產し、年產額五、六〇〇瓲。旅館　島田、高橋。

岩内（いはない）　岩内は西海岸中函館、小樽に次ぐ要津で、附近に茅沼炭礦がある、年產額四六、七〇〇噸。海產物年產額二百三十五萬圓。魚粕肥料年產額二十一萬五千圓。旅館　南河、藤田。名物　鰊、鰮ノ子、アスパラガス。

銀山（ぎんざん）　▼轟鑛山　二〇粁、年產額金銀鑛八、五〇〇噸。

余市（よいち）　附近農村の中心地、また積丹半島交通の要津である。林檎の產地で年產額七十萬圓。又近海は以前鰊漁場で有名だつた處、余市鰊の名で知られてゐる、年產額百十四萬圓。

蘭島（らんしま）　▼海水浴場　約三三〇米、附近に「忍路高島及びもないが」の追分節で名高い忍路灣兜岩の奇勝がある。旅館　旭濤館、後藤。

小樽（をたる）　二五二粁五　小樽港は本道西部の關門で地勢北西南の三方に山陵を負ひ、市街は弓狀をなして海岸に沿うて西北から東南に延び、西南に高まつて丘腹に續いてゐる。本道開發に伴ひ港灣の修築も略成り、陸に石狩、天鹽の大平原の咽喉を扼し、海に本土の諸港を始め樺太、露領との交通繁く、商工業殷盛を極め、今や人口十五萬六千を有し西海岸唯一の要港として知られ昭和三年度の輸移出入五八二萬噸、五億五百萬圓。

製罐（年產額六百一萬圓）及ゴム製品（年產額百二十萬五千圓）などの工業が盛んである。市内には小樽、南小樽、小樽築港、手宮の四驛及色内假停車場があり、手宮線は南小樽驛から分岐してゐる。小樽築港驛は市の中心に位し、汽船との連絡が便利である。

▼小樽公園　西南約一粁一、これから西數百米に小樽高等商業學校がある。▼手宮公園　約一粁三、附近に古代文字がある。これは肅愼人が古代トルコ文字を以て「我は部下を率ゐ大海を渡り…戰ひ…此の洞窟に入れり」と書いたものであるとの説がある。人類學及考古學上重要なる遺蹟で指定の史蹟である。手宮驛からが近い。自動車市内貸切八十錢均一である。

旅館　北海屋ホテル、中貴ホテル、越中屋、加賀屋、大泉。

錢函（ぜにばこ）　▼海水浴場　約八七〇米、

札幌、小樽方面から來り遊ぶものが多い。▼ゴルフリンク　約八七二米、海水浴場の附近にあり、約一六、五〇〇アールある、本道唯一のゴルフリンクである。冬はここから和宇尻山、ユートピアその他手稲連峯へのスキーコースがある。ヘルペチユアヒユッテへはこゝから行く。旅館　川島、橋本。名物　甘酒まんぢゆう。

輕　川（がるがは）　廣漠たる石狩平野を控へて畜牛盛んに牛乳年産額二十三萬三千圓。

▼手稲山　東南二粁、海拔九八四米、本道有數のスキー地で我國最初の立派なスキー小屋があり、手稲パラデイースヒユッテと稱する。收容人員四〇名、奥手稲山、朝里岳、余市岳などとスキーコースを連絡して小屋の設備がよい。スキー季節としては十二月中旬から二月下旬頃まで特に休日はスキー客で賑ふ。

▼光風館鑛泉　南東約二粁、自動車三人まで一圓、冬期馬橇の便がある。　旅館　光風館。

琴　似（ことに）　▼北海道農事試驗場及同工業試驗場　約五四五米。▼三角山スキー場　驛から約二粁。

札　幌（さつぽろ）　二八六粁三　石狩平野の西部に位し、西南藻岩、手稲の連山を負ふ豐平川は市の東南を流れて對岸に豐平町あり、北海道廳、鐵道局、遞信局、稅務監督局、帝國大學、控訴院、放送局などを初め全道主腦官衙を網羅し、全道交通の中心點で行政上の首府である。人口十五萬七千(三、一二調)を有し、附近に農耕地を控へるので、林檎、玉葱、麻布、櫻桃などを產する。大日本麥酒株式會社、帝國製麻株式會社を始め多くの工場があり、殊に「サツポロビール」の名高く、年產額五百六萬圓餘に達する。又玉葱は次驛苗穗を主產地とし年產額四十萬圓。

自動車は市內貸切一圓均一、市內電車、市內乘合自動車、定山溪行乘合自動車などの便がある。▼中島公園　南二粁、豐平川の支流、園の中央を流れて清池を湛へてゐる。園內に拓殖館、岡田花園、大迫將軍銅像忠魂碑がある。▼植物園　半粁、北大の附屬で每年四月から十一月まで一般の入園を許し料金五錢。▼歩兵第二十五聯隊　東南四粁餘。▼月寒種羊場（農林省所管）　東南八粁。▼馬駒內種畜場（道廳所管）　南八粁。▼官幣大社札幌神社　西南四粁、圓山公園にあり全道の鎭守廟で、大國魂尊外二神を祀る。境內には櫻樹多く花期五月上中旬は觀櫻客が多い。冬季は南斜面でスキーができる。▼藻岩山

西南約六粁、後は深山に續き前は札幌市に臨み展望がきく、山中にはかつら、楡、こぶし、柳その他の固有樹木の種類夥しくその名世に知られてゐる。▼三角山　西南約六粁、スキー場として名高く、年々大會が催され競技場としてよい地形をなし、北海道帝國大學、北海道山岳會及札幌市設の三箇の固定ジヤムプ臺がある。その他砥石山、百松澤山へのスキーコースがある。期間は十二月中旬から三月中旬まで。

市內に桑園、苗穗兩驛があり、桑園は札幌から留萌線石狩、沼田に至る豫定線の分岐點である。苗穗驛は北海道鐵道の分岐點で、驛に接して鐵道省苗穗工場がある。

旅館　山形屋、岩手屋、中村屋、靜岡屋、日の出、札幌ホテル。

名物　札幌漬、キヤンデー、飴類、アイヌ細工、富利豆

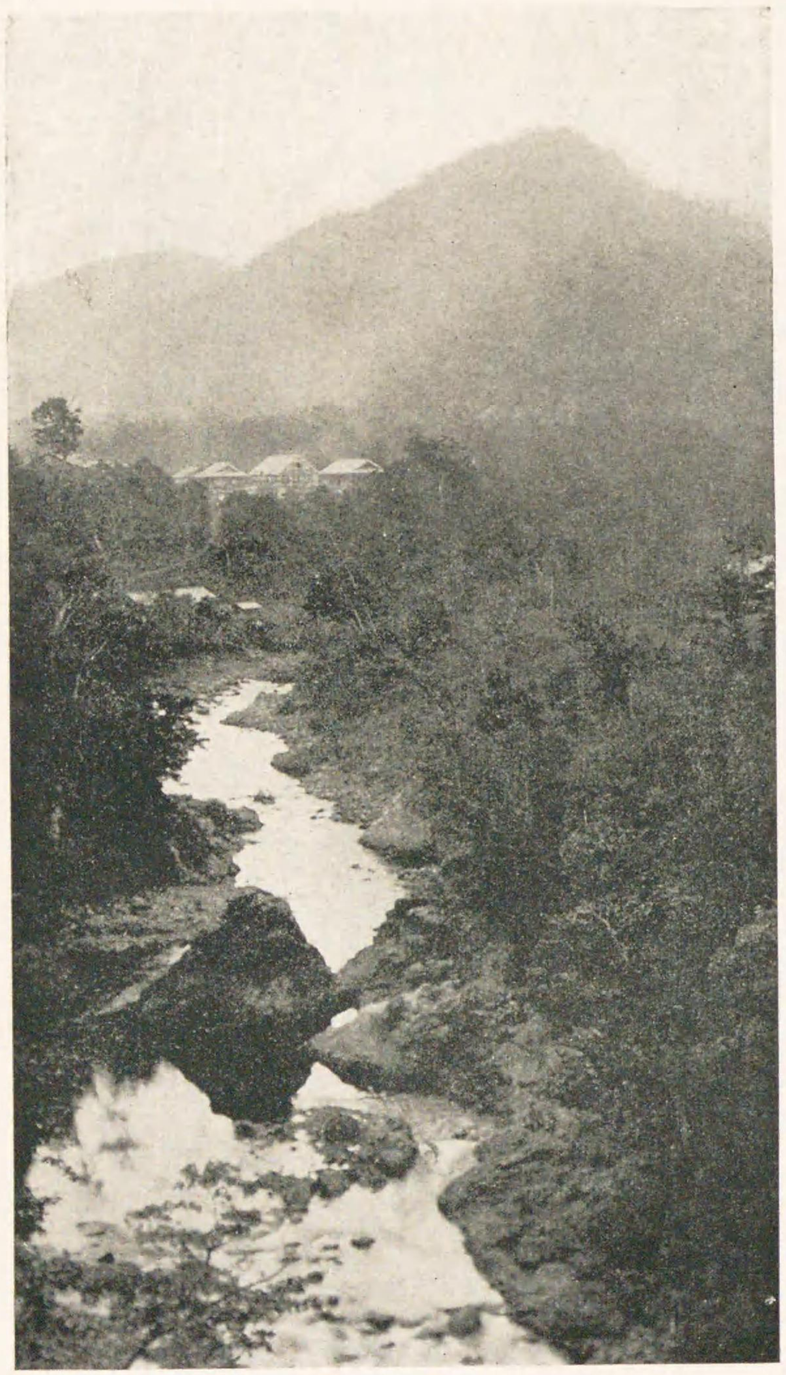
北海道廳は札幌市にあり、産業は水産を主とし鰊、昆布、鮭、鱈、烏賊、鰛などの産多く、内、鰊は北海道の水産界を代表するもので年産額一千七百十餘萬圓に上る。日本海、オホーツク海の沿岸は世界有數の漁場である。農業は石狩平野最も盛んにして、耕地の規模壯大に、大豆、小豆、豌豆、米、麥、蔬菜、馬鈴薯、玉蜀黍などを多く産する。その内、米は農産の根幹をなし年産額二百五十萬石に達してゐる。果樹には林檎、櫻桃がある。牧畜は馬を主とし、牛馬之に次ぐ。林産の主なるものは蝦夷(えぞ)松、椴(とど)松で鑛産には石炭、金、銀、銅、滿俺(まんがん)、硫黄があり、工業は製紙、製麻、製網、麥酒及清酒の釀造、澱粉、麥粉の製造業が盛んである。

白石（しろいし）　定山溪鐵道接續點。

定山溪鐵道　白石、定山溪間二九粁九。

定山溪（ぢやうざんけい）　▼定山溪(ぢやうざんけい)溫泉　驛附近、溫泉は豐平(とよひら)川の沿岸、山光水色の美を占め、旅館浴場完備し、春は櫻、夏は青葉、秋は紅葉、冬は皚白の雪を眺める歡樂境である。リウマチスその他諸病によい。旅館　定山溪ホテル、鹿ノ湯クラブ、定山園、ラジオカルク溫泉、鐵道ホテル。名物　林檎、莓、櫻桃。

石切山（いしきりやま）　▼空沼小屋スキー場　約一七粁、好スロープの連る處にあり、昭和四年二月に高松宮殿下來遊せられ「空沼小屋」と御命名になつた。スキーは十二月中旬から二月下旬まで。附近には帝室林野局の建設した休憩小屋がある。



定山溪溫泉

峡　雲　層

野幌（のつぽろ）　驛から南二粁二に道廳の經營にかゝる地積三五萬アール（三千五百餘町歩）の原生林及林業試驗場がある。人工林、天然林、更新利用など各種の試驗を實施しつゝある。椴松、蝦夷松などの大密林は天然記念物に指定されてゐる。近年この原始大森林内に本邦最初の組織的な「キヤムプグラウンド」を拓き眞の意味に於ける林間夏季大學を催さるゝに至つた。

▼野幌煉瓦工場　一一〇米。

江別（えべつ）　石狩、千歳兩河の相會する地點で、水陸交通の便が多い、石狩川汽船の起點である。▼富士製紙株式會社江別工場　八七三米、石狩川と支流江別川の合流點にあり、規模宏大にして車窓からも見える。年産額四七、四六五萬噸の多きに達する大工場で本道及樺太の木材を原料として新聞紙や包裝紙などを製造してゐる。

旅館　春日館。

岩見澤（いはみざは）　室蘭線及幌内線分岐點。石狩平野の中央に位し、本道の要衝に當り、且つ附近各炭田運輸交通の中心で、いはゆる空知（そらち）炭田の中心市場である。尚附近は燕麥の培養に適し年産額六十九萬圓各陸軍糧秣廠に送出せられる。

室蘭線はこゝを起點として南し、東輪西驛（ひがしわにし）から函館本線長萬部（しやまんべ）驛に通ずる長輪（ながわ）線を經て環狀線をなしてゐる。

▼北海土功組合灌漑溝　取入口を空知（そらち）郡赤平村空知川に發し、落口空知郡幌向村鶴沼に至る延長八四粁三、灌漑反別一一一萬アールに及び、規模の大なる本道第一のものである。

旅館　岩見澤ホテル、田村屋、豐島屋。

幌内線

幌内（ほろない）　▼幌内礦　八〇〇米、石炭年産額三三〇、五〇〇噸。

幾春別（いくしゅんべつ）　▼炭礦汽船株式會社　六五四米、年産額一七九、三五〇噸。▼住友坂炭礦株式會社　二粁二、年産額一四〇、三九二噸。▼東邦炭礦株式會社　一粁六、年産額九七、四三四噸。

美唄（びばい）　美唄鐵道接續點。美唄、常磐臺間一〇粁六、同線の沿線には炭田が多い、一帶の石炭年産額七百六十四萬圓。

旅館　美唄ホテル。

奈井江（なゐえ）　▼森永煉乳會社空知工場　ミルク、ドライミルク、バター、キヤラメルなどの乳製品を生産し年産額二百三十四萬圓。

砂川（すながは）　歌志内線分岐點。沿線には炭田が多い、この線は一は上砂川へ、一は歌志内に通じてゐる。

歌志内線

上砂川（かみすながは）　▼三井砂川鑛業所　五四五米、石炭年産額六四〇、〇八〇噸。

神威（かもゐ）　▼炭礦汽船株式會社神威礦　二二〇米、年産額二〇五、三三三噸

▼住友坂炭礦株式會社歌志内礦　約一粁半、年産額八〇、六九五噸

▼住友坂炭礦株式會社新歌志内礦　五粁九、年產額六二、一三〇六噸

▼三井礦山株式會社砂川礦業所文珠礦　一粁八、年産額六三、七六八噸。

歌志内（うたしない）　▼炭礦汽船株式會社　一粁四、年産額一九六、八七四噸。

▼住友坂炭礦株式會社上歌志内礦　七七〇米、年産額一六四、六六六噸。

▼株式會社南品洋行開北炭礦　一粁六。

▼住友坂炭礦株式會社策士礦　一粁六、年産額五、八六六噸。

瀧川（たきかは）　三六九粁八　根室本線分岐點。牛乳の產あり、年額九九二、一四五立に及ぶ。

旅館　さぬき屋。

深川（ふかがは）　留萌線及雨龍線分岐點。

旅館　川村、北越館。

留萌線

この線は留萌を經て、增毛までと、留萌から鬼鹿までの支線である。

留萌（るもえ）　西海岸の要港で、留萌川の川口にある。鰊〆粕の年産額約三十五萬六千圓、品質よく明治初年以來の特産物となつてゐる。

旅館　留萌ホテル、太刀川旅館。

增毛（ましけ）　寶曆年間（一八〇年前）から鰊漁が發達して居り、その年産額約百四十萬圓に達する。

旅館　上野。

雨龍線

深川から岐れて幌加内まで開通してゐる。

神居古潭（かむねこたん）

▼神居古潭　峻峰相對して石狩川の兩岸窄り、巉岩屏障の如く立つところ、悠々と流れ來る水は、こゝに潜める石に弄ばれ岩に囁いて、藍碧の深淵をなしてゐる。驛前の巖上から眺望すれば山光水色一段と趣がある。對岸にコロボックル人種の竪穴及鑛泉がある。

近文（ちかぶみ）　▼舊土人部落　東北七七〇米、現在戸數六十三戸、人口約三百人あり、農業に從事し、各戸一〇〇アール（一町歩）宛の耕作をしてゐる。

旭川（あさひかは）　四二五粁一　宗谷線及富良野線分岐點。上川平野の中心に位し、石狩川の南岸にあり、忠別、牛朱別の二川市街を挾んで流れてゐる。市は全道の中心に當り、第七師團司令部の所在地である。今人口七萬八千（四、三調）を有し、酒、酒精、醬油、味噌、下駄木、鉛筆などを產する。

市の附近はいはゆる上川平野の米產地で年產約百萬石に上る。

▼神樂ケ岡　南三粁三、自動車がある。忠別、美瑛兩川の間に横はり近く旭川市街を俯瞰し、遙かに本道第一の高山ヌタクカムシツペ山及オブタテシケ山を望む。

市內遊覽の貸切自動車は旭川驛から常磐公園、第七師團、近文舊土人部落、神樂岡を經て旭川驛に歸着する。所要時間約二時間、五人乘一臺賃金三圓五十錢。

旅館　北海屋ホテル、三浦屋、宮越屋、笹岡屋、越後屋

宗谷線

一　宗谷本線　旭川、幌延、稚內港間　二五八粁九

一　石北西線　新旭川、上川間　五七粁二

一　北見線　音威子府、濱頓別、稚內間　一五一粁一

その本線は旭川を起點として北し、名寄、音威子府、幌延を經て樺太への渡港稚內港に至つてゐる。函館本線と相俟つて我鐵道幹線の一部をなし、函館から稚內への直通急行あり、函館から約二十三時間旭川から約九時間を要する。

支線には新旭川から上川に至る石北西線、音威子府から濱頓別を經て海岸に沿うて稚內に至る北見線があり、名寄からは名寄線が岐れて野付牛、網走へ接續してゐる。

驛名の起原（その二）

宗谷線には小頓別、上頓別、中頓別、下頓別、中頓別、下頓別、濱頓別と「頓別」の付いた驛が七驛もある。

この頓別はアイヌ語「トウ、ウン、ペツ」から轉じたもので「沼から出る川」を意味する。蓋し頓別川の最大支流クッチャロ川はクッチャロ湖に源を發するを以て、この附近一帶の地は元これを頓別村と總稱せられたのである。

宗谷本線

旭川（あさひがは）　函館本線參照。

新旭川（しんあさひがは）　石北西線分岐點。

石北西線

將來石北東線と會して湧別線遠輕に接續すべき線である。列車は旭川を起點として終點上川まで約二時間餘を要し、大雪山と層雲峽の勝を探るにはその上川からするのである。

上川（かみかは）

層雲峽　旭岳を主峯とする大雪山彙の北を劃する石狩川上流の稱で、上川から峽の中心點たる層雲峽溫泉まで約二四粁自動車の便がある。但し五月から十月まで。

層雲峽の美はその溫泉を中心とした上下約二〇粁の間に萃り、左右の斷崖壁立して石狩の碧水を挾み、柱狀の節理を成せる流紋岩の奇峯連續するところにある。小謙山、瀧、姫岩、白絲ノ瀧から小函に至つて最も奇構を見る。溫泉、小函間往復八時間を要する。小函から奥一二粁更に大函の勝がある。

旅館（上川）田邊、板東、近江屋。（層雲峽溫泉）層雲閣、登仙閣。

旭岳登山　北海道山岳の雄を誇るに足るものは旭岳を主峯とするいはゆる大雪山彙で、北海道中央山脈の骨髓をなし、旭川平野を走る汽車中から雪を戴く杉大な山群を仰ぐであらう。上川から層雲峽溫泉に行つて層雲峽の勝を探つた人は、そこから登山するがよい。層雲峽溫泉（石北線上川驛から層雲峽溫泉まで二四粁自動車がある）から黑岳に至る八粁の間登山道路が開かれ、黑岳から旭岳まで六粁約三時間で登れる。旭岳には石室の設あり、石室から幣ノ瀧を經て松山溫泉まで下り二〇粁、松山溫泉から東川まで二四粁、東川から旭川まで電車の便がある。登山者は旭川を早朝に出發し、電車で東川に至り當日中に松山溫泉に至り一泊。翌日早朝大雪山頂上を極め、大雪山を縱走して黑岳に至り層雲峽溫泉に下るがよい。

名寄（なよろ）　七五粁九　名寄線分岐點。附近耕野が多い。名寄はアイヌ語のナイオロコタンで谷にある村の意である。燒酎、亞麻製絲を產する。

名寄線はこゝから中湧別まで一二一粁九の間をいふ。途中渚滑驛から北見瀧ノ上まで三四粁三の間渚滑線が通じてゐる。

旅館（名寄）富士屋ホテル、井川館、武藏屋。

和寒（わつさむ）　除蟲菊（千花）の年產額約二十三萬一千圓に達し神戸、和歌山方面へ移出する。

士別（しべつ）　士別軌道（士別、奥士別間二二粁）接續點。澱粉（年產額百十三萬四千圓）、甜菜、除蟲菊の產がある。

旅館（士別）㊎別館、兩國屋。

音威子府（おといねつぷ）　一二九粁二　北見線分岐點。

旅館　松尾、相澤、菅井。

驛名の起原（その三）

音威子府

アイヌ語も同樣「オトイ、ネツプ」で濁つた泥川又は漂木の堆積する河口を意味する。この驛附近で音威子府川が天鹽川に注ぎ、よくその事實を見るからである。

北見線

敏音知（びんねしり）　▼ビンネシリ山　山麓まで約二粁、海拔約三六〇米、登山季節五月から十月まで。附近一帶森林豐富で製材が盛んである。

濱頓別（はまとんべつ）　驛を後にすると左にクツチヤロ湖が見える、周囘約四〇粁、原始林に包まれた靜寂な境で、ビンネシリ山が仰がれる、三、四月頃には鴨や白鳥が來て異觀を呈する。名物、蜆、鰈、鮭。

聲問（こゑとひ）　▼海水浴場　約半粁、遠淺の砂濱で、北部唯一の海水浴場である。特產沃度（粗製）、鮭。▼村井石油礦　西北約二粁。

筬島（をさしま）　こゝから譽平驛へ到る沿線には鬱蒼とした原始林が眼を惹く。

幌延（ほろのべ）　▼天鹽町　驛から約二四粁、天鹽川發動機船の便がある、四月から十一月まで一日三往復運航、賃片道一圓二十錢、町は日本海に臨み天鹽川口にあり人口約八千、漁業地として知られてゐる。

豐富（とよとみ）　豐富、德滿附近馬鈴薯を產する。▼豐富溫泉　約五粁、自動車の便がある。鹽類泉でラヂユウムの含有量が多いといふ。旅館　松尾、井上。

稚內（わつかない）　本道の最北端、ノシヤツプ岬と宗谷岬とで抱かれる宗谷灣の西南に位し、後に急峻な一帶の丘陵を負ひ、前は宗谷灣を隔てゝ宗谷岬と相對し、北は遙に樺太の山影が望まれる。樺太との交通要路で大泊との間に鐵道省經營の連絡船あり、四月から十一月までは毎日、十二月中は偶數日、

一月から三月までは指定の日に運航し夏季は八時間、冬季は九時間を要する。又樺太の本斗との間に北日本汽船及近海郵船の定期船便がある。

旅館　木谷、菅野ホテル、井上、松尾。

名物　蟹罐詰、昆布、ナマコ。

稚內港（わつかないみなと）　こゝから利尻島、禮文島、小樽への航路は藤山汽船會社と北海郵船會社との汽船便がある。

利尻富士　海拔約一、七〇〇米、秀峯海上に聳立し樺太への船上でその山容に對し歎美の聲を發せぬ旅行者はあるまい。登山季節六月下旬から九月まで、稚內から鴛泊へ定期船が出る。賃二圓十錢。

大泊　樺太の南端に於ける樞要の地、千歲灣に臨み、樺太島唯一の貿易港として繁盛な街衢をなしてゐる。

樺太の鐵道

樺太廳鐵道線　本線は大泊から豐原を經て榮濱に到る九二粁五を本線とし、小沼から川上炭山に至る二一粁六の支線がある、大泊、榮濱間三等二圓二十八錢、二等四圓五十六錢、小沼、川上炭山間三等四十五錢、二等九十錢。西海岸線は本斗から眞岡を經て野田まで九四粁、賃金三等二圓三十一錢、二等四圓六十二錢。別に豐原と眞岡とを連接する豐眞線がある。この區間八五粁九、三等一圓九十六錢。

樺太鐵道　本線落合驛から一七〇粁四、知取まで通じてゐる。

南樺太鐵道線　本線新場驛から留多加まで一八粁五の間通じてゐる。

樺太廳は豊原町にあつて樺太島の邦領全部を管轄する。樺太の領有については江戸時代の末頃、露國の東方經略に從つて日露兩國間に屢々爭ひあり、遂に明治八年千島樺太交換條約の締結に依つて一旦露領に歸したがその後日露役の結果、明治三十八年ポーツマス條約に依つて北緯五十度を境界線としてその以南は再び我皇化に浴するに至つた。

管内一般に牧畜盛んにして特に養狐に適し又礦産としては石炭、石油に富み、林業は本島の主要物産を占め就中椴松、蝦夷松は製紙原料たるパルプ資材として内地に移出するもの巨額に達してゐる。

沿海は水産業盛んにして鰊、鱒及鮭の產に富み尙海豹島には無數の海豹が棲息してゐたが近時腦肭臍のために擊退せられ今は東海岸各所に出沒する。又鯨は西海岸南部から能登呂岬附近に群游しこれまた樺太水產の主要なものである

樺太節

行こうよ船頭さん一ノ澤沖へ
　船は網船鰊船
沖の鰊は岸までよせる
　荷馬車引き込めすくひ込め
　　インヤイーンヤインノサ

噴る、雪道スキーに乘つて
　鈴谷嶽から見おろせば
ペチカ煙りて天地眠る
　都豊原よい所
　　インヤイーンヤインノサ

眞岡節

行くにや及ばぬ亞米利加なぞへ
　　エンヤラヤイノヤー
北に樺太ありながら
山には千古の綠の林
海には白鱗躍る波
早くナー　早くお出でよ樺太へ
　エンヤラヤイノヤーエンヤラホイノホイ

室蘭線

一	室蘭本線	岩見澤、室蘭間　一三九粁五
一	萬字線	志文、萬字炭山間　二三粁八
一	夕張線	追分、夕張間　四三粁九
		紅葉山、登川間　七粁七
一 日	高線	苫小牧、靜內間　七九粁二

その本線は岩見澤を起點として南し、志文で萬字線を、追分で夕張線を、苫小牧で日高線を岐ち、そこからは太平洋岸に沿うて室蘭に至つて止まる。この間約四時間を要する。

室蘭本線

岩見澤（いはみざは）　函館本線參照。

志文（しぶん）　萬字線分岐點。萬字炭山驛附近には萬字炭礦があり、年產額二七、五〇〇噸。

清眞布（きよまつぷ）　驛附近は石狩原野の東部に位し、燕麥の產があり、年產額二十萬三千九百圓。

栗山（くりやま）　北海道產米中最も品質優良の稱ある角田米を產し、年產額約一百萬圓。甜菜も產し、年產額七萬二千圓に達する。

由仁（ゆに）　米を產し、年產額百三十六萬四千圓、甜菜年產額八萬七千圓。

追分（おひわけ）　夕張線分岐點。

夕張線

この線は夕張炭山の運炭線であるが、川端驛から幾度か夕張川に沿ひ風光の賞すべき處も多い、紅葉山驛は附近一帶に楓樹が多いのでその名がある。こゝから登川に至る支線があり、沿線に楓炭礦、登川炭礦があり、紅葉山から夕張に至る沼ノ澤、清水澤、鹿ノ谷（夕張鐵道會社の分岐點）の各驛附近にも多くの炭礦がある。夕張驛はこの線の終點で夕張炭山の所在地、炭山は本道第一の大炭坑で九州の三池と併稱され、年產額一二〇萬噸、七百十七萬五千餘圓に達し、道內、東京、横濱、名古屋、大阪、京都、神戸及香港方面へ移出する。旅館（夕張）丸梅、山形屋。

早來（はやきた）　早來軌道（振老まで八粁）接續點。

驛附近木炭年產額三十一萬一千俵、金額四十六萬六千五百圓。

▼鶴ノ湯溫泉　約一粁。旅館　仙遊館。

沼ノ端（ぬまのはた）　北海道鐵道接續點。

同線はこゝから左右に岐れ、北するは札幌線で函館本線苗穗を起點とし、東するは金山線で天產に富む膽振東部を經て根室線金山に通ずる豫定、現在邊富內まで開通してゐる總延長一二八粁六。

苫小牧（とまこまい）　日高線分岐點。

この線の途中佐瑠太から平取まで沙流軌道があり、平取にはアイヌの古祠平取神社がある。尙終點靜內からは自動車で新冠の御料牧場及浦內の陸軍種馬牧場へ行ける。

苫小牧は王子製紙會社が工場をこゝに設けたため急速な發達を來した市街である。洋紙年產額二千九百七十萬圓。こゝから支笏湖へは夏季は社の專用鐵道の便がある。

支笏湖　王子製紙會社の專用鐵道に便乘して湖畔に下車する。千歲川の上流にある大湖で、周回四〇粁湖面は海拔約二六〇米、深度約四九〇米、深いため冬季結氷せぬ。湖畔に惠庭、樽前の二山が相對立して景趣を添へてゐる。湖畔は避暑に適し、湖中に姫鱒、サワカニなどを產する。

錦多峯（にしきたっぷ）　附近は鈴蘭が多い。▼樽前山　山頂まで一九粁、支笏湖盆の南緣にある扁平な複式火山で近年屢々活動した。南麓の裾野は海岸に延び、この線旅行者に忘られぬ印象を與へる。

白老（しらおい）　▼アイヌ部落　南約一粁、現在戶數八十餘、人口三百六十。

▼仙臺陣屋址　西二粁。旅館　宮川、泉。

登別（のぼりべつ）　一一四粁六　登別溫泉軌道接續點。石材を產し年產額九萬九千圓に達する。

登別溫泉　西北八粁六、登別溫泉軌道の便あり、電車片道五十錢、途中紅葉谿の勝がある。

登別は本道白眉の溫泉で、峯巒四周の地。湯元及地獄谷は溫泉市街の上方約半粁、附近一帶の巖石恰も劍を植ゑたやうで、劍ケ峯の下に白煙濛々として熱湯を噴出し物凄い狀景を呈してゐる。附近に大湯沼あり、鹽湯ノ池あり、山溪に、沼に、湯の湧かない處はない。泉質は明礬泉、硫黃泉、鹽類泉など種々あつて婦人病、リウマチス、皮膚病、腺病などによい。

旅館　第一瀧本館、第二瀧本館、湯ノ瀧、瀧見館、丸和。

▼カルルス溫泉　登別溫泉から西北六粁、自動車八十錢。青巒四周の靜境で紅葉がよい。登別の脂粉の

氣漲れるに對して、こゝは全くの療養溫泉としての價値を有する、腦及神經諸病などによい。旅館　岩井、鈴木、洗心館。

▼**倶多羅湖**　登別溫泉から東約四粁半、平易な新道が通じてゐる。湖中には姫鱒を產する。秋は紅葉が湖水に映つて美しい。湖畔に中尾氏夫人の簡易宿泊所がある。

幌別（ほろべつ）　硫黄を產し、年產額百六萬二千圓に達する。

東輪西（ひがしわにし）　長輪線分岐點。同線はこゝから函館本線長萬部に接續してゐる。

御崎（みさき）　鐵及鋼製品を產し、年產額約三百五十萬圓に達する。

室蘭（むろらん）　一三九粁五

鞆繪半島の腰部、內浦灣の東南岸にあり、東海岸の要港である。今人口四萬五千（三、三調）昭和三年度貿易額輸入百七十五萬七千圓、輸出二百七萬六千圓。

石炭、木材、鐵類、卷取洋紙、木炭、魚介などの集散が多い。東約三粁には日本製鋼所、北西四粁には東洋捕鯨會社がある。測量山は市の背後にあり、山海の眺望雄大である。山麓には八幡神社がある。

旅館　福井館、創成館、中村。

名物　鰊燻製、うに煎餅、いかの鹽辛。

驛名の起原（その四）

登別（のぼりべつ）

アイヌ語で「ヌプル、ペツ」と稱し濃厚な川又は「濁川」の義である。こゝを流れる登別川は附近溫泉の硫黄分を含める湯を流して白濁するからである。

根室線

一　根室本線　瀧川、根室間　四四六粁六
一　富良野線　下富良野、旭川間　五四粁八
一　廣尾線　帶廣、中札內間　二八粁一
一　士幌線　帶廣、上士幌間　三八粁四
一　釧網線　東釧路、弟子屈間　七〇粁五

その本線は函館本線瀧川驛から分岐し、空知川の溪谷に沿うて下富良野に至り、こゝで富良野線を岐ち落合に至れば海拔已に四〇〇米、汽車はこれから上り勾配を進んで狩勝に至る。狩勝を後にすれば隧道を潛つて、こゝに狩勝峠の展望が開かれ、石狩、十勝の國境を縫うて下るのである。車窓眼を放てば翠黛描けるが如き佐幌嶽は幾度か右に左にあり、見下せば十勝の高原茫々として際涯を知らず、展望實に開豁である。かくて帶廣で士幌線及廣尾線を岐ち池田で網走本線と會して東海岸に出で、厚內からは景趣雄大な海岸を走つて釧路に至り、東釧路で釧網線を岐ち厚岸を過ぎて根室に著く。

函館、根室間には直通列車一回あり、約二十九時間で達する。

驛名の起原（その五）

大樂毛（おたのしけ）

アイヌ語で「オタ、ノケシ」と稱する。濱中の義で、こゝは白糠釧路間海濱の中央に位するを以て名づけたもの。

根室本線

驛名の下に記せるは函館からの粁程

瀧川（たきがは）　函館本線參照。

幌倉（ほろくら）　▼農林省種羊場　北約一粁。

茂尻（もしり）　附近に大倉炭礦がある。

平岸（ひらきし）　附近に豐田炭礦がある。

下蘆別（しもあしべつ）　附近炭礦多く、三菱蘆別炭礦、久原邊溪炭礦などがある。旅館　蘆別館、沼田。

奔茂尻（ぽんもしり）　▼空知瀧　二粁。前驛の野花南との間秋季紅葉の美がある。

島ノ下（しまのした）　▼島ノ下鑛泉　北一粁三旅館、堀川。

下富良野（しもふらの）　四二七粁四　富良野線分岐點。▼鳥沼　東四粁、紅葉の勝地。旅館　割、福島屋。

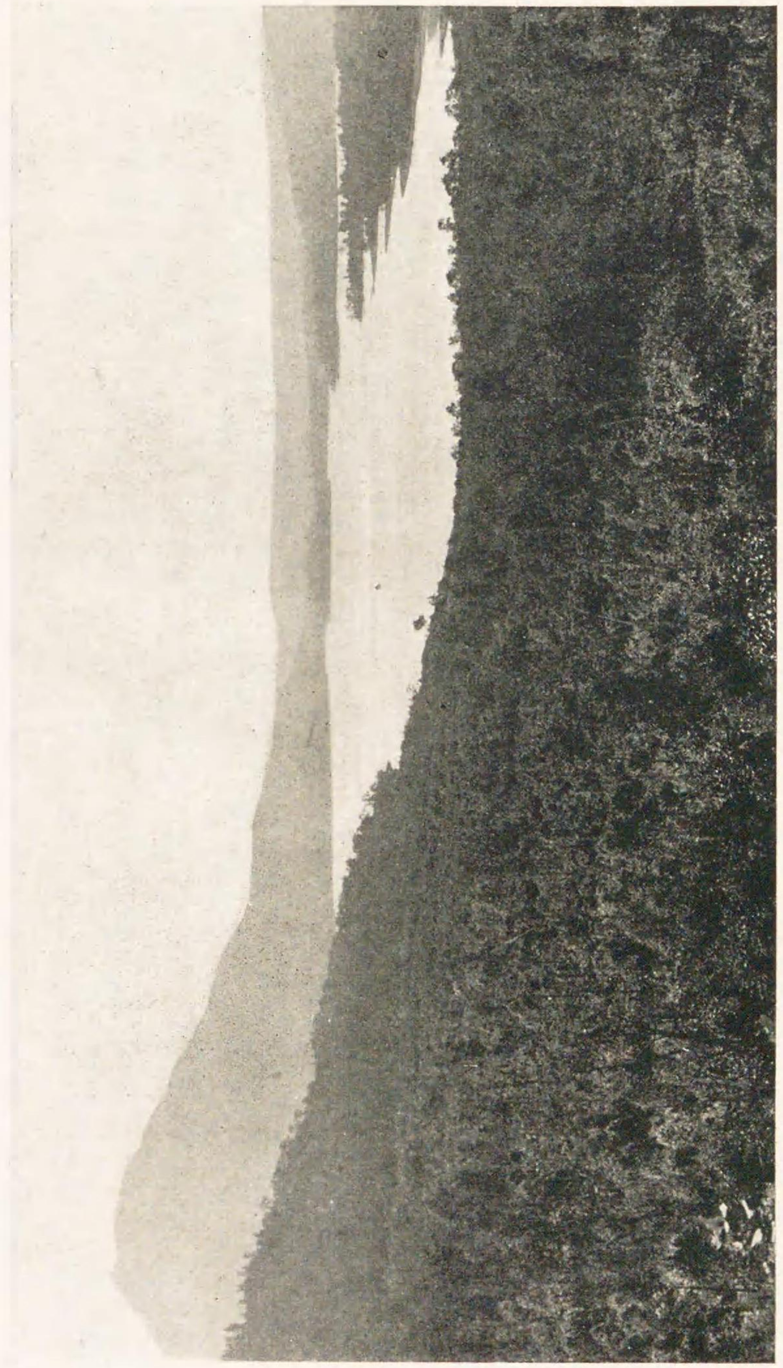
富良野線

上富良野（かみふらの）　▼吹上溫泉　東約一六粁、自動車の便がある。皮膚病、婦人病などによい。

溫泉は十勝岳の中腹にあり、十勝岳登山によく、冬はスキー場として近來名高く北大の合宿所があり、冬は馬橇が通ずる。

旅館　吹上溫泉旅館。

金山（かなやま）　▼空知川沿岸の紅葉　瀧川から落合に至る間、汽車は殆んど常に川に沿うて走り秋季紅葉の美を現し、この驛附近特にその眺觀が勝れてゐる。▼富士製紙金山パルプ工場　空知川の



阿寒湖

對岸近く見えるのがそれである。

落　合（おちあひ）　空知川本支流の合流する處で海拔約四〇〇米、四邊松樹蓊鬱として翠色眼に迫る。▼狩勝平原　日本八景の一、落合、新内（次驛）間はいはゆる狩勝の國境で雄大な展望美をもつ。▼落合原生保存林　東六粁、古來斧鉞を入れないエゾ松、トド松の美林である。本林に接してエゾ松試驗林がある。

新　得（しんとく）　北海道拓殖鐵道接續點。▼然別湖　北海道拓殖鐵道により瓜幕驛下車、こゝから湖畔まで約一六粁、途中一二粁の扇ケ原まで自動車（六十錢）がある。扇ケ原は海拔約九〇〇米、十勝平原を見下し石狩、日高の連峯を望み景觀雄大である。湖は十勝國の西北隅、石狩十勝の國境に近く、海拔約八〇〇米、南北六粁、東西約二粁、周回約一六粁、水深二〇〇米に及び實に北海道湖沼中最深のものである。水清く、いはな、ざりがに、たにし、山椒魚などが棲息してゐる。湖畔には溫泉もあり、湖邊一帶の峰巒は針葉、濶葉樹混淆の一大原始林に蔽はれ岩松、岩つゝじ、石楠花などの高山植物に富んでゐる。

旅館　（湖畔）清野、海野驛遞。

清　水（しみづ）　河西鐵道接續點。▼明治製糖會社清水工場　約半粁、甜菜から白砂糖を製する。年產額一三、〇〇〇噸。河西鐵道は鹿追まで二七粁四を本線とし、別に北熊牛、南熊牛、上幌内方面への支線がある。▼然別湖　約三八粁、自動車扇ケ原まで二圓、そこから湖畔まで約二粁。（新得驛參照）

帶　廣（おびひろ）　五五四粁六　士幌線及廣尾

根室線

線分岐點。十勝鐵道接續點。

十勝（とかち）、幌内（ほろない）二川の會輳點で整然たる街衢をなし、河西支廳の所在地、今人口二萬二千、地勢廣濶、地味肥沃、農產物豐富で、十勝國物資の集散市場である。然別湖（しかりべつ）遊覽の自動車はこゝからも行く。▼北海道製糖會社工場　南約四粁自動車の便がある。甜菜（てんさい）から白砂糖を製する。年產額十八萬俵。▼鮭人工孵化場東約二粁、十勝川の沿岸にあり、毎年幼魚八萬三千餘尾を十勝川に放流する。▼十勝產牛馬畜產組合市場　西南約一粁、毎年四、八、九、十一月の驛市には毎回二千餘頭出場する。▼舊土人部落　西四粁、人口百六十餘人、主として農漁業に從事してゐる。

旅館　信陽館、北海館。

十勝鐵道は新帶廣、西太平間、藤、土美生間、常磐、千代田間で延長五七粁。

止若（やむわつか）　▼新田ベニヤ製造所十勝工場　驛附近、ベニヤ板の製產年額洋式ドアー板二七、六〇〇平方米。ベニヤ板、ベニヤドアー合せて年產額一百萬圓。旅館　淺水、竹内、三河屋。

池田（いけだ）　五七六粁九　網走本線接續點。▼富士製紙株式會社池田パルプ工場　北二粁、パルプの年產額二八、九〇〇噸。旅館　千龍館、末廣館

豐頃（とよころ）　▼二宮農場　南一二粁、興復社といふ。二宮尊德の令孫尊親氏の經營になる模範農場で、内務大臣から表彰せられてゐる。

白糠（しらぬか）　▼舊土人部落　東南約二粁土人は漁業に從事してゐる。▼軍馬補充部釧路支部西二粁。

大樂毛（おたのしげ）　驛附近に於て毎年八、十、十一月の三回牛馬の驛市があり本道第一である。最近一ケ年の取引額二千七百三十頭、三十六萬四千五百圓。

新富士（しんふじ）　▼富士製紙會社釧路工場主として新聞用紙にしてその他の洋紙類を合せて年產額五百五十萬圓。

釧路（くしろ）　六八一粁　釧網線（せんもう）分岐點。（東釧路）雄別炭礦鐵道接續點。本道東海岸に於ける唯一の要津である。昭和三年度貿易額輸入一萬六百七十六圓、輸出三千四百七十二萬圓に上る。

市街は釧路灣に面し、釧路川を挾んでゐる。海陸の交通を兼ねてゐるので釧路、十勝、北見、根室の物資集散市場となり、今人口四萬四千（四、三調）を有し、目下工事中の築港（大部分完成）及釧路川治水工事の完成竝釧網線全通の曉には一躍大都市を形成すべく準備中である。

▼春採湖（はるとりこ）　驛から三粁三、釧路臨港鐵道の便がある。湖の南端は殆んど海に接し、湖中舟遊、釣魚に適し、その北岸の高地は上水道の貯水池で附近一帶は公園豫定地となつてゐる。太平洋の怒濤と阿寒（あかん）の雄姿に接し風光のよい處。冬はスキー場として知られてゐる。▼知人岬（しりと）　南約三粁、自動車がある。釧路港の南壁をなし燈臺があつて山海の風光がよい。

▼アイヌの砦趾（チャシ）　東約二粁、茂尻矢にあり、砦趾を中心として附近丘陵に穴居の跡が多い。

旅館　富士屋、**因**、近江屋、山形屋、輪島屋。

雄別炭礦鐵道　釧路から雄別炭山（ゆうべつたんざん）に至る四四粁一、賃一圓十錢、主として阿寒地方に豐富に包藏する石炭の採掘輸送を目的とし、線路は多く阿（あ）

寒川に沿うて溯り、途中平戸前、舌辛驛などがある。阿寒湖の遊覽にはその舌辛驛に下車して行くがよい。

釧路臨港鐵道　市内東釧路驛から接續して入船町驛に至る八粁七、賃金十錢均一、主に太平洋炭礦の石炭を運搬してゐる。

阿寒岳と阿寒湖　釧路驛から雄別鐵道により舌辛驛に下車し、こゝから湖畔まで約四三粁の間、乘合自動車賃一人三圓、約二時間半を要する。雌阿寒嶽頂上へは湖畔から一粁三、徒歩約四時間登山極めて容易である。

北海道の神祕的原始景觀に接し得るのは阿寒地方のみであるとされてゐる。阿寒湖盆地は一の火山陷沒地で、中央火山たる雄阿寒は富士形の英姿を現し海拔約一、六〇〇米、頂上には著しい火口なく全山針葉樹を以て覆はれてゐる。

雌阿寒は雌山、小雌山、阿寒富士から成り、海拔一五八六米、活火山で山腹は高山植物に富んでゐる。山巓に暗綠色の湯沼（青沼）及暗赤色の湯沼（赤沼又は血ノ池と稱す）あり、四周に爆發龜裂があつて、凄愴を極めてゐる。

噴火口は青沼から約三六米程離れ口徑三三〇米、常に硫氣を噴出しその上昇約三〇米に及んでゐる。四顧頗る濶く、群峯脚下に連り、遙かにオコツク海、太平洋、釧路及十勝の平原を望み、遠く石狩嶽、大雪山に對して風光雄大である。

阿寒湖はその雌雄阿寒嶽の中間にあり海拔約六〇〇米、周回約二六粁、湖中に大小二十餘の小島散綴し、その主なるものチウルイムシ、ヤイタイムシリオンネムシリ、ポンムシリの四島で、全島樹林を以て蔽はれ風致を添へてゐる。

湖畔には溫泉豐富に湧出し、諸種の疾患に效能があるので浴客も相當に多い。

附近に泥火山（土俗ボッケと稱す）があつて暗灰色の熱泥が噴出してゐる。なほ附近數ケ所には熱湯を噴出する多くの噴氣口がある。

湖上舟を泛べて阿寒川の水源地瀧ノ口に至れば兩岸狹く綠樹に蔽はれ、雄阿寒嶽の雄姿冗として雲表に聳え、風趣いふべからざるものがある。

湖中からは姫鱒、うぐいなどを產し、また毬藻と稱する珍らしい植物が浮み、天然記念物に指定されてゐる。

旅館（湖畔）　山浦、井上、土田。

釧網線

釧路、弟子屈間開通し、將來は網走線札鶴と接續する豫定である。

塘路（たろろ）　▼塘路湖　東北半粁、周回約二二粁、南北に長く、舟遊釣魚に適し、周圍は鬱蒼とした樹林に蔽はれ、北方は雌、雄阿寒に接して風光がよい。湖水には魚類が多く公魚、鮒、鯉を產する。また菱（土人之を「ベカンベ」と稱し往時食料としたもの）を產し、毎年八月土人等ベカンベ祭を行ふ。▼シラオトロ湖　東北約二粁、周回一二粁餘、魚類多く風光がよい。

標茶（しべちや）　▼釧路軍馬補充部川上支部　一粁半、明治四十一年の創立で二〇〇萬アールの地積を有し、現在軍馬一千五百頭を飼育する。

弟子屈（てしかが）　釧網線の終點で附近は名勝や溫泉に富んでゐる。

▼弟子屈溫泉　驛から約半粁、自動車がある。外傷、リウマチス、婦人病などによい。旅館　本山　土沼。

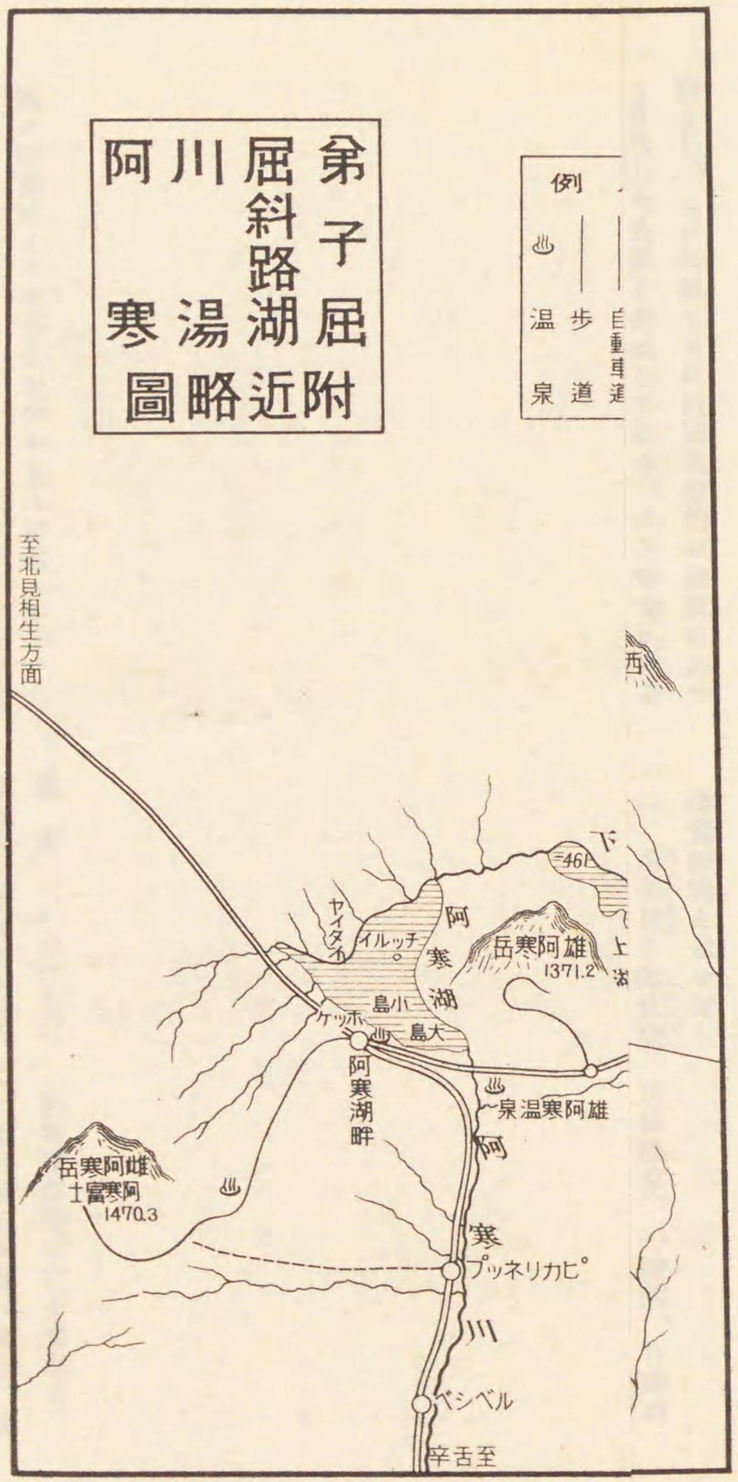
▼當別溫泉　驛から一粁半、附近櫻樹が多く花時は美觀を呈する。旅館　青木。

▼摩周湖　驛から一〇粁、摩周岳の中腹にあり、四周連山を以て圍まれてゐる。火山陷沒湖で水面海拔約三七〇米、周回二四粁、清澄の水を湛へ、中に小島（カムイトウ）があつて風致を添へてゐる。東岸の神威岳（カムイヌプリ）に登れば展望開濶、釧路、根室の大平原から遠く大平洋、オコツク海及千島まで望見される。

▼屈斜路湖　驛から一六粁、本道第二の大湖（火山陷沒湖）で釧路川の水源をなしてゐる。周圍に山を繞し、湖の中央に中島（周圍一二粁、高さ三三〇米）があり斧鉞の入らぬ大樹林に蔽はれてゐる。

湖の南端には和琴半島が突起し、その岬端には溫泉が湧出してゐる。湖の東岸にも到る處溫泉が湧き池ノ湯、赤湯、砂湯、仁伏などその主なるものである。

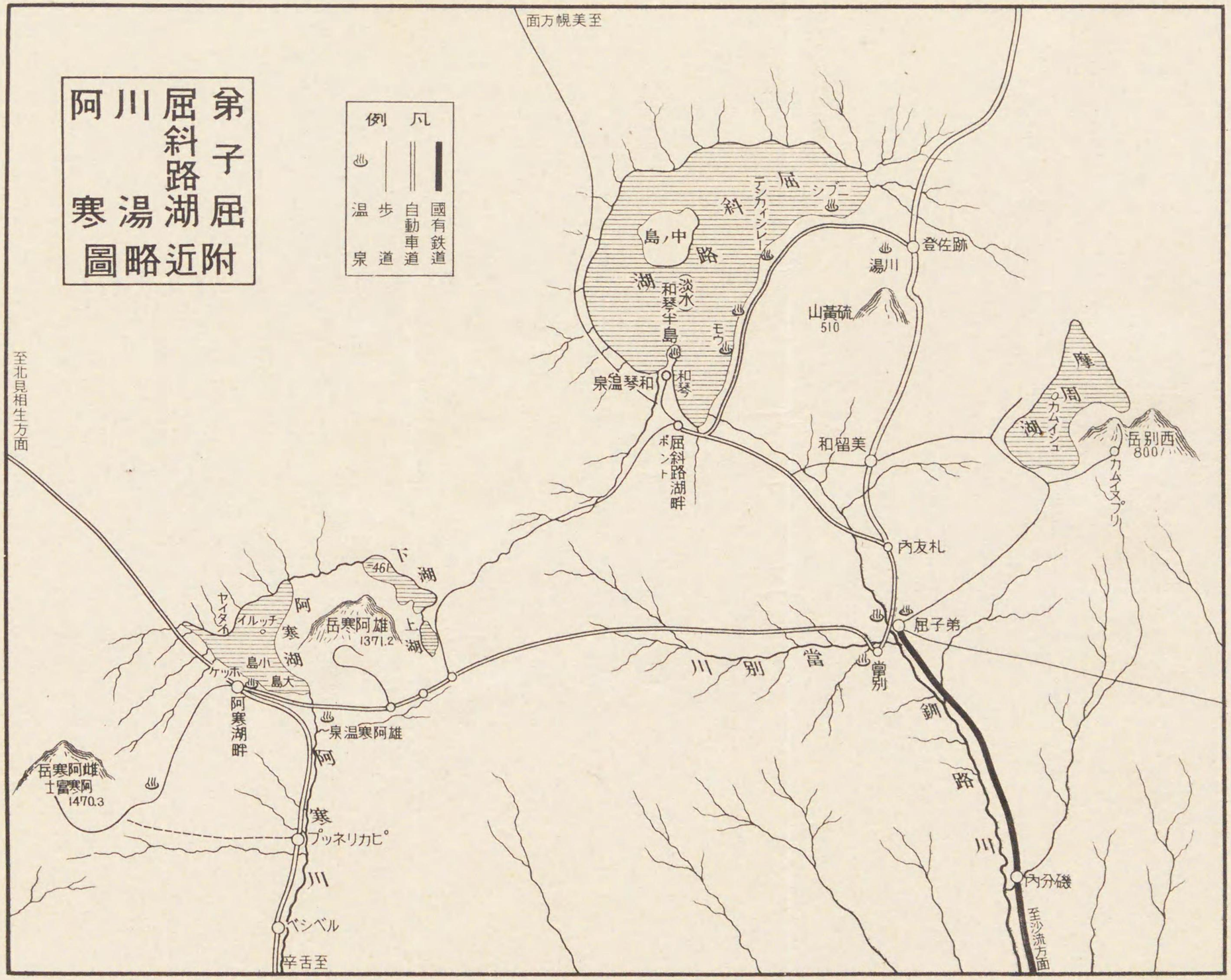
▼跡佐登（硫黄山）　驛から一八粁自動車五十分、海拔四五〇米の活火山で、二つの谷からは猛烈に硫氣を噴出し、常に雷の如き大音響を發してゐる。噴氣口の周圍は純良の硫黄が堆積し、大なるものは三米位の金色塔をなしてゐる。この山は全山爆發の殘骸で奇岩怪石累積し、一面に這松その他の高山植物を以て覆はれてゐる。山麓一帶一五五、五二〇アール（一方里）に亙り「えぞいそつゝじ」



ツク海及千島まで望見される。

▼屈斜路湖（くっしゃろ）　驛から一六粁、本道第二の大湖（火

高山植物を以て覆はれてゐる。山麓一帯一五五、五二〇アール（一方里）に亙り「えぞいそつゝじ」



密生し、これに配するに白樺及這松が適度にあつて自然の大公園を形成してゐる。六月中旬から七月上旬まで「えぞいそつゝじ」の盛花期には純白の花から芳香を放つて自ら仙郷に入るの思がある。

▼川湯(かはゆ)溫泉　驛から二四粁、跡佐登(アトサヌプリ)から北方約二粁自動車約一時間。

湧出量の豊富なる他に多くその比を見ない。清澄なる熱泉は流れて大小十數條の湯川となり合して屈斜路(くつしやろ)湖に注いでゐる。泉質酸性泉で草津溫泉と同質であるといふ。當地方は明治十七、八年頃安田氏の硫黄採掘事業の開始により夙に釧路地方の一部人士に知られたが、交通機關の設備がないため殆んど世人に顧みられなかつたところ、釧網(せんまう)線の開業によりその名を知らるゝに至つた。

旅館　對岳館、川湯クラブ、五月女旅館、紅葉館。

根室線

遊覽徑路を示せば

一　弟子屈(てしかが)―跡佐登(アトサヌプリ)―川湯溫泉、一時間、自動車賃一圓五十錢

二　弟子屈(てしかが)―屈斜路(くつしやろ)湖和琴(こわごん)半島―湖畔（途中池ノ湯、砂湯、赤湯、仁武士(にむし)溫泉經由）―川湯溫泉、二時間半、自動車賃二圓五十錢。

釧路を起點として之を示せば

第一日　釧路發―弟子屈―摩周(ましう)湖―川湯溫泉泊

第二日　川湯溫泉發―屈斜路湖―弟子屈―當別(たうべつ)溫泉―阿寒(あかん)湖畔泊

第三日　阿寒湖畔發―雌阿寒(めあかん)嶽登山―下山後、阿寒湖舟遊―雄別(ゆうべつ)鐵道舌辛(したから)驛から釧路へ歸着。

如上の行程を反對に行くも可。

厚岸（あつけし）　東海岸釧路に次ぐ要港で、海産物が豊富である。この地は頗る風景に富み、ま

た牡蠣の産出で知られてゐる。厚岸本町は對岸海路六六〇米、景運山國泰寺は盤螺山麓にある。文化年間幕府の建立した官寺で櫻樹が多い。倒水松は奔渡町オソナイ山頂にある珍らしい木で、附近は土人古戰場だつたといひ口碑多く、厚岸湖を眺める風光がよい。

▼厚岸湖の舟遊　厚岸灣に接する鹹湖で周回二八粁餘、丘陵を繞らし風景絶佳である。湖中牡蠣島がある。天明、天保兩度の大地震に因つて出來たもので年々牡蠣の産卵その周圍に累着し、島の面積を擴大するほどである、貸舟は驛から約半粁の奔渡町にある。旅館　五味旅館本、支店。

名物　佃煮。

濱中（はまなか）　▼東洋捕鯨會社事業場　驛から一二粁、自動車がある。霧多布村にあり、年産約百頭を捕獲し價格十六萬五千圓。なほ附近一帶の風光がよい。▼泥炭形成植物群落　驛から一〇粁自動車の便がある。

落石（おちいし）　▼落石無線電信局　南六粁北米航路及千島、カムチヤツカ航路通航船との通信連絡をなす。附近一帶高山植物に富んでゐる。

根室（ねむろ）　本線の終點で根室半島の北方に位し、根室、千島二國の要港で、カムチヤツカ遠洋漁業の根據地である。海産物の輸出多く昭和三年度の輸出額八百七十四萬圓に上る。物資の集散市場で人口約一萬七千を有する。

▼縣社金刀比羅神社　東北約一粁半、根室港内を俯瞰し、遠く國後、目梨の連峯及雌雄阿寒嶽の雄姿を展望し得られる。

産物には昆布、開鱈、鱶鰭、鮭、鱒、蟹の罐詰、帆立貝柱などがある。

千島國後島の泊港へは冬季を除き月四回定期船その他發動機船の運航があり、四時間で達する。

旅館　二美喜館、參渡邊旅館。

驛名の起原（その六）

釧路（くしろ）

アイヌ語「クッチヤロ」の轉訛したもので咽喉の義である。市内を貫流する釧路川はその源を「クッチヤロ」湖に發するに因る。

厚岸（あつけし）

アイヌ語「アッケシュトー」（楡下の沼の義）の上部を採つたもの、昔この地は楡の木（アイヌの衣類に用ゐる「アツシ」はこの木の皮から製す）多くアイヌ常にその木の皮をこゝの沼に浸したのに因る。

根室（ねむろ）

アイヌ語「ニムオロ」から出たもので樹木の繁茂する處の義。又一說には「ネモロコタン」池の在る處の意、風連湖を指したものらしい）なりとも傳へらる。

千島列島

直徑距離では略本州の長さに匹敵するカムチヤツカ、北海道間に、三十有餘の大小島が弧狀に排列するもの、卽ち千島列島である。

是等の島々は殆ど火山島から成り、所々第三紀層を見るのみで、常に寒流で洗はれ、夏季は濃霧甚しく、南部の諸島を除けば、風土全く北海道と異り怒濤の懸崖絶壁を嚙む所、殆ど人跡を絶ち、國後、擇捉を除けば森林なく、是等二島と色丹、得撫、占守を除けば定住するものなく、定期航路の如きも以上五島中、占守を除ける四島に限られ、他は夏季漁船の之を訪ふものあるに止るのみである。

狩勝峠の俯瞰的眺望を更に雄大にし、遙に太平洋の波濤も双眸にをさめんには、この峠の守護神のやうに立つサオロ岳に登らねばならぬ。

試みに地圖を開いて見ても、北海の第一峯旭岳をはじめ、第二峰の石狩岳、活火山として十勝岳、それらの峻峰は、皆石狩十勝の國境に蟠集してゐる。サオロ岳はその大山彙の末流に位して更に十勝日高の國境に連亘するトツカベシ山彙の起點をなすものなのである。

今から約百年前この地を跋渉した松浦武四郎の「十勝日誌」にもその實地の測定圖に「サオロ岳」の名を記し「シノマンサオロ」「ノシケサオロ」「ハナリシサオロ」等サオロ岳より發する十勝川の源流を探尋してゐるのである。

十勝石狩のアイノの大爭闘をかもした時、能辯な少年が、サオロの高原に乘り出して、十勝アイノの酋長を說破したといふやうな、傳說もまた山川草木に心ある彩りを與へるのである。……中略

もうすゝきも穗に、はぎもをみなへしも花に、さらのをは尾長な紫を立てつゝある。高草の茂れる中に。

その高草の刈られてある處に、いくつかの土まんぢうが見える。曾てこの峠に迷ひ入つた開拓當時の犧牲の塚でゞもあるかの幽欝な懷古感をそゝる。

今日までに幾人の松浦武四郎があり、近藤重藏があつたであらう、もつと冒險な探討に從ひ、もつと有效な事務を擧げてゐたであらう。が熊に食はれたか、密林の毒氣に中つたか、名も知らぬ地に、幽魂の恨みを埋めて、永へに酬いらるゝものもなく葬り去られてゐる。誰に恨みを漏らすべきでもなく、滿足の安眠についてゐる。曠野に咲く花は、その手向けの花であり、峽谷に鳴く鳥は、その禮讃の聲でもある。ごうせ役にも立たぬ人事の閑是非に累ひされるくらゐなら、野の花、山の鳥を永劫の伴侶に選ぶかれ等の達見にも思ひ切つた男性味があるやうだ。

あれはばつた塚で、この邊に五百いくつもあるといふ。

新得村助役氏の說明によると、今から十四五年の前石狩の方から、ばつたの大群が、總ての畑物を荒して、この峠を越さうとした。網を各所に張つて、辛うじて十勝への侵入をくひとめた。ばつたの死屍累々として山河ために時ならぬ黃に染んだといふ。

支那の日光をふさぎ、鐵路の進行をさまたげる雲霞のやうな蝗害のそれにも似て、北海道の地勢のさすがに大陸的であることを思はせる。

（河東碧梧桐の「狩勝峠」の一節）

網走線

一　網走本線　池田、札鶴間　二五〇粁九
一　湧別線　野付牛、下湧別間　八一粁三
一　相生線　美幌、北見相生間　三六粁八
一　石北東線　遠輕、白瀧間　三八粁六

その本線は根室本線池田驛から分岐して北し、野付牛で湧別線を岐ち、網走に至つて止まつてゐる。池田、網走間約七時間半、野付牛、下湧別間約三時間を要する。湧別線の中湧別と宗谷線の名寄間には名寄線あり、湧別線と相俟つて宗谷、網走兩線の連絡線となつてゐる。網走と釧路とを接續すべき釧網線の一部は網走から東海岸に沿うて札鶴まで開通してゐる。

網走本線

池田（いけだ）　釧路本線參照

置戸（おけと）　▼置戸國有林　西南四粁、小利別驛との間面積三四〇萬アール（三萬四千町歩）北海道屈指の美林で松挽材年產額六十五萬圓。車窓からその原始的大森林を望むことが出來る。

旅館　置戸館。

野付牛（のつけうし）　一四〇粁　湧別線分岐點。附近は薄荷の栽培に適し薄荷油の特產あり、年產額八十五萬九千圓。▼三井木挽工場　南七七〇米。▼農事試驗場　南一粁三。▼鮭鱒人工孵化場　約二粁餘。

旅館　市川、黑部、梅原。

名物　薄荷。

▼シブシナイ温泉　約六粁。旅館　養老閣。

湧別線

野付牛（のつけうし）　網走本線參照

留邊蘂（るべしべ）　二二粁八　森林鐵道により木材の搬出多く年産額四十二萬圓。旅館　北海館。▼温根湯（おんねゆ）温泉　西南約一〇粁、自動車がある。後に山岳を負ひ前は武華川に臨んでゐる。硫黄泉で温度百四十度。旅館　國澤、大江、新家。▼ポンユ温泉　東南約一粁、皮膚病、リウマチスなどによい。旅館　河原田。

遠輕（をんがる）　六〇粁二　石北東線分岐點。

▼家庭學校農場　北約四粁、留岡幸助氏の經營、不良少年の感化事業を主とし、模範的の農牧業を兼營してゐる。▼鴻ノ舞鑛山　北西約二二粁、住友氏經營の金銀鑛である。▼巖望岩　遠輕（をんがる）市街の背後にあり、峠立約七三米、眺望に富んでゐる。附近一帶スキー練習の適地である。

旅館　みのや。

中湧別（なかゆうべつ）　名寄線分岐點。

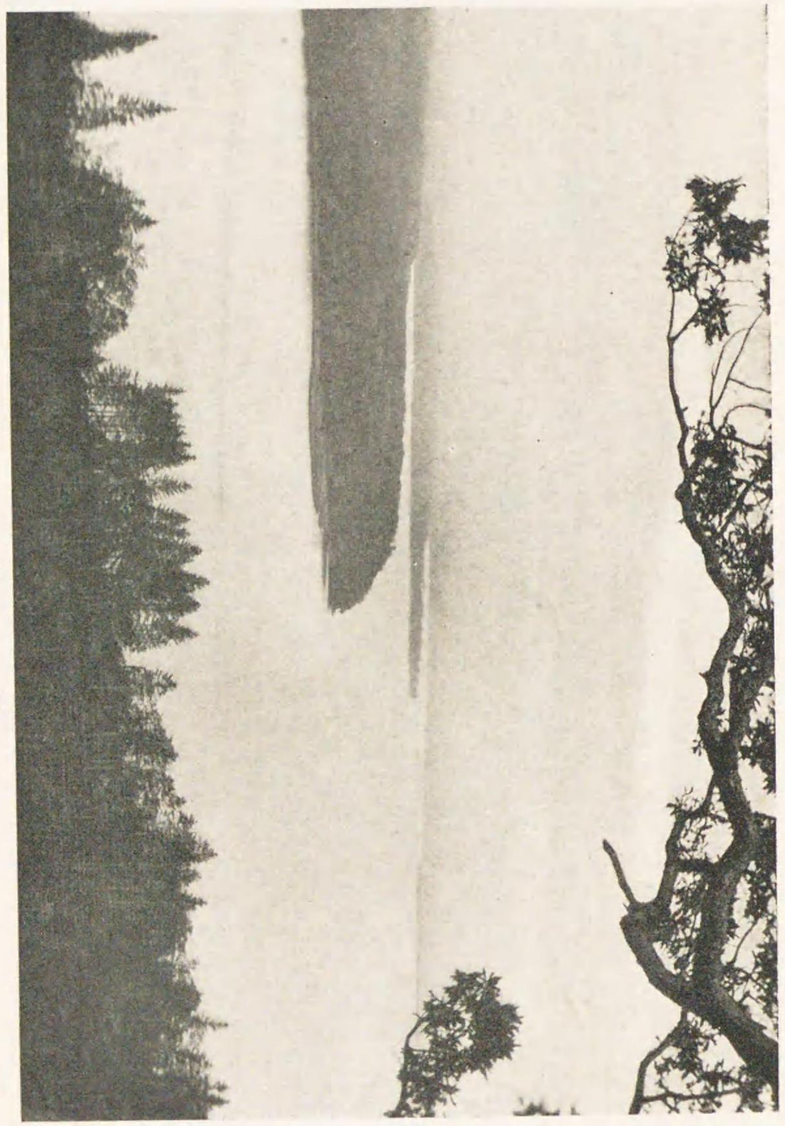
旅館　九州屋。名物　牡蠣。

下湧別（しもゆうべつ）　八一粁三

▼猿澗（さるま）湖　東四粁、馬車の便がある。本道第一の大湖で周回九二粁餘、海岸湖で湖畔翠林を繞らしその内にアイヌ部落が點在する。湖中の眺望は晩春が最も佳い。名産　牡蠣、年産額二萬五千圓。名物　鰍（とり）の佃煮。

美幌（びほろ）　相生（あひおひ）線分岐點。

▼屈斜路（くっしゃろ）湖、川湯（かはゆ）温泉　六四粁、自動車三圓五十錢、



アイヌの人々

約三時間。(釧網線參照)

相生線

北見相生（きたみあひおひ）　▼阿寒湖（あかんこ）　驛から一四粁にして阿寒湖一帶を俯瞰し得る北見、釧路の國境に達し、國境から更に八粁で、湖畔の溫泉部落に達する、國境まで徒歩、湖上を發動機船によることも出來るが、北見相生から湖畔の溫泉まで一日二往復の定期乘合自動車がある。片道一圓五十錢、約五十分。(釧網線參照)

旅館　山浦、土田、井上。

網走（あばしり）　一九三粁八　網走川の吐口にあり、北海岸の要津である。附近一帶の地は本邦に於ける雨の少ない土地として知られてゐる。

旅館　松井、岩代屋、高橋。

網走線

名物　海松（みる）製品、鮴（ごり）の佃煮。

▼網走（あばしり）湖　西四粁、周回四六粁半、平丘が湖を廻り、呼人半島湖中に突出し、北方に三眺山がある。鮭、鱒（ます）、鮴（ひらめ）などの魚族多く風景また壯大である。▼能取（のうとり）湖　西北二粁、周回約三一粁、一條の砂丘僅に海と湖とを分ち、能取の北邊に於て海水と相通じてゐる。▼三眺山　西四粁、山麓から頂上まで一粁、網走湖、能取湖、網走全港を一眸に萃め眺望がよい。▼濤ノ湯鑛泉　一粁三。旅館　濤ノ湯。

札鶴（さつつる）　屈斜路（くしゃろ）湖　約一六粁、自動車一圓約四十分。(弟子屈驛參照)

驛名の起原（その七）

置戸（おけと）

アイヌ語「オケトウンナイ」の上部を採つたもの。「オケトウンナイ」は「獸皮を乾す處」の意。因に鹿皮を張つて乾かす木片をアイヌ語では「ケム」又は「ケトン」といふ。

野付牛（のつけうし）

アイヌ語「ヌプ、ウン、ケシ」の轉訛したものである。「ヌプ、ウン、ケシ」は「野の端」の意である。

網走（あばしり）

アイヌ語「チパシリ」から轉訛したものであるといふ。「チパシリ」は「吾等が發見したる岩」の義で、往時網走湖南に白い立岩あり、その形、笠を冠つて立てる「アイヌ」の姿に似てゐるのを指すと。又一說には「アバシリ」とは「船の出入口の陸地」の義でその當時は樺太へ通ずる舟の出入口であつたから斯く名づけたともいふ。

上湧別、中湧別、下湧別

湧別（ゆうべつ）の語はアイヌ語「ユペ」（鮫）から出たものだといふ。又一說には「ユウ、ペット」の轉訛したもので「溫泉の川」の義だともいふ。附近一帶を湧別原野と稱し、湧別川に沿うてゐるのでその位置により、上、中、下を冠したものともいふ。

地名に多く現はれた「アイヌ語」

ペツ	（河）	江別	
ナイ	（川又は澤）	幌内	
サツ	（乾いた）	札幌	
ポロ	（廣い）	幌別	
コタン	（村又は所）	神居古潭	
ウシ	（場所）	妹背牛	
ユウ	（溫泉）	夕張	
ペ	（濁水）	留萌（ルルモツペ）	
ワツカ	（水）	稚内	
オタ	（砂）	歌志内（オタ、シ、ナイ）	
シ	（大）	士別	
ポン	（小）	本別	
ピラ	（崖）	手岸	
モ又はモウ	（小さい又は緩やか）	紋別	
ト又はトウ	（沼又は湖）	上常呂（ト、コロ）	
オンネ	（大又は老）	恩根内	
オ	（川尻）	興部	
マイ	（所）	苫小牧	

名寄線

一　名寄本線　名寄（なよろ）、中湧別（なかゆうべつ）間　一二一粁九

一　渚滑線　渚滑（しよこつ）、北見瀧ノ上（きたみたきのうえ）間　三四粁三

その本線は宗谷本線名寄（なよろ）驛から分岐して東し、興部（おこつぺ）に至つて始めて海光に接し、それから常に海岸に沿うて南東に進み、渚滑（しよこつ）からは西に向つて渚滑線を岐ち、本線は中湧別（なかゆうべつ）に至つて湧別（ゆうべつ）線に接續してゐる。名寄から中湧別まで約五時間、渚滑から北見瀧ノ上（きたみたきのうえ）まで一時間半を要する。

名寄本線

名寄（なよろ）　宗谷本線參照。

興部（おこつぺ）　北見沿岸雄武、幌内（ほろない）、禮文（れぶん）枝幸（えさし）などに通ずる要衝地で物資の集散が多い。帆立貝柱（ほたてかひばしら）の特産あり、年產額十九萬二千圓。

旅館　興部館。

沙留（さるる）　附近の沿岸は天然の良海水浴場である。又帆立貝の漁獲多く、それから採取する貝柱の產額は一年約十萬圓に達してゐる。蟹の產もある。

渚滑（しよこつ）　渚滑線分岐點。

渚滑線

渚滑から岐れて西し、線路は常に渚滑川に沿うて、

その上流瀧ノ上まで開通してゐる。

北見瀧ノ上（きたみたきのうへ）　市街は渚滑川とサクルー川との合流點にあり、渚滑川の奔流は驛附近に於て處々に小瀑布を形成し、風光美を現してゐる。一帶の地は地味肥沃農耕に適し、木材亦豐富である。

紋別（もんべつ）　北海沿岸の要津、海産物の輸出多くこの地方に於ける物資の集散市場である。近海は鮭、帆立貝の漁獲多く鹽鮭年産額二十八萬圓。帆立貝柱十五萬八千圓。

中湧別（なかゆうべつ）　湧別線分岐點。

驛名の起原（その八）

興部（おこつぺ）
アイヌ語「オコツトペ」から出たもので、川尻の合流する處を指し、興部川を意味する。

沙留（さるる）
アイヌ語「サロロ」の訛つたもの、サロロは茅の中なる川を指す。

紋別（もんべつ）
アイヌ語「モウペツ」の轉訛したもので、靜かに流れる川を意味し、靜寂な部落を指したもの。
もと當地はアイヌ族のみ住み、海陸の物資豐かで平和な村であつたのに因つたといふ。

附錄

羈旅漫錄

瀧澤馬琴

一　旅にてにくむべきもの
○貪りてあくことしらぬ舟人
○ひとり旅と聞てけしきばむ宿引
○名所を過る日の風雨

一　旅にてこゝろうべき事
○錢ををしみてみづから川をわたる事
川越の賃錢甚高料といへども、是は病者の藥禮とおなじことたるべし、病癒て藥代をつくのふは、無益のごとく思ふ人欲の常なれど命を全うせしをおもへば、金錢も何かおしむべき、川越の賃も亦かくのごとし、只命とつりかへのちん錢とおもひて、をしむことなかるべし、ちかごろはこねの三枚ばしにてわづか十六文の錢を惜みて、ある武士の供足輕忽チ命をうしなひけるよし、はこね山中の人かたれりこは八月十八九日の事のよし。
○川留に退屈して密に留メ川を越ゆべからず
○近みちをはかりて猥に船に乘るべからず
これは陸地にて往來なるべきを、欲にまよひ海上のちか道をはしり難風にあらて一命を失ふ人往々あり、旅中尤もつゝしむべきなり
○連なき旅は夜をおかして早く出立すべからず
朝は早く出て夕ははやくとまるべし、朝早ければ道もはかのゆくもとなり、朝おそきは半日の損なり
○水をのむべからず、菌すべて珍らしき食物を食ふべからず

○旅中は悉く敵地とこゝろへ少しも油斷すべからず
おもてに勇氣を見せて、うちは柔和たるべし、
夜はすべての物をまめやかにとりしらべ枕元に
よせおくべし、いかにすゝむるともめしもりを
かふべからず第一怠慢を生じ、第二瘡毒のおそ
れあり、怠慢を生ずれば、路用などうせる事あ
りつゝしむべし

○あしき草鞋ははやくぬきかゆべし
わらぢは價ををしまず、ずゐぶんよきわらぢを
はくべし、草鞋は旅人の甲冑也、わらぢあしく
足いためば、明日一歩もはこびがたし

○晝の食事は一二杯づゝ食ひ、空腹にならばいく度
も少しづゝ食ふべし、大食をすれば道をゆきかた
し

○小休の時、オンアトミソハカ〳〵と三べんづゝ唱
へてその席をたつべし、かくすれば物をわすれず
しかれども、宿問屋こみ合、人足は荷をかつぎ
てかけ出すにおくれじと、こゝろあわてたると
きは、そのオンアトミソハカさへわするゝもの
なり予も百日の旅中にきせる二本手拭一すぢ笠
一かいをうしなひぬ、道はひたすら早からんこ
とをおもはず、たゞおこたらじとゆくべしかく
すればおのづからはやし

○夏の旅は馬に乘るべからず
夏の馬は蠅にくるしむゆゑおのづからあらし、
乘人も必睡眠をもよふすものなり、故に夏馬に
のれば落る人多し

○草臥て馬に乘るは大なる損なり、馬にも駕にも朝
のうち乘るべし、朝は價も安し、晝より後泊りの
驛程ちかければ、足のはこびもおのづからはかど
りてすゝむものなり、しかれども朝のうち足をや
ませおかざれば、草臥格別にしてよく日ものゝ
用にたちがたし、出立より五六日めにしてはじめ
てあしのさたまるものぞかし

馬につめて、乘れば痂氣を生ず、これ乘馬と異
にして鞍上不レ穩ゆゑなり

この記世にはゞかるべきすぢなきにしもあらねば
ひめて窓外に出すことなし、さるを近曾書肆何が
しが強て請によりて、この內數條を拔萃して三册
とし、蓑笠雨談と名づけて刊行す。已下はなほ人
の見る事を許さず、後もまたかくてあるべし、わ
が子ども等板せんと乞ふものありとも許すことな
かれ

木遣唄

先の編笠ちと上げしやんせ
すこしおかほがみとござる。

笠の見こみはよい殿樣よ
笠をめさずはなほよかろ。

笠をわすれて峠の茶屋で
そらがくもりておもひだす。

旅行用心集

自　序

夫れ人々家業の暇に、伊勢參宮に旅立ちするとて其用意をなし、道連れなど約束し、いつ何日は吉日と定め、此處彼處より餞別物など到來し、家内も其支度とりぐ〳〵に心も浮き立つばかり、いさぎよきものはなし、殊に首途（かどで）の日は親類朋友の徒、其の所の町はづれまで送り行き、酒宴を催し、旅中の心得にもと思ふことを面々親切に心付くるたぐひは、各々皆實意にて脇眼（わきめ）よりも美しきものなり、其外勤務渡世のことにて、年毎に四方の國々へ旅立ちするは、老若（らうにやく）ともに氣の張りありて、これほど勇ましきものはなし。

東國の人は伊勢より大和、京、大阪、四國、九州までも名所舊蹟、神社佛閣を見廻ぐり、西國の人は伊勢より江戸、鹿島、香取、日光、奥州、松島、象潟（きさかた）、信州善光寺までも、拜み廻ぐらんことを願ふなり。されば家内息災にて家業繁榮の徒、主人は勿論家來眷屬に至るまで、伊勢參宮の願は成就することの慣はしは我神國の難有ことならずや、抑も士農工商の徒、日々其家業を正直にして、專ら勤め怠らざれば、一日として乏しきことなく生涯安穩に暮らし樂しむこと、偏に神佛の教へを守るの感應なるべし、然れど

も其の中に富貴の人にても、生得（しやうとく）病身にて心にのみやたけに思ふとも、自ら旅行し珍らしき勝景を見て山坂を歩ゆみ、大山靈場に登ること能はず、偶々駕籠にて旅行すれども、病身にては如何なる金錢財寶にあかしするとも、貧者の壯健なる樂しみに及ぶこと能はざるは無念ならずや

然るに富貴の人は更なり、貧賤にても其身壯健にして、參宮旅行すること此上なき幸ひなりといふべし。

偖て旅行する人發足の日より、嗜むべきは讐へ家來ある人なりとも、股引草鞋等まで も自ら着し、朝夕の食事等も心に叶はぬことを堪忍して喰ふこと、面々の良き修業なりと知るべし、それは泊々土地ところの風俗に依つて、怪しからぬ鹽梅の違ひあるものなり、此等の事を兼ねて心得居らねば、大に了簡ちがふものなり、或は風雨に逢ふ日もあり、又は泊りの都合にて早朝より霧の深きに山を越え夜は夜具の薄きを纏ひ、或は道連れ仲間に不和を生じ、或は足痛の人ありて道に後れ、又は偏地の寒暖に依つて持病起りて難儀に及ぶこともあり、されども我々の内にて藥療の手當するようなることはならず、長旅の艱難、千辛萬苦言ふべからず、之に依て旅は若輩のよき修業なりといひ、又諺にも可愛い子には旅をさすべしとかや、實に貴賤共に旅行せぬ人は、件の艱難を知ら

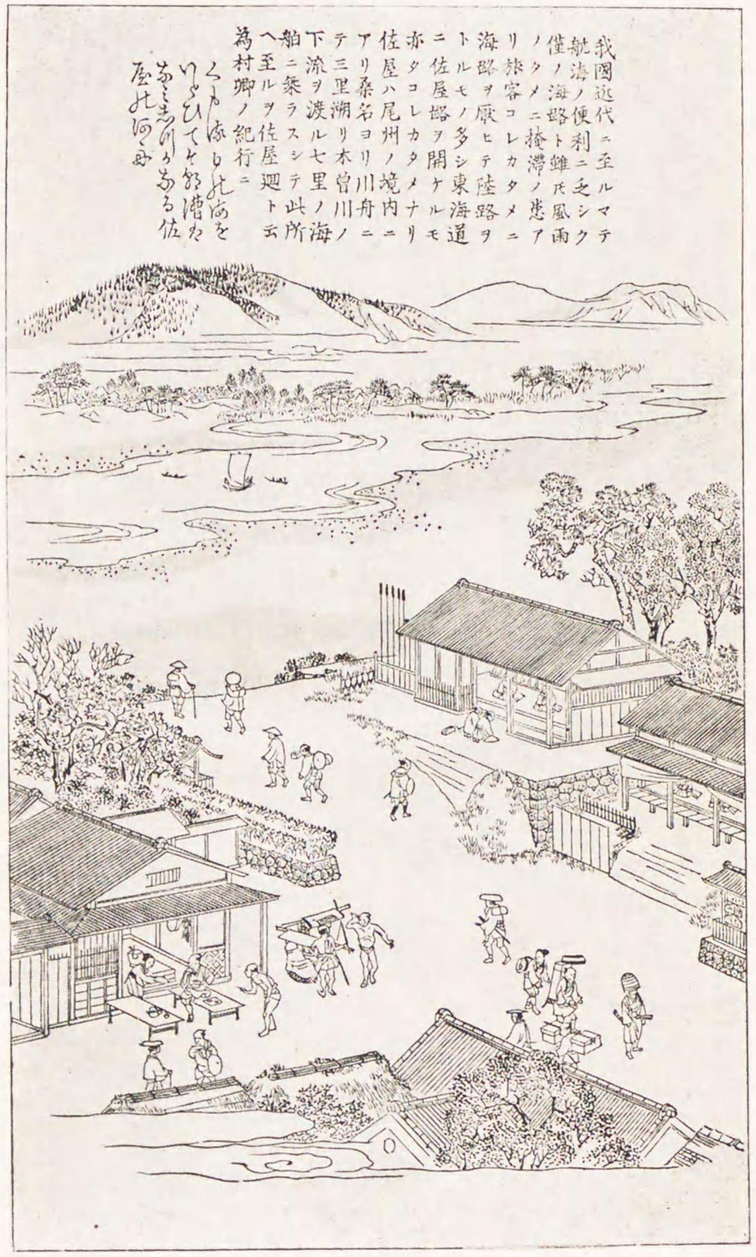
ずして、唯旅は樂しみ遊山の爲めにする様に心得居る故、人情に疎く人に對して氣隨多く、陰にて人に笑ひ指さゝるゝこと多かるべし、既に大名公家の貴き御方と雖も、譬へ強風雨なりとも河留（かはどめ）の外は、定式の御泊りまで御出で有ことを見て知るべし、況んや平人の旅行に我儘すべけんや、此に於て世上の人、其の艱難を凌ぎ忍んで人情に通じ、人の上をよく思ひやらば、人に良き人と呼ばれ立身出世もして子孫繁榮ならんこと現然なり、故に可愛い子には旅をさすべしとは其教へを言ふなるべし。

されば余若きより旅行を好んで、四方の國々へ杖曳きしを知る友人の、春秋旅立ちする毎に其の枝折ともなるべき節を乞ひける度々、是れ彼れ認め遣はしけるが、近頃は年老いて其の都度〳〵に筆とるも物倦く、又其の求に應ぜんも本意なく、是迄人に認め遣はしたるを集め、其上に又旅の助けになるべき草々を思ひ出づるに任かせて、書き綴り小冊となし、其責めを防がむ爲に人の勤むるに從ひ梓にちりばめて、旅行用心集とは名づけること然り。

文化庚午六月

八隅蘆庵

宿驛問屋場の圖（大日本交通史より）



佐屋渡船の圖（大日本交通史より）

道中早追の圖（大日本交通史より）

道中用心六十一ヶ條（道中用心集より）

八隅景山（やすみけいざん）

一、初めて旅立ちの日は足を別して靜に踏み立て、草鞋の加減等を能く試み、其の二三日間は所々にて度々休み、足の痛ぬ樣にすべし。出立の當坐には人々心はやりて、思はず休みもせず荒く踏み立るものなり、足を痛れば始終の難儀になることなり、兎角初めは足を大切にするを肝要とす。

二、道中所持すべき物、懐中物の外成るたけ事少なにすべし、品數多ければ失念物等有て、却て煩はしきものなり。

三、驛舍へ到着して第一に其の東西南北の方角を聞定め、次に家作雪隱裏表の口々等を見覺え置くこと古き教なり。近火或は盜賊又は相宿に喧嘩等ある時のためなり。

四、道中初めてする輩、馬、駕籠、人足の用あらば宵の中に亭主にあひて頼むべし。相對にては途中にて困ることあり、帳面ある人は着したる時宿の者へ渡し頼むべし、扨明朝何時出立と宵より宿へ申付け、其の刻限に應じ其の間に合ふ程に自ら起き、若し宿屋起きざる時は宿を起し、膳の用意する迄に支度をいたし、草鞋を履くばかりにして膳に向ふべし、左なければ人馬の用意も自然と等閑になりて手間どり都合悪しきなり、旅に

ては貴賤共に此の法を守らざれば手廻し悪しと知るべし。

五、朝は忙はしき故持ちたるもの取り落とするものなれば、宵に能く取調べ、用不用の心組をして風呂敷に包み、取り散らさぬ様に心懸くべし、足袋は床の中にて履く程に手廻しせざれば、朝晩くなるなり、朝の晩きは一日の後れとなるなり。

六、旅宿は定宿は勿論其の道筋初めてにて不案内ならば、成るたけ家作のよき賑かなる泊屋へ泊るべし、少々價高値にてもそれだけの益あるなり。

七、旅行は兎角暑寒をよく凌ぐべきなり、就中夏を心付くべし。夫れ暑中は人々の脾胃ゆるみて食物を消化し難し、因て知らぬ魚鳥貝類、筍、菌、瓜、西瓜、餅、強飯の類を多く喰ふべからず、夏は公傷より霍亂等發し、難儀に及ぶことあり、春秋冬は夏に準じ知るべし。

八、空腹なるとて道中にて飽食すべからず、尤も取急ぎ喰ふべからず、靜に喰ふべし、至極空腹になれば心疲れて居る故、飽食すれば忽ちに氣を塞ぎ又は急病等を發することあり心得べし、

九、空腹に酒を飲むべからず、食後に呑むべし。尤暑寒ともにあたゝめてのむべし。

十、道中にて燒酎を漫りに飲むべからず、中る人まゝあり、上製のものあらば少々呑むべし、尤も夏の中霖雨又は濕氣多き土地などにては、燒酎竝に泡盛酒等少々飲めば、濕毒を拂ふものなり、然れども秋冬は呑むべからず。

十一、空腹に風呂に入るべからず、食後にても暫く腹氣を和して入るべし、さりながら多勢にて後の差支になりて空腹にても入らねばならぬ時は、先づ足を度々湯にてぬらし、其の後風呂に入るべし、長湯すべからず、空腹には別して湯氣にあがるものなり、心得あるべし。

十二、相宿にて風呂へ入るには宿の案内次第其の上にて入ることなれども、宿屋取り込み客人の前後を取り違ひなどある時は、むづかし出來るものなれば、相客の樣子を見受け、若し其中に貴人等あらば、それを先に入れべし、是等も前後の爭ひより物言ひ出來るものなり、旅は物事を控へ勝ちにすれば身の益あること多し。

十三、殊の外草臥したる時、至極熱き風呂へ常よりも久しく入らば、草臥直るなり、其の節は顏を度々洗ふべからず、度々洗へば逆上するものなり。

十四、一と通りの旅にて格別に急ぐことなくば、夜道決してすべからず、凡て旅は九日路の處ならば十日にて行かんとすれば、急ぎて夜道などするよりも猶益多きことあるものなり、又河越し等の都合悲しき折は其の斟酌あるべし。

十五、道中は色慾を別して愼むべし、賣女は濕毒あり、暑中は最も感じ易し、怖るべきこと
となり、又夜具にて濕を受くるものなれば、香氣のものを懷中して其の濕邪を避くべし。
十六、夏の道中は折々渇きて水を飲むとも清水を選み飲むべし、古池又は山水にてもよく澄み流れざる谷水等、漫りに呑むべからず必ず毒あるものなり、尤も五苓散の類を懷中して水を呑むべし、又は山椒、胡椒の類は必ず懷中すべし、山中の氣を避け濕を去るものなり、委しくは末の藥の條にあり。
十七、夏は旅人疲れ果て道路に休み或は草叢に伏し眠る人あれども決してせぬことなり、夏の野原には毒蟲多し、譬へ毒なき蟲にても毒あるものに寄り觸れたる後に人を螫せば其の毒氣甚しきものなり、且つ古き宮寺の茂りたる林、又は山中の巖窟等へ粗忽に入り或は水邊濕地等涼しきとて長く休息すべからず、件のやうなる處には毒濕極めてあるものなり恐るべし
十八、食後に道を必ず急ぎ歩行すべからず、又馬駕籠に乘るとても急速にすべからず、若し轉び又は落馬等をしても、飯の喰ひ立てには腹内和さざる故に、氣を塞ぐことあり心得べし。
十九、大小便のつまりたるを堪らへて馬駕に決して乘るべからず、落馬等せば心を衝き頓死することあり。
二十、武士荷は勿論商人にても宿々問屋場へ着き、先づ宿役へ相應に會釋をいたし、其上に駄賃帳を出し人馬の員數を申し、それより問屋へ到着の荷物の順を見定め、しとやかに申談ずべし、又問屋場は混雜の場所故紛失物又は他人へ對し粗忽なき樣見計ふべし。
二十一、人馬の先觸出すならば、出立の日より二三日前に出すべし、左なければ途中にて一緒になりて其せんなきものなり。
二十二、武士は勿論平人にても、大切なる主用にて旅行する人、道中にて馬方人足等不束なることありとも、用捨あるべきことなり、尤も勤務に係はる筋ならば格別、其の餘のことならば堪忍專一と心得べし、道中にて手間どりては、主用を以て旅行する詮なしと知るべし。
二十三、途中にて馬人足共に荷替へといふことをするなり、是は旅人の方にては無益に手間取ることゆゑ、甚だ迷惑なるものなれども、旅人了簡してやらねばならぬものなり、其故馬子急ぎて荷物を附け替へる折、えて小附等取り落すことまゝあり、此折は貫ざし錢小附の數を改め自身心付手傳ふべし。
二十四、明荷、葛籠の中へ衣類紙包等入るならば、油紙にて二重に包み、内へ濕りの入

らぬ様に荷造るべし。河越しの節、明荷の合口より水入るものなり、明荷に限らず兩掛等も水の入らぬやうに用心すべし、惣じて川越の場所にては、濡れ物紛失物心付けべきなり。附たり、明荷兩縣は江戸にては。傳通院前駿河屋にて製する處最も宜敷なり。

二十五、旅先にて知らぬ川、徒歩越し決してすべからず、又出水にて橋を流し、徒歩越し船渡し等になることあり。斯様の場所は宿役へ掛合ふべし、自分相對にすべからず、諸事宿役へ掛合置くは、何事ありてもよきものなり。

二十六、川越ある場所、女子を連れ立つことあるときは、其用意あるべし、婦人は男子と違ひうちばなるもの故に、川端に臨んで大河の水勢に怖れ。其上川越人足の亂雜なるに驚き、逆上して血の道起り、難義する人間々あり、之に依て川越ある場所は、前日より其の混雜なる次第を篤と云ひ聞かせ、連中の者前後しても決して驚かざる様に、兼て心付け置くべし、斯様の場所には宿役等ありて、少しも氣遣なきことなれども、女子は驚きやすきものなれば、川越にも限らず水邊船渡し山坂等、總て險岨なる所は前かどより云ひ聞かせ置くこと肝要なり。

二十七、川越又は船渡しの場所にては、面々懷中物を心付け其の上乘るべし、且つ駕籠の內へ釣置きたるもの落つることあり、水中へ物を落したるは得難きものなり。

二十八、渡場にて乘合船に馬を乘することあり、其折は馬を先へ乘せ、人は後より乘るべし、人先へ乘れば馬物を見て乘り兼ねて驚き騷ぐ故、乘合に怪我等あるものなり、尤も老人女子の輩は、馬を入る舟には決して乘るべからず。

二十九、近道なりとて、船路を行くこと心得あることなり、要用にて急がねばならぬ道中ならば、成るたけ陸地を通るべし、緩き道中なれば、船路を行き足を休すめ思ひの外に追風よく益あることもあれど、若し違變ある時は、後悔先にたゝずと知るべし、船中の用心は別に末にあり。

三十、出水の河は、譬へ小川にても輕んじ容易に渡るべからず、出水は格別水勢強き上に種々のもの流れ來る故に怪我あるものなり、又山近き國にある川は常に渴水して小さく見ゆれども、雪解又は夏日山奥に夕立等あれば俄かに河水增さり忽に川幅も怪しからず廣くなる故、本橋は懸けられぬなり、因て冬の內ばかり用る爲に、假橋をかけ渡す故に、每年出水に流るゝなり、則ち東海道の酒匂川、奥海道の白澤、大田原などの川の如きものなり、別して山國には右樣の川々多し、件の樣なる出水の折は、徒足渉りは勿論、水中に見ゆる假橋を決して渡るべからず、出水にて橋杭抜け上がり、暫らく浮き上りある橋を渡りて、流されたる人あり。

三十一、霖雨降りつゞけるあがりに、落山欠けつること所々に間々あることなり、斯様の折は山崖の大岩石等ある下の泊屋、又は川岸に臨みたる家屋等に泊るべからず、兼て心得斟酌あるべきことなり。

三十二、道中にて人馬の賃錢竝に宿錢等連中にても、其の度々面々の手前より出すべし。若し折により錢の有合せなき人は、當座に取替へ置くとも、其日の泊り〳〵にて算用すべし、長き道中にては日記帳に記るし置きても、末々に至りては判り難きものなり依て等閑にせぬことなり。

三十三、道中にて或は兩三日又は五七日道連れになり、其人信實に見るとても、同宿し、或は食物竝に藥等、互にとりやり決してすべからず。

三十四、途中にて馬なき人、駄荷ある人に道連れになり、譬へ知人にても風呂敷包等其馬に頼むべからず、若し途中にて急に入用ありても他人の馬に頼みては、其の間に合はぬものなり。皆人道中へ出ては、我身獨りを堅固に構へ、人にもたれぬ様にするを專一とすべし。

三十五、道連れは高々五六人に限るべし、大勢連は惡るし、人々了簡種々なるもの故、長道中にて多勢の中には、必ず不和の出來るものなり。

三十六、道連れにすまじきものは、大酒の人並に癖のある上戸、癩癇病み、喘息病み、或は強き持病ある人、是等はいつ何時其の病發すまじきといふことなければ、勘辨あるべきことなり。

三十七、道中路金を所持するには胴財布に入れ財ふべし、日々の入用は懐中へ小出をいたし遣ふべし、尤も小出しするときは夜分にても人目にかゝらぬ様心掛くること肝要なり。

三十八、泊り〳〵にて刀脇差は自分寢る床の下へ入れおくべし、鎗長刀等も床の奥へおくべし。

三十九、道中火の用心隨分大切に心付、村中は勿論、譬へ野中にても、烟草の吹殻粗末に捨つべからず、休み〳〵又乘合舟等、烟草の火に衣類包物等燒くことあり、念入るべきことなり。

四十、春の中、處々野山を態々燒くことあり此野火、風烈に怪しからず手廣になるものなり、此の如き處を通りかゝりたる折は、道の前後を考ふべし、本道にても火に捲かることあり、野火も侮るべからず。

四十一、道端の家屋又は畑の中などに梨、柿、柚、蜜柑、總て果物類美事に作りあるも

の戯れにも手出しせぬことなり、又村中にて五穀は勿論、場中に干しおく物等、假初めにも踏むべからず、他國にて物言ひなどあつては是非の論立ち難しと知るべし。

四十二、山中或は野道などにて若き女、草刈童又は女連れの物參り等に行き逢ひて、一と通りの問ひ答へは格別、無用の話或は田舍詞など漫りに笑ひなぶるべからず、聊かのことよりむづかし出來るものなり、勘辨あるべし。

四十三、間の宿又は横筋などにて、惡しき旅宿へ泊りあたるは心持ち惡しきものなり、然れども不自由を口外に出さず、却てやはらかに物言ひ、荷物戸締り等用心すること、道中にての祕事なり。

四十四、皆人、他國へ出づれば、物言ひ風俗色々に變りて、己が國言葉に違ふ故に、聞馴れぬ中は可笑しと思ふなれど、又先の人も此方を可笑しと思ふは必然なり、然るを心得違ひして、他國の風俗物言ひ等、笑ひなぶるは誤りと知るべし、人の詞を笑ひ嘲けること口論となるものなり。

四十五、道中にて謠、小唄、淨瑠璃等口ずさみ行くを、此方より附け歌ふべからず、之れも口論の端なりと知るべし。

四十六、道中にて立寄り見まじきものは、喧嘩口論、博奕、碁將棋、村踊、村角力、變死人、殺生物、總じて人立ち多き所等見計ひあるべし。

四十七、商ひ筋ならで外用又は湯治先、物詣り或は川留等にて、長逗留する折、塗炭は勿論かけの碁將棋決してすべからず、且つ自分の知りたる商ひにても手出しせぬことなり。利慾より事起り、災を生じ、大に手間取るものなり愼しむべきなり。

四十八、湯治場は硫黄の氣多き故、大小の身竝に掛へ等までも錆るものなり、其の用心あるべし、尤も湯治場にもより、左樣になき處もあれど、多くは錆びるなり、湯治仕方溫泉の地名は末に詳はし。

四十九、主用或は要用にて、初て旅行する人、僅かの處にても廻り道をして、名所舊蹟等尋ぬべからず、且つ知らぬ近路を舟路等必ずすべからず。

五十、旅宿にて出火ありて、若し近火ならば早速立仕度いたし、身の廻りの大切なる物を持ちのき、其上にて風筋を見計ひ、荷物などあらば取り出すべし、尤も家來ある輩は提灯をつけ、持ちのき物等指しづいたし、紛失物等なき樣心付くべし。右樣の節は宿をたよりにせぬことなり。

五十一、旅は相宿あり勝なるものなれども、手前をよく用心すれば何事あるものにあらず、第一に戸締りを心付け、又宵より相客の樣子を窺ひ知るべし、若し酒亂、狂氣等の

人ある時は、早速其の用意すべし、相宿にて異變ありしこと其の例尠からず。

五十二、相宿の中にて、大酒宴はじまり若し深更までも止まぬ樣子ならば、此方の連中にて酒宴のすむまで代る〳〵一人づゝ寢ずに居るべし、長酒盛もむづかしの出來るものなり。

五十三、馬は驚き勝のもの故、若し驚きはね出す時、あわてゝ飛び下りるべからず、荷物に取りつき居り、若し荷物曲り地につく頃を見合せ下るべし、うろたへ飛び下りれば必ず怪我するものなり。

五十四、三四月頃、道中にて田舍馬に乘る時は乘り下りに別して心付べし、田舍は日々使はず休めおきて、偶々使ふ故呑氣に依つて驅け出すなり心得て乘るべきなり。

五十五、夏道中にて馬に乘るならば、心得あるべし、馬に虻、取りつく故に時々はねるなり、又乘る人も度々眠氣つきてあぶなし、因て山坂、河端等別して心付くべし、老人小兒は夏は心得あるべきなり。

五十六、道中にて相客の中など、藥種妙藥等の下直なるものをすゝむるとき、堅く斷りて求むべからず、若し途中にて入用あらば、其所の藥種屋にて調ふべし。

五十七、飛脚竝に荷宰領つとむる人輕重ありと雖も、容易ならざる役なりと知るべし。

書狀は金銀よりも重きことにて、萬一取り落し紛失等あるときは、主人の要用を缺くのみならず、大事を人に洩らすことなれば、心得あるべきことなり。

五十八、道中差しの大小は輕く短きを差すべし、總て長刀、長脇差又は目立ちたる拵へ等、異風の衣類道具用ふべからず、おとなしき體なれば難なし。

五十九、召連れ候小者竝に雇人等は出立前に宿に呼び寄せ、若し道中にて病死等の節は、然るべき樣に取り置き候樣一札を取置くべし、萬一途中にて病死の節は泊屋竝に醫者よりも一札を貰らひ取置くべきなり。

附たり、一人旅又は回國する輩は、寺證文懷中あるべきなり。萬事道中念入る人には異變なきものなりと知るべし。

六十、道中にて日蝕あらば、少々休み見合せ、蝕すみて歩行すべし、月蝕も同樣なり。

六十一、道中にて神社佛閣は勿論、橋々、立木又は大石等へ樂書竝に張札等決してすべからず。

右六十一箇條の外、かどだちたることは、此の末に別箇條に委し。（以下省略）

註　本用心集は文化年間（約百十八年前）の作である。

諸國鄉土玩具調

武藏

東京犬張子
東京柴又彈猿
東京ずぼんぼ
東京がら〳〵
東京紅牛
東京御祭禮
東京まんごう
東京酉市熊手
東京まゆ玉
東京淺草鳩笛
東京姉様
龜井戸人形
龜井戸駕
龜井戸兎槌
龜井戸兎技
今戸人形
富士社蠶蛇
蠶張蛇
芝神明千本筥
王子權現鎗
大森麥蠶虎
大森河豚提灯
鳩巢雛
鳩巢熊金太郎
鳩巢達磨
柳森親子狸
比企日吉社猿
萱の木兎
夜叉神面
口入稻荷狐
新田神社矢
御嶽土鈴
五條天神鶯
飛んだりはねたり

相模

箱根山駕
小田原帆
江ノ島貝細工

伊豆

三宅島ネザンバ

上野

妙義山土鈴
前橋太鼓

下野

日光眠猫

館林文福茶釜

上總

茂原羽子板

下總

成田獅子頭

安房

神輿

常陸

水戸農人形
潮來眞菰馬
平磯艤船
羽子板
眞弓馬

磐城

三春駒
三春俵牛
三春踊女
三春獅子舞
三春面
三春兎
三春達磨
三春首振虎

陸奥

八戸駒
弘前木馬
弘前人形笛
弘前エチオボコ
弘前首人形
弘前土人形
弘前獨樂
青森ねぶた
仙臺堤馬
仙臺堤首人形
仙臺女達磨
仙臺松川達磨
仙臺堤土鈴
松島飛兎
氣仙牛
氣仙人形笛
鳴子こけし這子

陸中

花卷敦盛
花卷首人形
一關こけし這子
一關寶鈴
盛岡板馬
盛岡首人形

岩代

會津天神
會津赤牛

會津達磨
會津起姫
會津雞
會津獅子頭
會津馬
會津大車
會津熊車
會津姉様
會津風車
飯坂こけし這子
柳津虚空蔵牛
羽黒山まさる

羽前

相良人形
鶴岡土人形
鶴岡姉様
笹野創懸人形
笹野蘇民將來
山形姉様
山形こけし這子
山形いじめ子
庄内平獅子

羽後

秋田八橋人形
秋田眼無達磨

北海道

アイヌ創懸

越後

鯨波木牛
柏崎達磨
新潟土人形
松原人形
新發田土人形
彌彦鳩笛

佐渡

相川首人形

駿河

宇津谷十團子
おかんじやけ
靜岡土首人形
靜岡おやま人形
靜岡目無達磨
靜岡戎講鯛

遠江

濱松目無達磨
濱松犬車
濱松虎車
濱松兎車
濱松犬張子
濱松凧

三河

豐橋土人形

豐橋天神
豐橋鳩笛
豐川稻荷狐面
兎足神社面
岡崎土人形
岡崎船提燈
西尾赤馬
小坂井風車

尾張

名古屋廻り鼠
名古屋兎餅搗
名古屋黒船
名古屋荒神雞
名古屋毛角力
名古屋虎車
名古屋首馬
熱田大藥師鬼面
牛若辨慶人形
常滑土人形
角力達磨
犬山風車太鼓
甚目寺振太鼓
笠寺蹇馬
洲崎神社土鈴
櫻天神鶯
虹　凧
大野千石船

美濃

岐阜美惠寺鈴
岐阜土人形
大垣鯨押

飛騨

高山一位彫

信濃

善光寺布曳牛
善光寺張子鳩
松本達磨
松本七夕雛
松本姉様
上田蘇民將來
上田眼無達磨
野澤溫泉鳩車
澁溫泉獨樂

甲斐

甲府かんなんぶつ
甲府雪達磨
御嶽土鈴
鹽山鳩

越中

富山木獅子頭
富山土人形
富山土鈴
富山太田神社鶯
富山牛神の牛

加賀

金澤米喰鼠
金澤首振猫
金澤首振犬
金澤首振牛
金澤木獅子
金澤八幡起上り
金澤姉様
金澤春駒
金澤兎餅搗
金澤屋形船
疱瘡除人形

近江

草津ピン〳〵鯛
草津猩々
大津繪人形
大津神輿

伊勢

桑名彈猿
四日市大入道
松阪彈猿
津俵牛
津土山車
津振鎚
山田サイ木
山田守鈴
二見蛙
山の神繪馬
おぼこ人形
笙の笛

山城

京都北野牛車
京都祇園祭鉾
京都甕簞雛
京都清水小鳥
京都姉様
伏見饅頭喰
伏見おぼこ
伏見でんぼ
大原女蓑人形
嵯峨人形硯
宇治茶木人形
宇治茶摘人形
男山八幡紙鯉
三宅八幡鳩
太秦廣隆寺面
壬生八幡面
鞍馬虎
山崎猪
眞如堂牛車

大和

奈良彫猩々
奈良人形墨
奈良鹿の巻筆

手向山繪馬
唐招提寺團扇
出雲路俵牛
法隆寺守犬
法隆寺安井人形

攝津

大阪兎の餅搗
大阪梯子の鼠
大阪生玉人形
大阪擊劍人形
大阪角力人形
大阪首人形
大阪神農社虎
大阪猫と鼠
大阪勇鯛
大阪ピン鯛
大阪振鎚
大阪鳩車
大阪龜車
大阪竹獨樂
住吉十二支
住吉卯槌
住吉朝日山小寶
住吉千疋猿
住吉左神馬
住吉睦犬
住吉の蛇
天王寺門の猫
天王寺庚申猿
大乘坊寶鈴
天滿宮の鷽
安井天神鷽
甕簞山狐
十日戎吉兆
堀川稻荷地車
有馬人形筆

河内

楠公蓑人形
道明寺天神牛

紀伊

和歌山瓦猿
和歌山豆人形
和歌山米搗車
和歌山土馬
和歌山姉様
淡島守雛
高野山導犬
勝浦船
瓦牛
御坊天神
粉川流雛

和泉

堺蒲團太鼓

因幡

鳥取流雛

鳥取姉様
鳥取黍殻姉様
鳥取キリン頭
鳥取獅子頭
鳥取要蔵デコ
鳥取猩々面
鳥取梟笛

伯耆

倉吉はこた
倉吉竹馬
御來屋天神
大山ヤツチヤ

但馬

城崎麥藁細工

美作

津山天神

石見

長濱土人形

出雲

松江姉様
松江お宮様
今市土人形

備前

岡山練人形
岡山姉様

備後

尾道土人形
三原土人形

備中

吉備津犬と鳥

安藝

廣島女達磨
廣島獅子頭
宮島鹿猿
十日市土人形

播磨

姫路小袖山
姫路馬首

周防

岩國石人形

長門

下關土鳩

伊豫

宇和島鬼牛
宇和島首人形

宇和島八ツ鹿面
宇和島姉様
松山女達磨
松山鎧人形
松山首人形
松山姉様
松山神輿
八幡濱首人形

阿波

淨瑠璃人形
撫養首人形
德島首人形
德島お藏
德島虎
德島犬
德島ヨヤシヨ
德島流雛

土佐

高知相合傘
高知女達磨
高知姉様
高知紙繪馬
鯨車
鯨船

讃岐

高松嫁入人形
高松ほうこ
高松張子船
高松振槌
高松チヨウサ
高松ピン〳〵馬
高松首振馬
琴平木達磨
金比羅デコ
金比羅土鈴

筑前

博多板雛子
博多小笠
博多女達磨
博多笠野才三
箱崎八幡鳩笛
宮地嶽梟笛
大宰府鳥

筑後

柳川雉車
柳川羽子板

肥前

長崎鯨潮吹
長崎唐人船
長崎ペーロン船
長崎天狗面
古賀馬乘り猿
古賀アチヤサン
古賀ホーホー鳥

佐賀弓野人形
唐津鯛車

肥後

熊本辨太人形
熊本お化金太
熊本女達磨
熊本首馬
熊本竹馬
熊本姉様
熊本張子角力
熊本米搗車
熊本祝臼
日奈久板角力
日奈久雉車
日奈久彈猿
人吉雉車
人吉木箱
木の葉猿
手取神社鬻

大隅

國分八幡鯛車
國分八幡鳩笛
鹿兒島土鈴
鹿兒島角力

薩摩

武者人形
絲　雛
鹿兒島豆太鼓
鹿兒島化粧箱

日向

鶉　車
佐土原羊羹喰
佐土原踊人形
延岡昇猿
住吉神社彈猿
青島雛

竹獨樂
福藏矢

豐前

英彦山土鈴
羅漢土鈴
小倉ヨイ人形
別府木デコ

豐後

大分首人形
千太郎獨樂
別所兎笛

沖繩

獅子使
爬龍船
喧嘩雞
土人形
太鼓打人形

ヤンバル船
花嫁様
張子牛
太　鼓
紙　雛
張子鳩

臺灣

首人形

萬葉集

家にあれば笥(げ)にもる飯を草枕
旅にしあれば椎の葉に盛る

大關 三里塚（道川鐵道 三里塚）附近
關脇 小金井（中央本線 武藏小金井）一粁
小結 鹿島旭岡（鹿島鐵道 北鹿島）附近
前頭 篠栗新吉野（篠栗線 篠栗）五粁三 自動車あり
同 榴ヶ岡公園（東北本線 榴ヶ岡）一粁三 自動車あり
同 櫻川（水戸線 櫻川）八〇〇米
同 荒川堤（三千葉車 荒川堤）ボートあり
同 仁和寺（山陰本線 花園）八〇〇米
同 花筐公園（南越鐵道 日田郡）附近
同 目達原（長崎本線 目達原）附近
同 福岡西公園（鹿兒島本線 博多）四粁 電車あり
同 名和神社（山陰本線 名和）附近

前頭 平野神社（京都市電 北野）半粁
同 清水寺（山陰本線 安來）六粁 自動車あり
同 城山公園（石巻線 鹿谷）一粁一
同 神代櫻（中央本線 日野）四粁
同 藍景堤（東海道本線 鹿島）二粁
同 芳嵐園（山陰本線 吉永）二粁
同 龜ヶ城址（磐城西線 代田）一粁一
同 烏帽子山（奥羽本線 赤湯）一粁七
同 小倉公園（越美南線 美濃鐵道 美濃町）一粁
同 安達ヶ原公園（東北本線 二本松）一粁
同 犬山（名古屋鐵道 犬山）附近
同 長谷寺（長谷鐵道 初瀬）一粁一

前頭 神宮寺種馬所（奥羽本線 神宮寺）二粁
同 横手公園（奥羽本線 横手）一粁七
同 鶴ヶ城址（磐城西線 會津若松）二粁二
同 烏ヶ森（東北本線 西郡山）一粁一
同 造幣局（東海道本線 大阪）二粁
同 木曾川堤（東海道本線 木曾川）二粁
同 金崎宮（北陸本線 敦賀）二粁二 自動車あり
同 櫻岡公園（山陰本線 小城）二〇〇米
同 賤機山（東海道本線 靜岡）一粁八
同 掛川公園（東海道本線 掛川）一粁
同 藤島神社（北陸本線 藤島）一粁七
同 櫻馬場（北陸本線 高岡）四粁
同 光明寺（駿上鐵道 鹿沢）四粁

前頭 大村神社（長崎本線 大村）七〇〇米
同 石割櫻（東北本線 福岡）二粁 自動車あり
同 根來寺（和歌山線 岩出）五粁半
同 平泉東の櫻（東北本線 平泉）二粁
同 有明櫻（有馬線 有馬）一粁一
同 愛宕山公園（奥羽本線 湯澤）七〇〇米
同 函館公園（函館本線 函館）二〇〇米 電車あり
同 長野記念公園（信越本線 長野）二粁 自動車あり
同 小諸城址（信越本線 小諸）一〇〇米
同 夜ノ森（常磐線 夜ノ森）三〇〇米
同 中村公園（常磐線 中村）一粁七
同 舞鶴公園（中央本線 甲府）附近
同 木曾川堤（東海道本線 木曾川）二粁三

前頭 大沼公園（函館本線 大沼）附近
同 國泰寺（根室本線 厚岸）一粁一
同 益岡公園（東北本線 白石）半粁
同 忠元神社（山野線 鹿野）八〇〇米
同 小林町（日豐本線 小林町）四粁 自動車あり
同 涌谷公園（石巻線 涌谷）二粁
同 天野山（大阪電車 長野）五粁六 自動車あり
同 淺間神社（富士身延鐵道 大宮町）半粁
同 香取神宮馬場（成田線 佐原）三粁六 自動車あり
同 大平の櫻（東北本線 大平）八粁
同 長瀞（秩父鐵道 長瀞）附近
同 淺舞八幡宮（横浜鐵道 淺舞）附近
同 湯ノ山溫泉（西日市鐵道 湯ノ山）三粁 自動車あり

蒙御免 全國櫻の名所番附

行司 嵐山

年寄 吉野山（吉野鐵道 吉野口）「ケーブルカー」あり

勸進元 鐵道省

大關 加治川（羽越本線 新發田）六粁 自動車あり
關脇 千秋公園（奥羽本線 秋田）一〇〇米
小結 熊谷堤（高崎線 熊谷）附近
前頭 宮川堤（參宮線 宮川）一粁三 自動車あり
同 開成山（東北本線 郡山）二粁 自動車あり
同 小山田（磐城西線 馬下）四粁
同 小湧谷（福島豐田電車 小湧谷）附近
同 南湖公園（東北本線 白河）二粁 自動車あり
同 醍醐寺（東海道本線 山科）六粁 自動車あり
同 立花の櫻（東北本線 黒澤尻）一粁
同 打吹公園（宮古線 宮古）一粁
同 霞間ヶ溪（伊勢電鐵 霞橋）一粁七

前頭 老蘇之森（東海道本線 安土）四粁 自動車あり
同 神代櫻（信越本線 長野）六粁
同 瀧櫻（磐城東線 三春）六粁二
同 長崎水源地（長崎本線 長崎）四粁
同 天童城址（奥羽本線 天童）八〇〇米
同 圓山公園（函館本線 札幌）四粁 自動車あり
同 岩國公園（岩徳線 岩國）一粁
同 日吉神社（江若鐵道 日吉）八〇〇米
同 信夫山（東北本線 福島）一粁八
同 大森公園（横浜鐵道 大森）一粁半
同 久保櫻（長井線 長井）一粁
同 鍋屋堤（關西線 名古）一粁半

前頭 高遠公園（伊那電鐵 伊那）一〇粁 自動車あり
同 安部山（日豐本線 城野）一粁七
同 伊奈波神社（東海道本線 岐阜）四粁 電車あり
同 津公園（參宮線 津）三〇〇米
同 柳津虛空藏（會津線 會津柳津）三〇〇米
同 高田城址（信越線 高田）一粁七
同 須磨公園（宇治川電氣線 須磨寺）一粁
同 養老公園（伊勢電鐵 養老）一粁三 自動車あり
同 鹽釜神社（鹽釜線 鹽釜）半粁
同 千鳥公園（山陰本線 松江）二粁 自動車あり
同 兼六公園（北陸本線 金澤）二粁 電車あり
同 汐見櫻（三國線 三國）附近

前頭 岩間山（山陽本線 西大寺）一粁一
同 弘前公園（奥羽本線 弘前）二粁 自動車あり
同 祇園の夜櫻（京都市電 祇園石段下）附近
同 彌彥公園（越後線 彌彥）附近
同 岐阜公園（東海道本線 岐阜）四粁 電車あり
同 石戸の蒲櫻（高崎線 鴻巣）六粁 自動車あり
同 岡堰（常磐鐵道 寺原）一粁八
同 日和山公園（東北本線 石巻）一粁三
同 高岡（北陸本線 高岡）附近
同 五稜廓（函館本線 函館）電車あり
同 圓應寺（長崎本線 武雄）附近
同 駒止櫻（富士身延鐵道 大宮）一粁 自動車あり

前頭 姫山公園（山陽本線 姫山）一粁一
同 志布志公園（美禰線 西鶴）四粁 自動車あり
同 德佐八幡宮（山口線 德佐）一〇〇米
同 勢至公園（羽越線 金浦）一粁
同 鶴岡公園（羽越線 鶴岡）二粁
同 倉見の櫻（羽越線 倉見）附近
同 友部（常磐線 友部）附近
同 舞鶴公園（舞鶴線 舞鶴）三〇〇米
同 櫻淵（豐川鐵道 豐川）附近
同 壺坂寺（大阪電車 壺坂山）三粁 自動車あり
同 千歲公園（山陽本線 山陽）一粁
同 有珠善光寺（長崎線 有珠）一粁
同 衣笠城址（横須賀線 横須賀）二粁半 自動車あり

大關 南部（岡）（紀勢西線）近
同 關脇 熱海（海線）近
同 小結 白國野（但線）近
前頭 青谷（青谷梅林會場）近
同 池田（池之坊）近
同 新宰府（太宰府軌道）近
同 北濱（海岸）近
同 杉田（横濱市電）近
同 久地（京阪電鐵久地梅林）近
同 梅仙窟（京阪電鐵大津線）近
同 原村（目黒蒲田電車）近

前頭 枚岡（大軌電車）近
同 日永（伊勢電）近
同 永照寺（宮之城線）
同 長岡天神（新京阪鐵道）近
同 大井關（南海鐵道）近
同 養老公園（伊勢電鐵養老）
同 畑一ツ松（東武鐵道）
同 梅屋敷（京濱電鐵）近
同 寶梅園（大軌電車）近
同 北高安（大軌電車）近
同 鷹塚山（京阪電氣鐵道）近
同 水戸第二公園（水戸）

前頭 唐原（宇島鐵道）
同 小峯公園（小田原）
同 月知梅（入間）
同 師梅（肥薩）
同 蟠龍梅（吉松）
同 開善寺（伊都電氣鐵道）
同 蒲田梅屋敷（京濱電鐵）近
同 修善寺（駿豆鐵道）
同 潜龍梅（大牟田）
同 鴛宿梅（京都市電）

蒙御免 全國梅の名所番附

行司 常磐公園（常磐線）（花期公園下車二粁便ヲ設ケル）

年寄 月ヶ瀬（關西本線一粁六）

元進勳 鐵道省

大關 賀名生（五條驛）（和歌山線八粁自動車あり）
關脇 吉野梅林（櫻ノ名所）（東武鐵道來上線一粁自動車あり）
小結 新月ヶ瀬（越生）（東武鐵道來上線一粁自動車あり）
前頭 金龍寺梅（南海鐵道二粁）
同 藤川天神（鹿兒島線一粁）
同 本岡（鹿兒島線一粁）
同 大勢樓（伊賀鐵道一〇〇米）
同 香山園（山口線一粁）
同 壽館（近江鐵道）
同 岡野公園（東海道線五粁自動車あり）
同 小向（目黒蒲田電車）

前頭 北野天神（京都市電）
同 村矢（目黒蒲田電車）
同 越ヶ谷（東武鐵道）
同 松崎天神（山陽尾道）
同 坂本（京阪電鐵）
同 道明寺天神（大阪鐵道）
同 栗林公園（高徳）
同 篠ヶ谿（東海道線）
同 御香宮（京阪電鐵）
同 柿村（目黒蒲田電車）
同 大澤（東武鐵道）

前頭 奈良公園（關西線）
同 長壽寺（北陸線）
同 北代（北陸線）
同 三溪園（横濱市電）
同 箙の西野（山陽）
同 八木（山陽）
同 吉野臥龍梅（肥中線）
同 觀心寺（高野）
同 長嘯梅（京都市電）

蒙御免 全國躑躅の名所番附

行司 筑後久留米（國兒島本線一粁七）

年寄 保津川（山陰本線二粁六）

元進勳 鐵道省

大關 雲仙嶽（島原鐵道七粁）
關脇 霧島山（肥薩線一粁）
小結 甘利山（中央線）
前頭 館林（東武鐵道三粁）
同 阿賀ノ川（磐越西線）
同 祖谷溪（德島線）
同 碓氷峠（信越本線）

前頭 香落溪（伊賀鐵道七粁）
同 岡寺（吉野鐵道半粁）
同 春日野（關西本線一粁）
同 躑躅園（日豐本線）
同 岩殿山（東武鐵道）
同 長岡天神（東海道本線）
同 龜山公園（山口線）
同 小湧谷（福根登山電車）
同 帝釋峽（芸備鐵道二〇粁）
同 河内溪（東北本線）
同 五箇瀨川（日豐本線）
同 勝尾寺（阪神急行）
同 仙醉島（鳴門）
同 恐山（大湊）
同 筑波山（筑波鐵道）
同 稻荷山公園（西武鐵道）

大關 美しの森（中央本線）
關脇 那須黒磯（東北本線）
小結 硫黄山（硫黄鐵道）
前頭 兎和野原（八戸）
同 赤城山（兩毛線）
同 久住高原（豐肥本線）
同 淡輪遊園（南海鐵道）
同 大石茶屋（富士山麓電鐵）
同 滝岩溪（上野）
同 六甲山（阪神急行）
同 平（近江）
同 廣田山（西宮東口）
同 松井神社（肥薩）
同 篠（豐肥本線）
同 天龍川（天龍峽）
同 犬山（名古屋）

前頭 義山（信越本線）
同 大廣寺（飯山）
同 興聖寺（京阪電鐵）
同 最明寺瀧（羽越本線）
同 貯水池（武藏野鐵道）
同 四條畷（四條畷）
同 磐船神社（河内）
同 張山（伊賀）
同 寺（宇治）
同 名張川（伊賀）
同 寶登山（秩父鐵道）
同 天覽山（武藏野）

前頭 妙義山（信越本線）
同 大石茶屋（富士山麓電鐵）
同 滝岩溪（上野）
同 六甲山（阪神急行）
同 久住高原（豐肥本線）
同 淡輪遊園（南海鐵道）
同 畑（草津線）
同 平（近江）
同 夏井川（磐越東線）
同 石森（中央本線）

前頭 蹴鞠山（飯山線）
同 石山寺（東海道本線）
同 鬼怒川（下野電鐵）
同 信太山（南海鐵道）
同 玉手山（大阪鐵道）
同 瀧根山（福根登山電車）
同 篠川（豐肥本線）
同 松井神社（肥薩）
同 犬山（名古屋）

前頭 養老公園（伊勢電鐵養老）
同 常磐公園（常磐本線）
同 天子ヶ嶽（富士身延鐵道）
同 八丁河原（紀州鐵道）
同 運動（北總鐵道）
同 着山（兩毛線）
同 蹴鞠寺（山陽本線）
同 景ケ島（東海道本線）

前頭 長峯公園（東北本線）
同 草津溫泉（草津溫泉電鐵）
同 勝尾寺（阪神急行）
同 五箇瀨川（日豐本線）
同 帝釋峽（芸備鐵道二〇粁）
同 河内溪（東北本線）
同 仙醉島（鳴門）
同 恐山（大湊）
同 筑波山（筑波鐵道）
同 稻荷山公園（西武鐵道）

昭和五年三月二十五日印刷
昭和五年三月三十一日發行

鐵道省

印刷者　東京市下谷區二長町一番地
　　井上源之丞

印刷所　東京市下谷區二長町一番地
　　凸版印刷株式會社

全國牡丹の名所番附

大關　須賀川（岩代）（東北本線三軒　自動車あり）
關脇　長谷寺（總持）（總武線）一軒　一
小結　當麻寺（大和）（大軌電車）（二〇〇米）一軒
前頭　玉川牡丹園（鎌倉）（横須賀線）近
同　照川牡丹園（鎌倉）（江ノ電）近
前頭　堀田牡丹園（總武線）一軒　一
同　樂々園（吉祥寺）（中央線）近

全國桃の名所番附

大關　治倉（片町）（總武線）近
關脇　津（七尾）（七尾線）近
小結　阿田和（吉野）（大軌電車）一軒
前頭　倉木（島山）（山陽本線）（二一軒）
同　綱島（加賀）（北陸線）近
同　道明寺（大和）（大軌電車）近
同　美豆（京阪）（京阪電車）近
同　屋敷（神戸）（阪神電車）近
前頭　不二山（東武）（東武鐵道）（七〇〇米）
同　綱島（加賀）（北陸線）近
同　道明寺（大和）（大軌電車）近
同　美豆（京阪）（京阪電車）近
同　屋敷（神戸）（阪神電車）近

全國藤の名所番附

大關　波神社（中藤）（越後）（信越線）近
關脇　平等院（宇治）（奈良）（奈良線）一軒
小結　飯田（愛知）（愛知電鐵）（無）
前頭　砂信號所（東北）（東北本線）（四）（自動車あり）一軒
同　伊豆神社（東武）（東武鐵道）（ツヽジ）一軒
前頭　藤の森（肥後）（肥後）（北熊）（鹿兒島）一軒
同　亀井戸天神（武蔵）（東京）（東京市内）（電車あり）
同　清水谷公園（武蔵）（東京）（東京市内）（電車あり）
同　森津（尾張）（關西本線）（四）一軒

全國菖蒲の名所番附

大關　堀切（武蔵）（東武鐵道）（切）一軒
關脇　鶴岡公園（羽後）（羽越線）（二）（自動車あり）一軒
大關　吉野園（武蔵）（四ツ木）（三〇〇米）
關脇　谷（若松）（山陽本線）（八）一軒

全國牡丹の名所番附

大關　松戸（下總）（常磐線）一軒
關脇　蛇の鼻（岩代）（東北本線）二軒
小結　石光寺（大和）（大軌電車）（當麻）二軒
前頭　本山（攝津）（阪神電鐵）近
同　龜（田）（神中電鐵）（金澤八景）近
前頭　東海寺（武蔵）（京濱電車）近
同　木ノ部（下總）（總武本線）（田）二軒

全國藤の名所番附

大關　越智（越後）（信越線）近
關脇　谷（武藏）（東武鐵道）平軒
小結　河市（河内）（大阪電車）（四條畷）近
前頭　古塚（武藏）（東武鐵道）（一ノ割）一軒
同　藤川（下總）（總武本線）近
前頭　羽曳野（河内）（大軌電車）一軒
同　倉治（攝津）（京阪電鐵）（西）一軒
同　稻田（河内）（和泉）（南海電鐵）（堺）近
同　米久（攝津）（北攝）（三）近
同　百々園（攝津）（大阪）（千）近
同　古河（下野）（東北本線）近

全國菖蒲の名所番附

大關　羽越（越後）（羽越線）近
關脇　越ケ谷（武藏）（東武鐵道）平軒
小結　河田（河内）（大阪電車）（四條畷）近
前頭　市古（武藏）（東武鐵道）平軒
同　藤（下總）（總武本線）近
前頭　前頭（肥後）（肥後）（北熊）（鹿兒島）一軒
同　倉津（攝津）（關西本線）（四）一軒
同　治田（片町）（總武線）近
同　稻米（河内）（和泉）（南海電鐵）（堺）近
同　田久（攝津）（北攝）（三）近
同　園（攝津）（大阪）（千）近
同　河古（下野）（東北本線）近
大關　武藏（武藏）（東武鐵道）（切）一軒
關脇　鶴岡公園（羽後）（羽越線）（二）（自動車あり）一軒
大關　越中（越中）（越中鐵道）一軒
關脇　山平（城）（城北）（電車）近
小結　飯田（愛知）（愛知電鐵）（無）
前頭　砂信號所（東北）（東北本線）（四）（自動車あり）一軒
同　伊豆神社（東武）（東武鐵道）（ツヽジ）一軒
前頭　岡崎天神（東海）（東海道線）（岡崎）（電車あり）一軒
同　芝公園（武蔵）（東京）（東京市内）（電車あり）
同　住吉公園（河内）（南海電鐵）（住吉公園）近
同　福寺（阿波）（鳥井）近
同　月不見池（越後）（北陸本線）（四）（自動車あり）一軒
大關　武藏（武藏）（東武鐵道）（二）一軒
關脇　奈良公園（和泉）（奈良）（奈良線）一軒
小結　姫山公園（播磨）（山陽本線）（姫路）一軒
前頭　田野（播磨）（西）（姫路）近
同　天王寺公園（攝津）（關西本線）（天王寺）（八〇〇米）
同　（武藏）（東武鐵道）（自動車あり）一軒
同　（武藏）（東武鐵道）（自動車あり）一軒
同　（東京）（東京市内）（電車あり）
同　（東京）（東京市内）（電車あり）
同　津（尾張）（關西本線）（四）一軒

の搭る。

不せつ

けー

の鼻十

土手

加志。

地